

第2期裾野市スポーツ推進計画 (令和3～7年度)



令和3年3月

裾野市教育委員会

はじめに

スポーツは、わたしたちが健康で文化的な生涯を送るうえで欠かすことのできないものです。健康・体力づくりや、生きがいづくりといった心身両面にわたる効果だけではなく、子どもの健全育成、高齢者・障がい者の社会参加、地域住民の交流の促進、スポーツ産業の振興など、地域活性化の効果も期待できます。

本市では、「スポーツ基本法」ならびに国や県の計画を踏まえ、平成28年3月、本市のスポーツ推進体制の方向性を示すために「裾野市スポーツ推進計画」を策定しました。

この度改定した「第2期裾野市スポーツ推進計画」では、前計画の理念を継承しつつ、国や県の計画改定内容及び市民のニーズの変化などを踏まえ、市民一人一人がスポーツに親しむことができる環境づくりと、市民スポーツの振興と交流人口・関係人口の拡大を基本理念とし、計画の見直しを行いました。

本市では、「新成人者祝賀駅伝大会」や「富士裾野高原マラソン大会」などのスポーツイベントが開催され、多くの人に親しまれております。また、近年では、富士山麓の自然環境を活かしたスポーツ合宿等の誘致活動により市外からも多くの人が本市を訪れていただいております。スポーツにはまち全体を元気にする大きな力があり、本市の魅力を広く発信する機会として、スポーツによるまちづくりを進めていくことが期待されています。

これらのスポーツへの関心の高まりとともに、市民の誰もが生涯を通じ健康に暮らせるよう、身近な地域でスポーツ活動を行うことができる環境づくりの推進と、市内外からスポーツ活動に参加できる取組の推進に力を注いでまいりたいと考えております。

結びに、本計画策定にあたりご尽力いただきました「裾野市スポーツ推進審議会」の皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼を申し上げますとともに、計画の実現に向けて、市民の皆様の一層のご理解とご協力を賜れますよう、お願い申し上げます。

令和3年3月

裾野市教育委員会 教育長

風 間 忠 純

<目次>

序章

1	計画見直しの背景・趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	2

第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題..... 3

1	裾野市スポーツ推進計画（平成28年～令和2年度）の目標達成状況.....	3
2	生涯スポーツの推進の現状と課題.....	4
3	スポーツ関連施設の現状と課題.....	9
4	スポーツツーリズムの現状と課題.....	10

第2章 目標と課題項目の設定..... 11

1	基本構想	11
2	課題項目	11
3	計画目標	13
4	進行管理	13

第3章 施策の展開..... 15

1	生涯スポーツの推進	15
2	スポーツ関連施設の整備	23
3	スポーツツーリズムの推進	24

【資料集】

資料1	用語集	28
資料2	令和元年度裾野市市民意識調査（抜粋）	30
資料3	令和元年度裾野市教育に関するアンケート調査（抜粋）	36
資料4	令和元年度裾野市生活習慣等に関するアンケート調査（抜粋）	74
資料5	市内公共スポーツ施設の利用状況推移	110
資料6	裾野市スポーツ推進審議会条例	111

序章

1 計画見直しの背景・趣旨

平成23年に施行された「スポーツ基本法」には、都道府県および市町村の教育委員会は、「スポーツ基本計画」を参酌し、地方の実情に即したスポーツ推進に関する計画を定めるよう努める旨の規定があり、静岡県においても平成26年7月、「静岡県スポーツ振興計画」が9年ぶりに見直され、「静岡県スポーツ推進計画」が策定されました。

スポーツを巡るこれらの動きを受け、当市のスポーツ推進の基本的な方向性を示すため、平成16年3月に策定された「裾野市スポーツ振興計画」を見直し、平成28年3月に「裾野市スポーツ推進計画」を策定しました。この計画は、平成28年度から5年間を見据え、「する」「観る」「支える」という三つの視点で、「体力づくりと健康な身体づくり」「スポーツ活動の推進」「スポーツツーリズムの促進」の三つの課題項目を設定し、市民のスポーツ推進に関する各施策を実施してきました。

計画期間中には、国では、「スポーツ基本法」に基づき、平成29年3月に「第2期スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ参画人口を拡大し、他分野との連携・協力により「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことを基本方針として示しました。静岡県においても、平成30年3月に「静岡県スポーツ推進計画」が改定され、県民にとってスポーツが、富士山のように、日本一の高みと、美しく広がる裾野を併せ持ち、多くの人を惹きつけるものになることを目標とし、「スポーツの聖地づくり」という新たな理念を示しました。

この度、当市においても5年間の計画期間を終えることから、国や県の計画内容や、「第5次裾野市総合計画」及び「第2期裾野市教育振興基本計画」の内容を踏まえて、市民が生涯を通じてよりスポーツに親しめる機会の提供と、スポーツを通じた地域活性化が図れるよう、計画の見直しを行いました。

2 計画の位置づけ

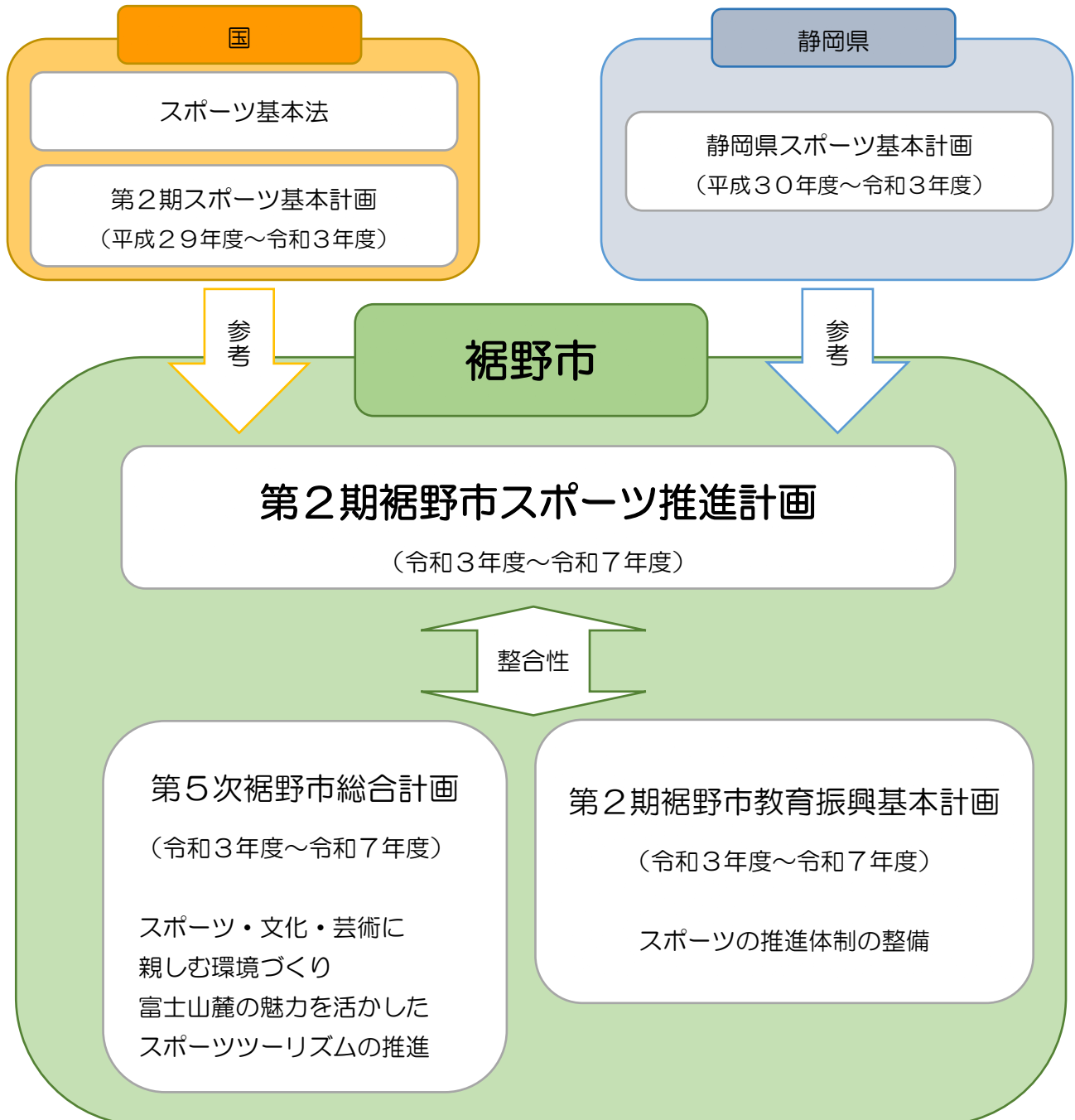
「第5次裾野市総合計画」では、教育分野においては『スポーツ・文化・芸術に親しむ環境づくり』、産業分野においては『富士山麓の魅力を活かしたスポーツツーリズムの推進』を目標としています。また、「第2期裾野市教育振興基本計画」では、スポーツの推進体制の整備を基本施策に掲げています。

これらの主旨に従って、スポーツ推進体制を整備するための目標と施策を指し示すものです。

3 計画の期間

本計画は、「第5次裾野市総合計画」、「第2期裾野市教育振興基本計画」に合わせ、令和3年度から令和7年度までの5年間の計画とします。

なお、本計画は教育環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間中でも見直しを図ることがあります。



裾野市スポーツ推進計画策定フロー図

第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題

1 裾野市スポーツ推進計画（平成28年～令和2年度）の目標達成状況

平成28年度から5年間を計画期間とした「裾野市スポーツ推進計画」では、幼少期からの体力づくりや健康な身体づくり、スポーツ・レクリエーション*活動の推進、スポーツツーリズム*の促進を掲げました。これらの基本構想を達成するための3つの計画目標ごとに、これまでの取組を検証します。

（1）30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合

ウォーキングなど手軽にできる生涯スポーツの啓発や、自宅でできる簡単なトレーニングの情報提供を行い、平成28年度以降、ほぼ横ばいに推移していますが、令和元年度は目標の50%を下回りました。

(%)

目標値	H27(参考)	H28	H29	H30	R1
50	48.8	51.0	53.7	50.7	49.7

(裾野市市民意識調査)

（2）市内公共スポーツ施設の年間利用者数

年齢や障がいの有無、性別など、様々なニーズに応じたスポーツ教室の開催や、学校体育施設開放事業により、平成29年度に目標の40万人を達成し、平成30年度、令和元年度は更に増加しました。

(人)

目標値	H27(参考)	H28	H29	H30	R1
400,000	307,710	383,449	403,607	420,518	424,772

(市内公共スポーツ施設と学校体育施設の利用者計)

（3）市内宿泊者数

富士裾野高原マラソンなど、全国から多くの参加者が集まるイベントの開催や、スポーツ合宿や競技大会の積極的な誘致により、平成30年度に目標の13万人を達成し、令和元年度は更に増加しました。

(人)

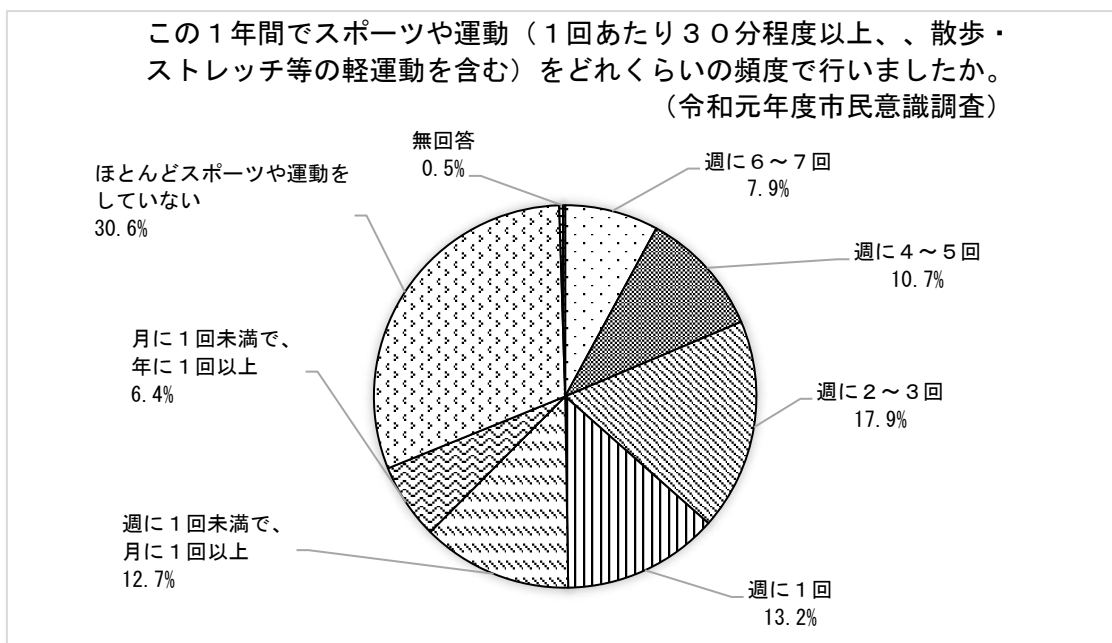
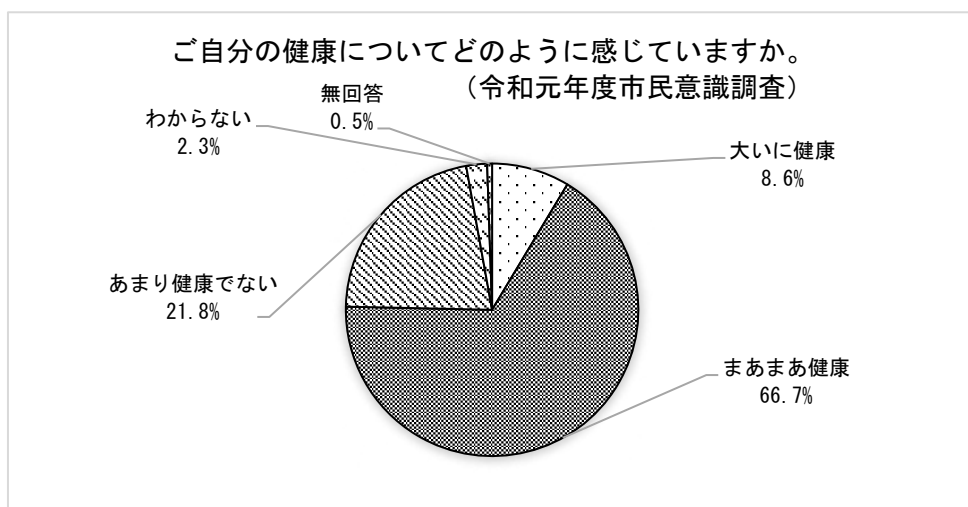
目標値	H27(参考)	H28	H29	H30	R1
130,000	117,347	121,900	124,180	155,621	159,725

(静岡県観光入込客数調査)

2 生涯スポーツの推進の現状と課題

(1) 運動習慣の定着と拡大

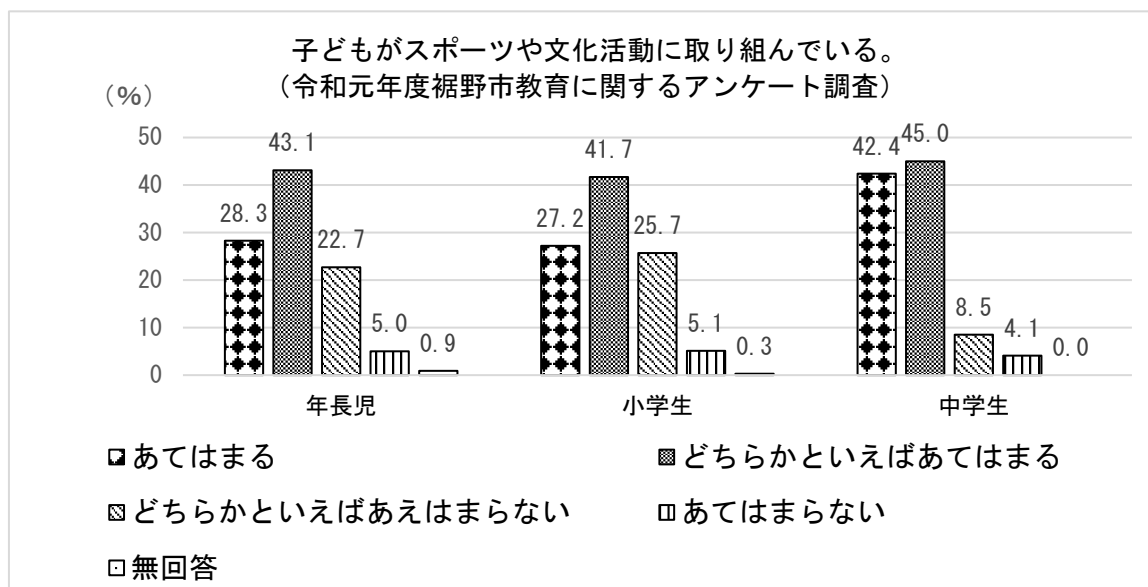
令和元年度実施の「裾野市市民意識調査」（以下市民意識調査）によると、回答者の75.3%が「大いに健康」または「まあまあ健康」と回答していますが、一方で21.8%が「あまり健康でない」と回答しています。スポーツや運動の頻度については、49.7%が「週に1回以上スポーツや運動をしている」と回答していますが、30.6%が「ほとんどスポーツや運動をしていない」と回答しています。今後さらなる運動習慣の定着を図っていくことが求められます。



(2) 児童生徒の体力・身体の育成

令和元年度実施の「裾野市教育に関するアンケート調査」(以下教育アンケート調査)によると、子ども*の普段の様子について、年長児保護者の71.4%、小学生保護者の68.9%、中学生保護者の87.4%がスポーツや文化活動に取り組んでいると回答しています。一方、年長児保護者の27.7%、小学生保護者の30.8%、中学生保護者の12.6%がスポーツや文化活動に取り組んでいないと回答しており、子どもの年代によって体を動かす頻度に差があることがわかります。

運動不足による様々な健康への不安や、子どもが成長する過程における体力・運動能力の低下の解消が求められており、子どものときからスポーツに親しむ環境、そして、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する必要があります。

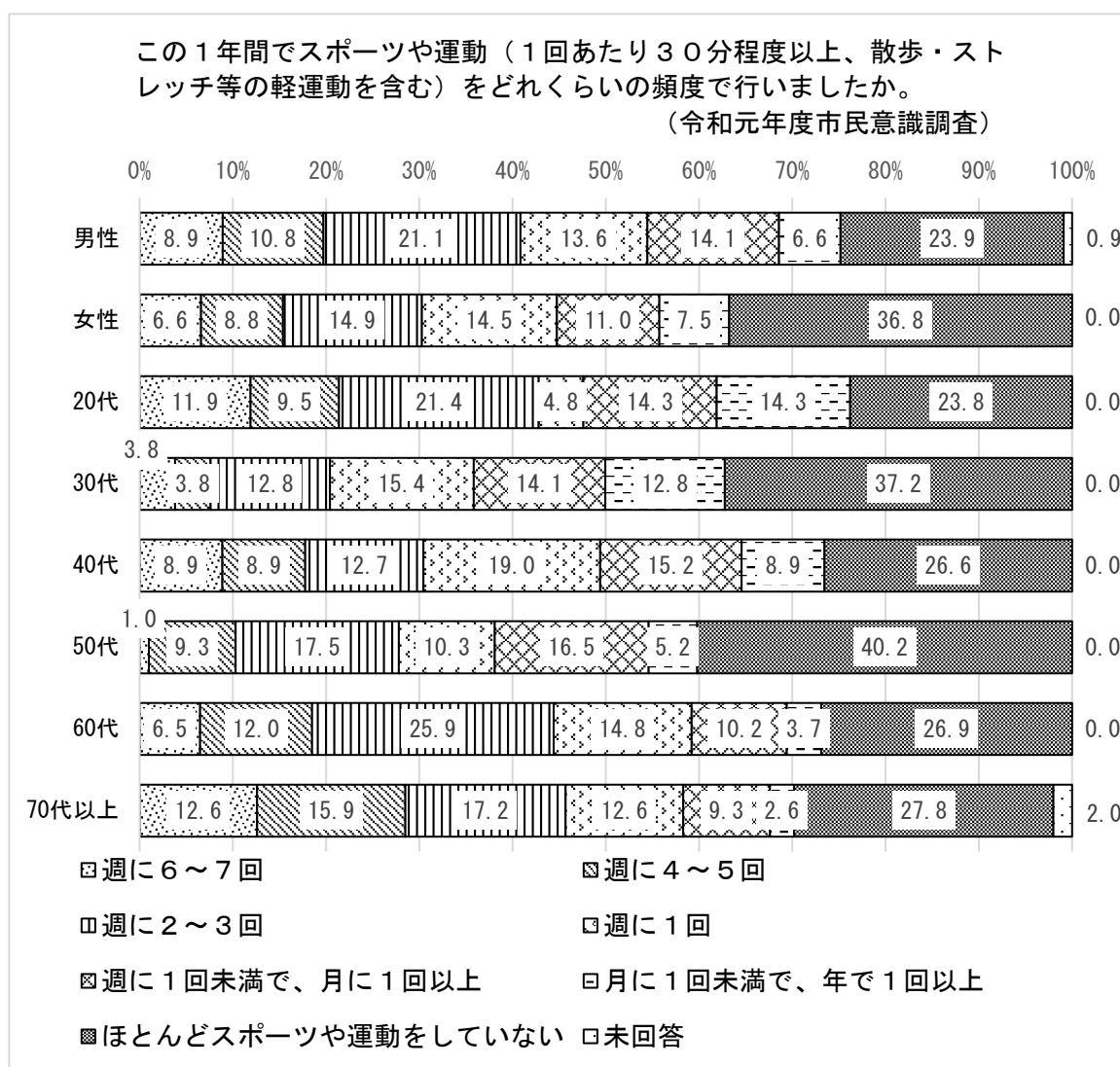


(3) スポーツを通じた多様性のある社会の実現

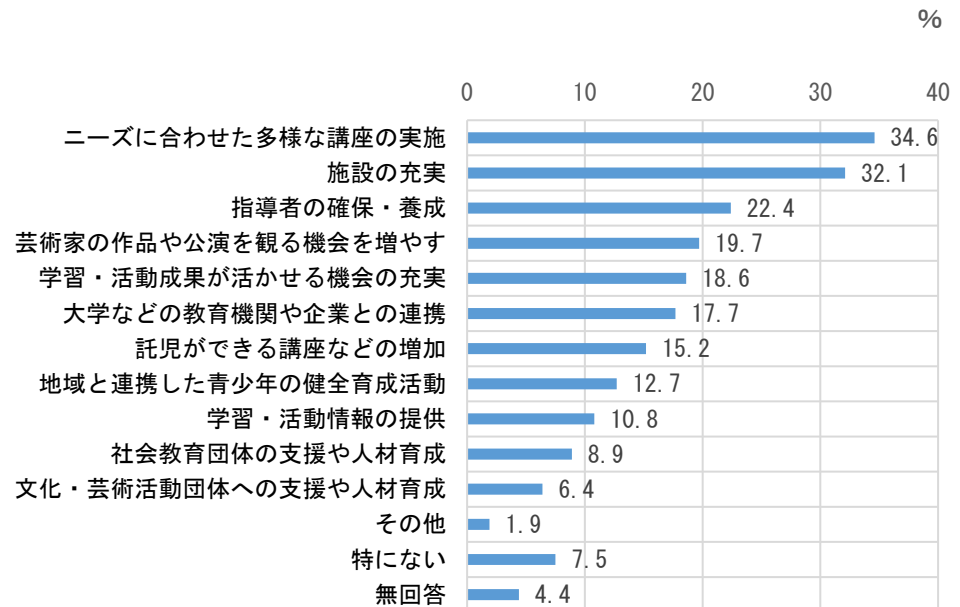
市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ機会を増やすために、保健・福祉分野との連携により、高齢者の健康・体力づくりや、障がい者スポーツ*に親しむことができる環境づくりを推進する必要があります。

市民意識調査によると、男女別では女性（36.8%）が、年代別では30代（37.2%）と50代（40.2%）のスポーツ実施率が低いことがわかります。仕事や育児により多忙な世代にもスポーツに取り組む習慣を定着させる必要があります。

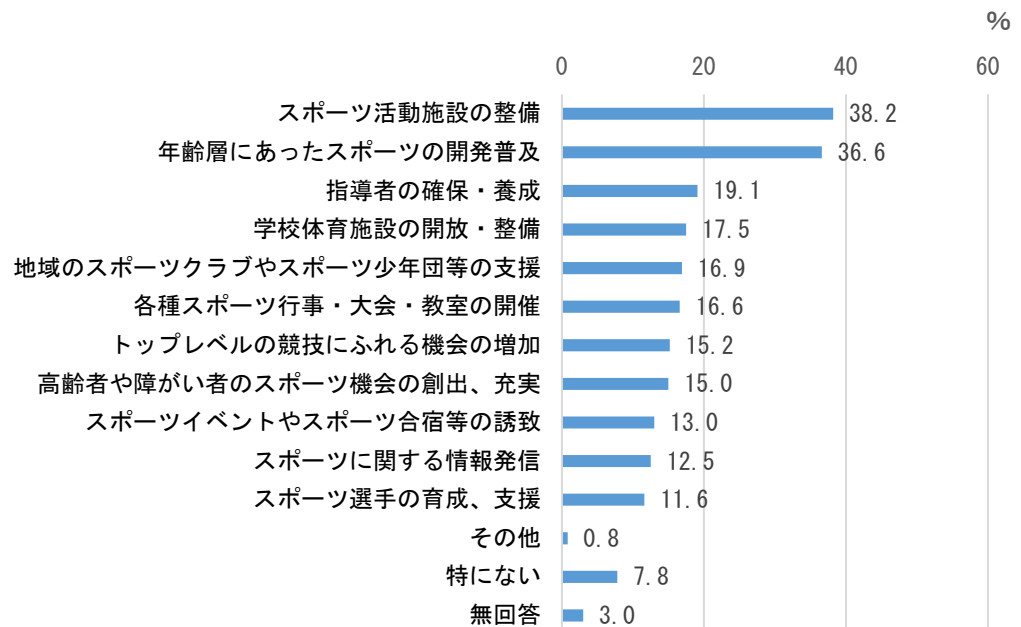
また、教育アンケート調査によると、市が特に力を入れて行う必要がある生涯学習に関する施策として、「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が34.6%と最も高く、市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動に関する施策として、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が36.6%と高くなっており、多様なニーズに応えるスポーツ機会の提供が求められています。



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（生涯学習）
（令和元年度裾野市教育に関するアンケート調査）



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（スポーツ活動）
（令和元年度裾野市教育に関するアンケート調査）



(4) 地域スポーツ環境の整備

市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するために、スポーツ推進委員*や各地区の体育委員会*、スポーツ関係団体により、競技スポーツからレクリエーションスポーツまで、幅広いスポーツ大会や教室が開催されています。また、各競技団体や各種団体が行う事業活動に対し支援を行っています。具体的には、全国大会等に出場する団体や選手に対する奨励金、広報等による市内外へのPR活動を行っています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会*をはじめ、国内において世界的なスポーツイベントが数多く開催されようとしている今日、さらなるスポーツ振興の契機として、本市における競技スポーツ全体の活性化と競技力向上を目指し、各種団体が実施する選手強化事業に対する支援の一層の充実を図ることが求められます。

また、だれもが体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、スポーツに親しむことができる総合型地域スポーツクラブ*の育成・支援を図ることが求められています。

各種補助金

内容	対象
<u>スポーツ振興事業補助金</u> 市民スポーツを推進するため、生涯スポーツ事業等を実施する団体に交付	・NPO法人裾野市スポーツ協会 ・NPO法人裾野市スポーツ協会加盟団体が主催するスポーツ大会、スポーツ教室の開催 ・富士裾野高原マラソン事業 ・各地区で実施するスポーツ推進事業 - 他
<u>スポーツ選手大会出場奨励金</u> 東海大会以上の各種競技大会に出場する選手に対し、奨励金を交付	・オリンピック・パラリンピック ・世界大会・アジア大会等 ・全国大会 ・東海大会（東日本大会等を含む）
<u>地区小運動場設置補助金</u> 地区民のスポーツ推進の場として、区が小運動場を設置する場合に交付	・借地料 ・整備費
<u>スポーツ指導者養成補助金</u> スポーツの基礎的な知識、技術等を指導する公認資格を有する指導者を養成し、市民スポーツの推進を図ろうとする団体へ交付	・スポーツ指導員講習受講に要する経費 - 他

3 スポーツ関連施設の現状と課題

(1) 市内公共スポーツ施設の整備

市内の公共スポーツ施設は、運動公園や、市民体育館、総合グラウンド等があり、長年、市民スポーツの拠点として親しまれています。しかし、年数の経過により建物や設備は老朽化が進むため、計画的な改修等が必要であるとともに、障がい者スポーツの振興を視野に入れたユニバーサルデザイン*の導入等が求められます。

教育アンケート調査によると、「市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動に関する施策」として、「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が38.2%ともっとも高く、市民が快適にスポーツを楽しむことができるよう、既存施設の環境整備を図り、効率的な利用を促進することが求められています。

公共スポーツ施設一覧

施設名称	内容
裾野市民体育館	・アリーナ（バスケットボールコート、バレーボールコート、バドミントンコート） ・柔道場・剣道場・トレーニング室 ・卓球場・テニスコート・多目的ルーム ・小会議室・健康増進ルーム
裾野市運動公園	・陸上競技場・野球場・テニスコート・多目的広場 ・芝生の丘・やすらぎの広場
総合グラウンド	・Aグラウンド（軟式野球場）・Bグラウンド（ソフトボール場）・Cグラウンド（ソフトボール場）・多目的競技場
須山テニス・フットサル場	・テニスコート・フットサルコート
深良グラウンド	・多目的グラウンド

(2) 学校体育施設開放事業の充実

市内学校施設で行っている学校体育施設開放事業*は、市民の自発的なスポーツ活動の拠点として、また、住民によるまちづくり活動の場として多くの利用があります。利用者による自主管理を促進するとともに、限られた開放時間・施設容量の中で、増大する需要を調整し、だれもが利用しやすい運営体制の整備に取り組む必要があります。

4 スポーツツーリズムの現状と課題

(1) スポーツ合宿等の誘致

現在、当市では、富士山麓の立地特性を活かしたスポーツ合宿誘致を推進しており、年間延べ約1,500人が市で新たに誘致した合宿により宿泊をしています。また、サイクリングやランニングなどのイベントに、年間延べ約3,000人の参加者が訪れています。スポーツ合宿等の積極的な誘致により、当市の魅力をスポーツによっても広く知らしめるために、宿泊施設等の受け入れ体制の整備や市民とアスリートとの交流事業の実施等を進める必要があります。

(2) 東京2020オリンピック自転車競技ロードレースの開催

当市において東京2020オリンピック自転車競技ロードレース大会が開催されることを機に、トップレベルのスポーツ観戦やスポーツイベントの開催を通じた市民のスポーツに対する興味・関心の向上や、イベント後も継続的に当市を訪れる人たちとの交流拡大などを図っていく必要があります。



第2章 目標と課題項目の設定

1 基本構想

「第2期裾野市教育振興基本計画」でうたわれる基本理念「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」を実現するため、市民一人一人がスポーツに親しむことができる環境づくりを目指します。

さらに、スポーツツーリズムを推進し、市民スポーツの振興と、スポーツを通じて当市を訪れる人たちとの交流拡大を図ります。

2 課題項目

上記の基本構想を達成するため、3つの課題項目を定めます。また、各課題項目達成のため、それぞれ小項目を設定します。

(1) 生涯スポーツの推進

年齢性別や障がいの有無、支援の程度にかかわらず、誰もがスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ教室の開催等を通じ、市民のスポーツ参加意欲の高揚を図り、市民の自発的なスポーツ活動の育成や関係諸団体への支援を行います。

- ・運動習慣の定着と拡大
- ・子どもたちの体力向上
- ・世代や障がいの程度に応じたスポーツ機会の創出、充実
- ・地域スポーツ環境の整備

(2) スポーツ関連施設の整備・充実

スポーツ施設の老朽化に伴い、計画的な整備・改修、長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図ります。

- ・各スポーツ施設の整備
- ・学校体育施設開放事業の充実

(3) スポーツツーリズムの推進

富士山麓の立地特性を活かしたスポーツ合宿等を誘致するため、宿泊施設等の受け入れ体制の整備や市民とアスリートとの交流事業を実施します。また、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのレガシー*創出に係る取組を推進し、市民スポーツの振興と交流人口・関係人口の拡大を目指します。

- ・スポーツ合宿等の誘致
- ・東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシーの創出



水ヶ塚公園クロスカントリーコース

3 計画目標

令和7年度までに以下目標の達成を目指します。また、この目標を達成するために、第3章の各項目において具体目標を設定します。

(1) 週1回以上の運動習慣のある市民の割合 65%

(令和元年度 49.7%)

競技スポーツや激しい有酸素運動に限らず、簡単なストレッチやウォーキングでも、定期的続けることにより体力向上と健康増進につながります。子どもからスポーツや運動に親しむ機会を充実し、手軽な運動方法や運動ができる場所の情報を発信することで、市民の運動習慣の定着、拡大を目指します。

(2) 市内の公共スポーツ施設の年間利用者数 450,000人

(令和元年度 424,772人)

市内の公共スポーツ施設を積極的に活用し、スポーツ教室やイベント、人材育成を通じて市民のスポーツ活動の支援を行い、すべての市民が、世代や障がいの有無にかかわらず、スポーツに親しめる環境の創出を目指します。

(3) スポーツイベント参加者数 3,300人

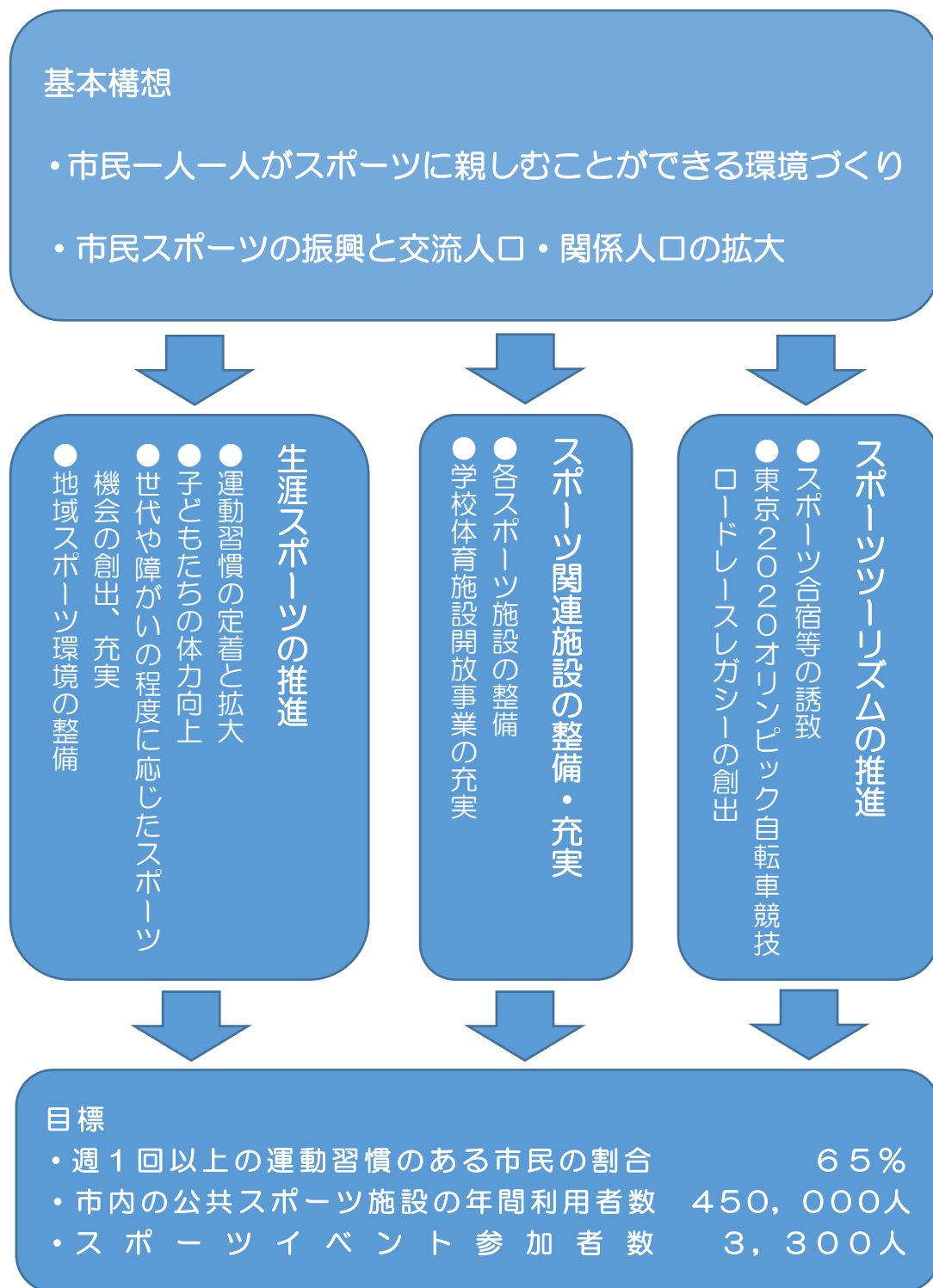
(令和元年度 3,014人)

当市が東京2020オリンピック自転車競技ロードレースの会場となったことを機に、トップレベルのスポーツ観戦を通じた市民のスポーツに対する興味や関心の向上、当市を訪れる人たちとの交流拡大などを図ります。

4 進行管理

目標の「30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合」については毎年度行われる市民意識調査にて、「市内の公共スポーツ施設の年間利用者数」については年度ごとの各施設の延べ利用者数の合計にて、また「スポーツイベント参加者数」については、富士裾野高原マラソン等の市内で開催される地域経済活性化、交流人口・関係人口拡大に資するスポーツ大会、スポーツイベントの参加者数の合計にて目標達成度を判断し、進行具合に鑑み具体的な施策を展開していきます。

第2期裾野市スポーツ推進計画目標フロー図



第3章 施策の展開

1 生涯スポーツの推進

(1) 運動習慣の定着と拡大

① 自宅で簡単にできる運動や、レクリエーション運動についての情報を積極的に提供します。【生涯学習課】

短い時間に行える簡単な運動やレクリエーション運動や、手軽なフィットネス*等の情報を積極的に提供することで、運動する時間がなかなか取れない市民も体を動かす機会を増やせるよう、支援を行います。

また、市公式ウェブサイト等に動画や写真を掲載することで、視覚的にもわかりやすい情報の提供を目指します。

② 手軽にできるウォーキングを習慣化するために市内ウォーキングコースやウォーキング事業の周知を図ります。【健康推進課】

(関連計画：すその健康増進プラン)

一人でも気軽に楽しめるウォーキングを習慣化するために、市公式ウェブサイトや広報紙に市内ウォーキングコースや運動教室について情報を掲載し、市民の運動への取組を支援します。

●具体目標

- ・市公式ウェブサイト等に情報紹介ページを設け、年1回以上更新します。



すそのんと歩くのんびりウォーキングマップ

(2) 子どもたちの体力向上

① スポーツ少年団等の活動を支援し、子どもが自分のレベル・目標に合わせた運動やトレーニングが行える場の充実を目指します。【生涯学習課】

技術の向上を目的としたスポーツ少年団やクラブチーム、楽しみながら体を動かし、スポーツに取り組むきっかけを提供するスポーツ教室等の活動を支援し、子どもが自身のレベル・目標に合わせて活動することができる場の充実を目指します。また、子ども向けの様々なトレーニング手法の情報収集に努め、子どもたちの健康増進に取り組み、同時に健康な心を培い、頑張る力、持続する力を養います。

② 幼児期のスポーツ体験機会の充実を目指します。【生涯学習課】

幼児期の体を動かした遊びの経験は、将来、スポーツを継続的に行うための大切な要素となります。子どもたちが運動習慣を身に付けるために、スポーツ団体や各種団体、民間事業者と連携し、幼児期から必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うことができるよう、運動遊び等のスポーツ体験機会の充実を目指します。

③ 子ども一人一人に対し適切な指導が行える人材の育成を目指し、指導者講習会等を実施し、指導者育成に努めます。【生涯学習課】

子どもたち一人一人に対し、年代に応じてそれぞれ適切な指導が行える人材は多くありません。素晴らしい指導者との出会いは、子どもたちの技術の向上のみならず、人間形成においても大きな影響を与えます。地域やスポーツ団体等と連携し、適切な知識を身に付けた指導者の育成を目的とした講習会の開催等、指導者育成に努めます。

④ 子どもたちがトップレベルのプレーに親しむ機会の創出に努めます。【生涯学習課】

憧れのアスリートに触れ合い、話を聞き、トップレベルのスキルを目の前で見るとは、子どもたちのスポーツに対する意欲と競技力の向上に大きく寄与します。子どもたちがスポーツに対する好奇心を高め、将来への夢や希望を持って成長できるよう、トップレベルのプレーを間近に体験することができる機会を創出します。

●具体目標

- ・ スポーツ協会加盟団体が主催するスポーツ教室・スポーツ大会を年間10回以上開催することを目指します。（令和元年度 9回）
- ・ 子どもの基礎的運動能力の向上を目指すため、成長段階に応じた教室を企画し、定期的な開催を目指します。
- ・ 指導者が子ども一人一人に適切な指導を行うための講習会等の参加を支援します。
- ・ 子どもたちがアスリートや著名指導者と触れ合うイベントを、年間1回以上開催することを目指します。



SOMPO ボールゲームフェスタ in 裾野

（３）世代や障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

① 幅広いニーズに対応するスポーツ教室を実施し、様々な年齢層の市民がスポーツを通して交流できる場の創出を目指します。【生涯学習課】

現在、スポーツの場においても様々な要望やニーズが生まれています。スポーツ教室に関しては、内容、実施日時、周知方法等を工夫した多彩なプログラムを提供するとともに、安全・安心を基盤としたサービスの向上に努め、幅広い年齢層の市民がスポーツを通じて交流できる場を創出し、生涯スポーツの推進を目指します。

② スポーツを行う習慣が少ないビジネスパーソンや子育て世代も自然に体を動かせる機会の創出に努めます。【生涯学習課】

仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。運動不足になりがちな働き盛りの世代や子育て世代が、仕事や家事、育児によりスポーツをする習慣を絶たれることのないよう、多種多様なニーズに合わせたスポーツ機会の創出を目指します。

③ 介護予防サロン*や高齢者向けの介護予防教室などを開催し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。【介護保険課】

(関連計画：裾野市介護保険事業計画)

本格的な高齢社会を迎える中、高齢者が生きがいを持ち自立して暮らすためには、仲間とともにスポーツができる場を提供することが必要となります。加齢からくる運動機能低下や、それらにより引き起こされる転倒・骨折や閉じこもりからくる更なる機能低下を起こさないようにするため、介護予防サロンや運動教室等を展開し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。

④ 65歳までを対象とした健康づくり教室等を開催します。【健康推進課】

(関連計画：すその健康増進プラン)

若いころから運動を行うことは、高齢になった際にも健康な体を維持するために非常に重要です。指定管理者と連携し、65歳までを対象としたウォーキング教室や活動量計を活用した運動教室等の健康づくり教室を開催し、将来の運動機能低下の予防を図ります。

⑤ 障がいの程度等に合わせた指導が行える人材の育成に取り組みます。【障がい福祉課】

障がい者スポーツを行ううえで、それぞれの障がいの程度等に合わせた指導が行える人材を確保することは、障がい者が安心してスポーツに取り組み、競技を楽しむために必要です。それぞれの障がいの程度等に合わせ、適切な指導が行える人材の育成に取り組みます。

⑥ 障がい者スポーツを推進するため、安全な運動場所や運動機会の確保に努めます。【障がい福祉課】

障がい者スポーツを推進するため、障がい者が安全にスポーツに取り組め

る運動環境の整備を目指します。障がい者を含め様々な人が利用できるよう整備されている運動公園や市民体育館を積極的に広報し、障がい者の利用を促進します。

また、運動機会確保のため障がい者団体等と協力し、障がいのある人が一人でも多く運動やスポーツに参加できるよう努めます。

⑦ 障がい者と健常者のスポーツを通じての交流を支援します。【障がい福祉課】

バリアフリー社会*、あるいはユニバーサル社会*の実現が叫ばれている現在、障がい者と健常者がともに手を取り合い、協力して社会をつくり上げていくことは、今後取り組むべき重要な課題のひとつとなっています。

また、障がい者スポーツはパラリンピックの開催などによって周知されつつあり、当市でも身体障がい者野球大会ドリームカップ*が開催され、年々注目を集めています。

地域や関係団体と協力し、障がい者と健常者のスポーツを通しての交流をさらに支援できるよう努めます。

●具体目標

- ・企業等と連携し、年齢や体力に関係なく、いつでも、どこでも楽しむことができ、誰とでも気軽に取り組むことができるスポーツ・レクリエーション活動を行える教室を企画し、開催することを目指します。
- ・ビジネスパーソンが休憩時間や終業後に気軽に取り組むことができるスポーツの情報を提供します。また、親子で参加できる教室の開催や、託児環境の整備など、子育て世代もスポーツをしやすい環境整備に努めます。
- ・65歳以上を対象とした介護予防サロン、教室等における機能維持向上のための講座開催を年間150回実施するよう目指します。（令和元年度139回）
- ・65歳までを対象とした講座・教室の年間延べ参加者数2,500人を目指します。（令和元年度2,135人）
- ・市民が心や身体の心配事やスポーツのことについて気軽に相談できるよう、相談窓口を設けます。
- ・障がい者スポーツ指導者講習会を開催し、障がい者スポーツの機会拡大を図ります。
- ・上記指導者講習会の成果を活用し、スポーツ教室を継続します。外出や運動機会の確保のみではなく、障がい者スポーツ大会などへ参加することも目標とします。

- ・障がい者と健常者の交流を支援できるよう、スポーツボランティア数を令和7年度までに150人まで増やすことを目指します。（令和元年度 108人）



運動スポーツ習慣化促進事業



身体障がい者野球大会 ドリームカップ

(4) 地域スポーツ環境の整備

- ① スポーツを通じた仲間づくりを目的にイベントを開催し、市民が楽しみながらスポーツを行い、社会参加できるよう支援します。【生涯学習課】

スポーツをともに行う仲間をつくることは、スポーツをより楽しみながら行えるだけではなく、社会参加や地域コミュニティの形成にもつながります。スポーツの仲間づくりを支援することで、スポーツの輪、地域の輪が広がるよう努めます。

- ② 世代間又は地域の交流や様々なスポーツ活動を行う場を創出し、スポーツを通じた地域活性化を図ります。【生涯学習課】

総合型地域スポーツクラブ（以下地域スポーツクラブ）は、年齢や障がいの有無に関わらず、多種目のスポーツを行う機会や場所を提供し、質の高い指導により個々のスポーツニーズに応じた活動ができるという大きな役割を担っています。地域スポーツクラブの情報の提供や活動を支援し、市民が自主的にスポーツに取り組めるような環境の整備に取り組みます。

- ③ 地域で活躍するリーダー育成を目的として、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。【生涯学習課】

スポーツ推進委員は、スポーツを推進する事業の実施における連絡や調整、地域住民に対する実技の指導や助言を行い、スポーツ施策を活発化させる役割を担っています。地域におけるスポーツ活動の充実を図るため、地域住民のニーズを踏まえたスポーツのコーディネーターという役割に対応できるよう、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。

- ④ スポーツ選手のモチベーションアップや技術向上を目的とし、各競技のトップレベルのアスリートや現役引退選手を招聘し、講演会や実技講習会を行う機会を創出します。【生涯学習課】

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するためには、競技技術だけではなく、メンタルトレーニングやモチベーションアップを行うことが求められます。選手のモチベーションアップや技術の向上を目的とし、各競技のトップレベルのアスリートや、現役を引退し現在はセカンドキャリアを歩んでいるアスリートを招聘し、講演会や実技講習会、交流会等を開催します。

⑤ 市内のスポーツ選手の活動を応援します。【生涯学習課】

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するために、国際大会や全国大会等に出場する団体や選手に対し奨励金を交付し、大会参加や競技に取り組む意欲の醸成を図ります。

●具体目標

- ・スポーツ推進委員と協力し、5地区のスポーツ教室を毎年開催することを目指します。
- ・スポーツ庁が策定した「第2期スポーツ基本計画」に基づき令和4年度から開始される総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度について、令和7年度までに1団体以上の登録・認証を目指します。
- ・スポーツ推進委員の資質向上を図るための講習会を定期的に開催します。また、国や県が開催する研修会への積極的な参加を促します。
- ・スポーツ選手が最新の技術や知識を学ぶための講演会や講習会等のイベントを、年間1回開催することを目指します。
- ・市公式ウェブサイト等で奨励金についての情報提供を行い、スポーツ選手の活動を応援します。また、優秀な成績を修めた選手について広報紙等で広く周知し、市民のスポーツ意識の醸成を図ります。



スポーツ教室（西地区）

2 スポーツ関連施設の整備・充実

(1) 各スポーツ施設の整備

市民が快適にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。【生涯学習課】

各スポーツ施設の整備について、様々な年代のあらゆる市民がスポーツに対する興味や関心をもち、多様な競技に親しめるよう、指定管理者と連携し関連施設の整備・充実を図ります。

●具体目標

- ・老朽化の進む既存スポーツ施設の計画的な整備・改修、長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図ります。



裾野市運動公園（野球場・ローラー滑り台）

(2) 学校体育施設開放事業の充実

学校体育施設開放事業により、既存の施設を有効活用し、広く市民にスポーツに親しむ機会を提供します。【生涯学習課】

市内小中学校の運動場と体育館を、学校教育に支障のない範囲で、地域の身近なスポーツ施設として開放します。地域スポーツ活動に必要な備品の整備や消耗品の購入等、施設の機能充実を図ります。

●具体目標

- ・学校体育施設開放事業の年間利用者延べ12万人を目指します。（令和元年度 110,703人）

3 スポーツツーリズムの推進

(1) スポーツ合宿等の誘致

- ① 富士山麓の準高地エリア*を活用したスポーツ合宿等の誘致に取り組みます。

【産業振興課】

(関連計画：裾野市産業基本計画)

当市の準高地環境、冷涼な気候、首都圏からのアクセスの良さは、トレーニング等に適した環境です。これらの地域資源を活かし、心肺能力の向上を必要とする陸上競技や、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシーを活用したサイクルスポーツ等の合宿等の誘致に取り組みます。

- ② スポーツ合宿の適地を目指し、受け入れ体制の整備を図ります。また、静岡県や近隣市町とも連携した合宿誘致等に取り組みます。【産業振興課】

当市スポーツツーリズム推進協議会及びその会員でもある市内宿泊施設やトレーニング施設と連携し、スポーツ合宿受け入れ体制の整備を行います。また、静岡県主催の富士山麓準高地トレーニング推進会議と連携し、近隣市町との連携体制づくりに協力します。

- ③ ソーシャル・ネットワーキング・サービス等、各種媒体によるスポーツ合宿の紹介の充実を図ります。【産業振興課】

スポーツを通じた当市の魅力を発信するためには、様々な媒体による積極的な情報発信が必要です。スポーツ合宿紹介資料や、スポーツ合宿紹介動画を各施設に配架し、当市が有する魅力的なスポーツ資源・観光資源についての効果的な発信を目指します。

- ④ スポーツイベントを実施し、市民がスポーツに親しむ機会を創出し、スポーツを目的に当市を訪れる人の増加を図ります。【産業振興課】

スポーツ目的の来訪を契機に、当市ならではの魅力的な自然や歴史・文化などを楽しむ観光への誘客を図ることを目的として、陸上教室、ランニングイベント等のスポーツイベントの実施、開催支援を行い、交流人口・関係人口の拡大を目指します。

●具体目標

- ・令和7年度までに、スポーツ合宿等で宿泊する年間延べ人数2,000人を目指します。（令和元年度 1,513人）
- ・ウェブサイト、ソーシャル・ネットワーキング・サービス等での情報提供の充実を図ります。



スポーツ合宿（準高地エリア）

（２）東京２０２０オリンピック自転車競技ロードレースレガシーの創出

- ① 東京２０２０オリンピック自転車競技ロードレースコースを一部利用したサイクリングコースを、市内外のサイクリストにPRし、集客を図ります。【産業振興課】

東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会は、当市のスポーツツーリズムの将来にも関係する世界最大のスポーツの祭典です。当市で設定したサイクリングコースの情報を発信し認知度を上げて、積極的な活用をPRします。また、サイクリングイベント等を実施し、市民の自転車競技への意欲の醸成と、サイクリングコースの利用者の増加を目指します。

- ② 市内のバイシクルピット*やS－station*の設置数を増やし、設置場所の情報を発信することで、利用の促進を図ります。【産業振興課】

静岡県では、東京オリンピック自転車競技ロードレースの開催を契機として、「サイクルスポーツの聖地」の実現を目指しています。当市においてもサイクリスト、ランナー、ウォーカー等のスポーツ愛好家を積極的に歓迎するため、バイシクルピットやS - s t a t i o nを立ち寄りやすい場所に設置します。また、設置場所の情報を発信することで、利用の促進を図ります。

●具体目標

- ・令和7年度までに、サイクリングコース登録アプリ内での裾野市コース利用者数100人以上を目指します。（令和2年度新規事業）
- ・令和7年度までに、2つのサイクリングコースを設定し、イベントや市公式ウェブサイト等でPR及び利用の促進を図ります。



すそのガイドサイクリングツアー

【資料集】



資料 1 用語集

S－station（25，26頁）

サイクリスト、ランナー、ウォーカー等のスポーツ愛好家を歓迎するための立ち寄り及び休憩スポット（ステーション）。荷物の預かり、着替え、風呂・シャワー、食事、お土産販売、道案内、自転車修理用の工具や空気入れの貸し出しサービスの提供を行う。「S」は「SUSONO」と「SPORTS」の頭文字。

介護予防サロン（16，18頁）

市内の65歳以上の高齢者を対象とした、簡単な体操やレクリエーションなどを通して、高齢者同士の交流を図る事業。各地区で月1回程度開催している。

学校体育施設開放事業（9，21頁）

学校教育活動に支障のない範囲で、市立小中学校の体育施設を広く開放し、市民のスポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進するための事業。

子ども（5，11，15，16頁）

本計画における「子ども」とは、概ね18歳までの乳幼児期、学童期、思春期の発達段階を想定。

障がい者スポーツ（6，17，18頁）

身体障がいや知的障がいなどの障がいがある人が行うスポーツ。

スポーツ推進委員（8，19，20頁）

市のスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整や、住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導、助言を行う非常勤職員。

スポーツツーリズム（3，10，11，12，22，23頁）

スポーツ観光を通じ、スポーツイベントの観戦者や参加者と、開催地周辺の観光を融合して、交流人口・関係人口の拡大や経済波及効果を目指す取組。

総合型地域スポーツクラブ（8，19，20頁）

地域住民自らが、多世代、多種目にわたり、様々な指向、レベルに合わせて、身近な地域でスポーツを楽しむことを目指して運営する地域密着型のスポーツクラブ。平成7年度から文部科学省が進めている。当市には現在3団体が登録されている。クラブの質的充実を目指すため、令和4年度から登録・認証制度が開始される予定。

地区体育委員会（8頁）

市の主催する体育事業への協力や、各区で体育祭等の企画・運営をし、スポーツの推進を図る。

東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシー（12，22頁）

東京2020オリンピックの開催にあたり作り上げる、またはオリンピックによって生じる有形・無形の次世代へ残すべき遺産。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（8，23頁）

当市が自転車競技ロードレースの男子のコースの一部になっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響により2021年夏の開催に延期となった。

ドリームカップ（18頁）

平成13年から裾野市運動公園野球場等で開催されている身体障がい者野球大会。参加チームは全国から集まり、市民ボランティアによる実行委員会により運営されている。

バイシクルピット（23頁）

サイクリングの途中で、休憩や自転車のメンテナンスに利用することができる施設。静岡県では、「サイクルスポーツの聖地」の実現を目指し、バイシクルピットの設置に取り組んでいる。

バリアフリー社会（17頁）

高齢者や障がい者等に配慮した、社会全体のバリアフリー化を実現する社会。

フィットネス（14頁）

健康を保つこと。そのために行う運動。

富士山麓の準高地エリア（22頁）

当市には、富士山のふもとの標高1,450メートルの水ヶ塚公園内にあるクロスカンントリーコースを中心に多くのトレーニングコースがあり、スポーツ選手の応援と地域の発展を目指し、準高地トレーニングを推進している。

ユニバーサルデザイン（9頁）

年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすること。

ユニバーサル社会（17頁）

年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人たちが安全で快適な生活を送ることができる社会。

レクリエーション（3，8，18頁）

楽しみとして行われる娯楽、余暇活動。

用語集凡例

- ・ 用語集は、本文中に「*」を記した語句につき、解説するものである。
- ・ 用語の掲載順は50音順とした。
- ・ 用語の後に付した（ 頁）は、用語の掲載ページを示した。



資料2 令和元年度裾野市民意識調査(抜粋)

■調査概要

1) 調査目的

裾野市民の市政に対する認識や要望、市民生活に関する意識を調査し、その結果を分析して、市政運営や施策立案に反映させ、現状の市の取り組みを検証することを目的とする。

2) 調査方法

- ・調査地域：裾野市全域
- ・調査対象：裾野市在住の20歳以上の男女1,000人
- ・調査方法：無作為抽出による郵送配布、郵送回収またはインターネット回収
- ・調査期間：令和元年6月17日（月）～令和元年7月1日（月）

3) 回収状況

発送数	有効回答数	有効回収率（昨年度調査）
1,000 票	559 票(うちインターネット回答 102 票)	55.9% (53.6%)

※回答割合は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計が100%とならない場合がある。

◎留意事項

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、構成比合計が100%にならないことがある。
- 設問には、1つの質問に1つの選択肢を回答できる“単一回答”の設問と、1つの質問に2つ以上の選択肢を回答できる“複数回答可”の設問がある。“複数回答可”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- 図表中の構成比「0.0」は四捨五入の結果（構成比が0.05未満）か、回答者が皆無であることを表している。
- 選択肢の文章が長い場合、グラフ上では省略して表記していることがある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。

◎クロス集計各種

○設問の内容に応じて、属性別クロス集計結果を掲載している。

○クロス集計で使用する分析軸は、「性別」、「年代別」、「居住地区別」、属性④の回答を反映させた「家族形成期別」、属性⑦の回答を反映させた「定住度別」の全 5 種類である。各分析軸についての説明は以下の通りである。

性別 …………… 回答者を、男性・女性の 2 種類に分類し、回答の傾向を比較したもの。

年代別 …………… 回答者を、20 代・30 代・40 代・50 代・60 代・70 代以上の 6 種類の年代に分類し、回答の傾向を比較したもの。

居住地区別 …………… 回答者を、居住地区に応じて、「東地区」・「西地区」・「富岡地区」・「須山地区」・「深良地区」・「千福が丘地区」・「企業団地（御宿地内）」の 7 種類に分類し、回答の傾向を比較したもの。

家族形成期別 …… 回答者を、【④子どもの段階】の回答に応じて、“就学前家族”・“就学中家族”・“就学後家族”の 3 種類に分類し、回答の傾向を比較したもの。分類は以下の表の通りに行った。

家族形成期	回答
就学前家族	「1. 子どもはいない」・「2. 小学校入学前」
就学中家族	「3. 小学生」・「4. 中学生」・「5. 高校生」・ 「6. 専門学校・短大・大学・大学院に在学」
就学後家族	「7. 学校教育終了」・「8. その他」

定住度別 …………… 回答者を、【⑦居住歴】の回答に応じて、「生まれてからずっと住んでいる」・「生まれは市内だが、一時、転出したことがある」・「県内の他市町から転入してきた」・「県外から転入してきた」の 4 種類に分類したもの。

○“複数回答可”の設問にて掲載しているクロス集計の集計表では、最も多かった回答を **77.7**、2 番目に多かった回答を **77.7** のようにマーカーで識別して表示した。

■調査結果

裾野市の市政全般

(7) 自分の健康に対する感覚

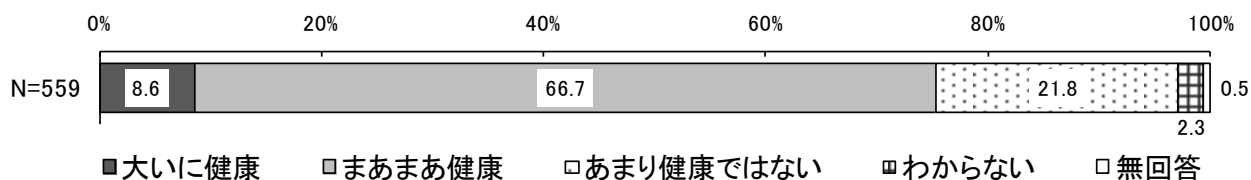
健康については、「まあまあ健康」が 66.7%と最も多く、「大いに健康」8.6%と「まあまあ健康」66.7%を合計した“健康”は 75.3%だった。

経年比較では、“健康”は平成 30 年度より 4.7 ポイント減少しているものの、「大いに健康」の割合は過去 5 年で最も多くなっている。

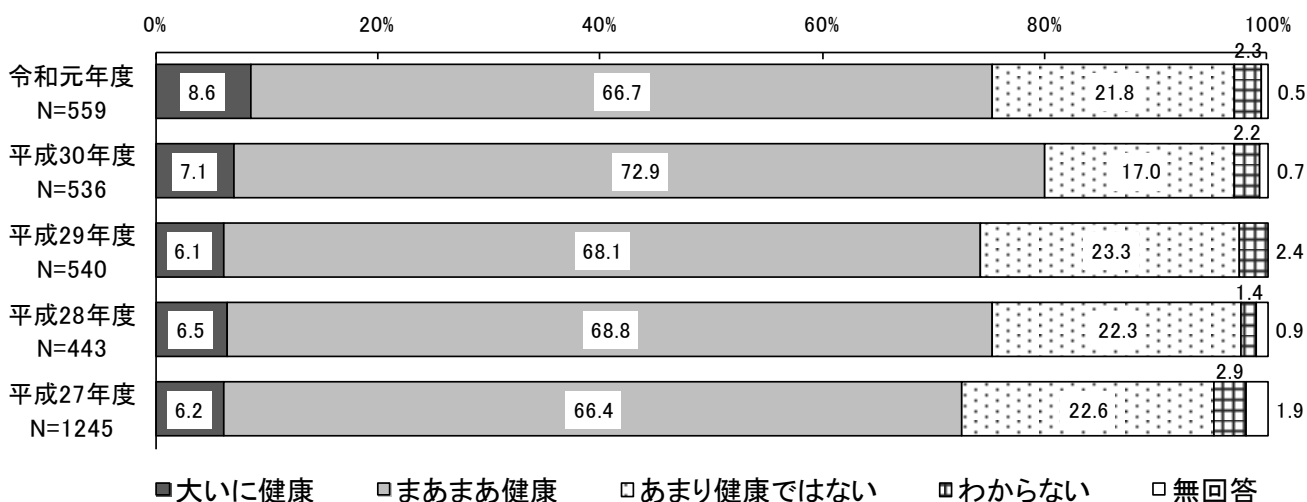
性別で見ると、“健康”は女性 78.0%が男性 70.9%より 7.1 ポイント多くなっている。

年代別で見ると、最も“健康”が多かったのは 20 代で、85.7%が“健康”と回答している。

問7 ご自分の健康についてどのように感じていますか。(単一回答)

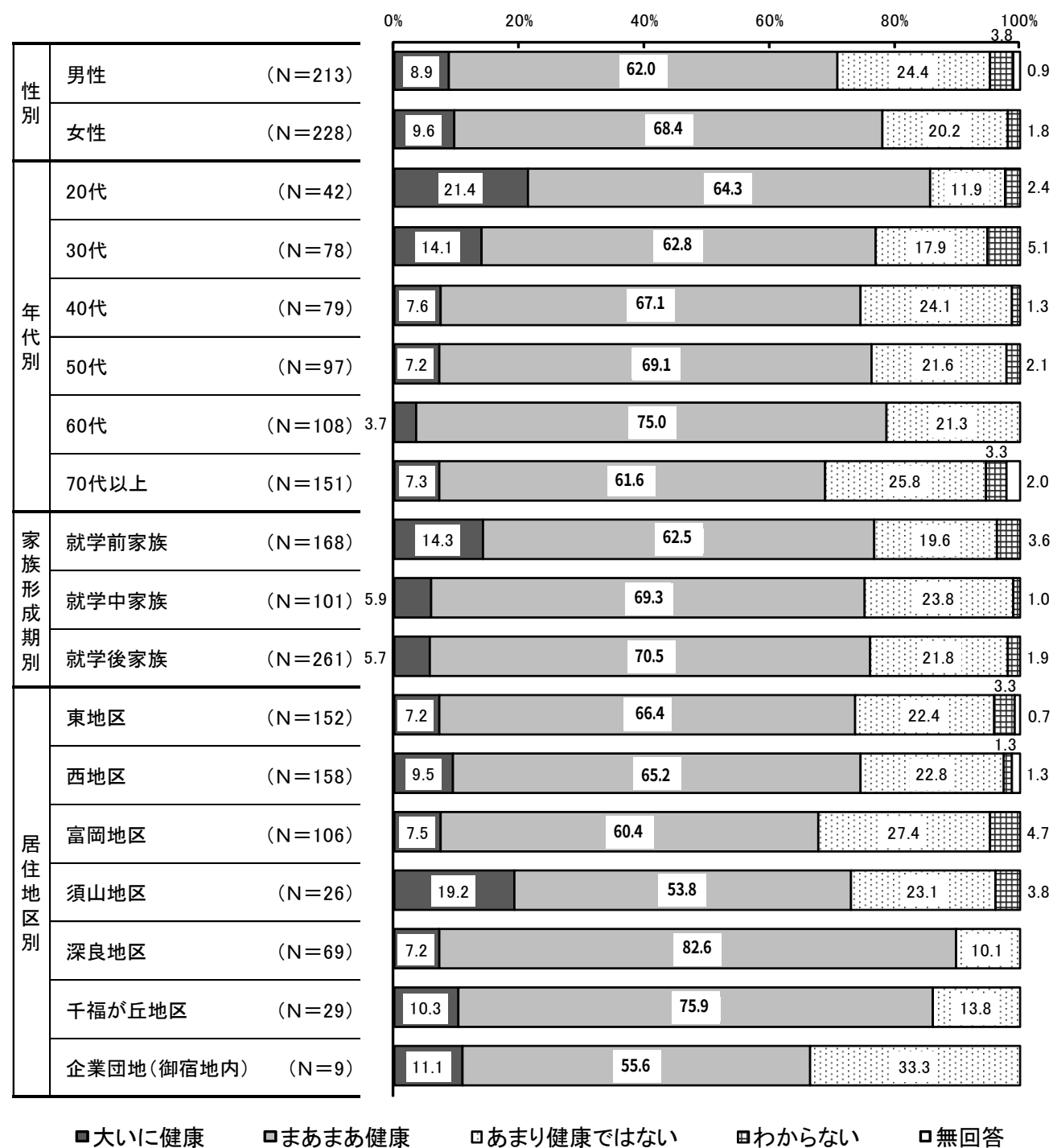


【経年比較】



【クロス集計】

問7 ご自分の健康についてどのように感じていますか。(単一回答)



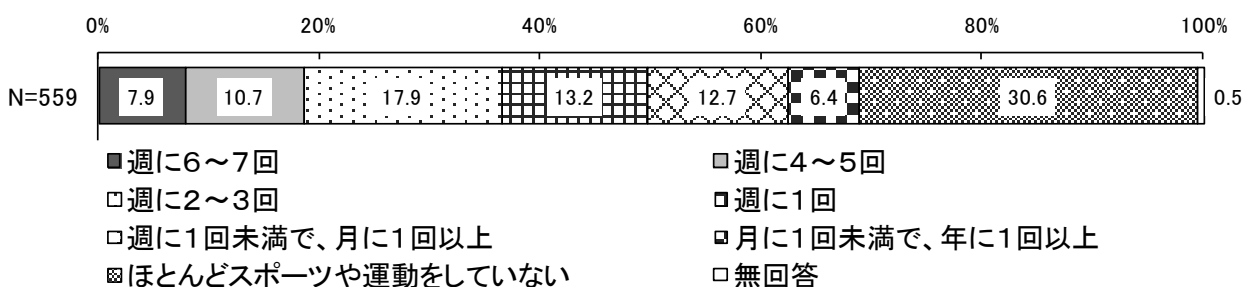
(8) スポーツや運動を行う頻度

この1年間でスポーツや運動の頻度については、「ほとんどスポーツや運動をしていない」30.6%が最も多く、以下、「週に2～3回」17.9%、「週に1回」13.2%、「週に1回未満で、月に1回以上」12.7%と続いている。

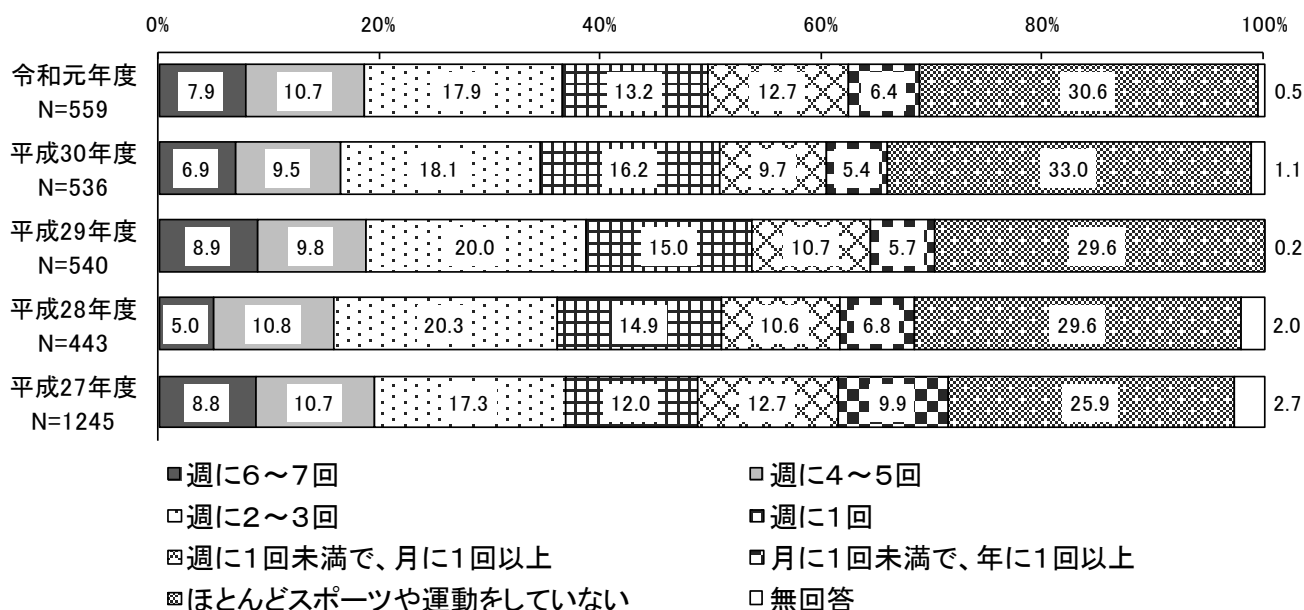
「ほとんどスポーツや運動をしていない」は、平成30年度から2.4ポイント減少しているものの、平成27年度に比べると4.7ポイント増加している。また、「週に6～7回」・「週に4～5回」・「週に2～3回」を合計した“週に2回以上”は36.5%だった。

年代別で見ると、「ほとんどスポーツや運動をしていない」が最も少なかったのは20代で、23.8%だった。

問8 この1年間でスポーツや運動(1回あたり30分程度以上、散歩・ストレッチ等の軽運動を含む)をどれくらいの頻度で行いましたか。(単一回答)



【経年比較】



【クロス集計】

問8 この1年間でスポーツや運動(1回あたり30分程度以上、散歩・ストレッチ等の軽運動を含む)をどれくらいの頻度で行いましたか。(単一回答)



資料3 令和元年度裾野市教育に関するアンケート調査(抜粋)

I 調査の概要

(1) 調査の目的

裾野市教育振興基本計画策定作業を進める上で必要となる、ニーズ等の把握や今後の教育施策策定等の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査の項目

児童・生徒	1. 属性について 2. 学校生活について 3. 地域や日常生活について 4. 学級数について 5. 学校のいい点・よくない点について
保護者	1. 回答者の属性について 2. 裾野市教育振興基本計画に関することについて 3. 裾野市の教育のあり方に関することについて
市民	1. あなたご自身について 2. あなたご自身の学習や活動について 3. 文化財や文化施設について 4. 裾野市の子どもたちとの接し方やご意見について 5. 裾野市の教育施策や教育事業について 6. 裾野市立小中学校の教育環境について

(3) 調査の方法

対 象 者：【児童・生徒】小学校5年生（489人）、中学校2年生（446人）
【保 護 者】就学前の児童（年長児）を持つ保護者（412人）
小学校5年生を持つ保護者（489人）
中学校2年生を持つ保護者（446人）
【市 民】裾野市在住の20歳以上の男女（800人）

調査方法：【児童・生徒】施設配布・施設回収
【保 護 者】施設配布・施設回収
【市 民】郵送配布・郵送回収

調査期間：【児童・生徒】令和元年 9月19日～令和元年10月 4日
【保 護 者】令和元年 9月19日～令和元年10月 4日
【市 民】令和元年10月10日～令和元年10月20日

(4) 回収状況

	対象数	有効回収数	有効回収率
児童・生徒	935 人	879 票	94.0%
小学校 5 年生	489 人	459 票	93.9%
中学校 2 年生	446 人	420 票	94.2%
保護者	1,347 人	1,121 票	83.2%
年長児保護者	412 人	339 票	82.3%
小学生保護者	489 人	393 票	80.4%
中学生保護者	446 人	389 票	87.2%
市民	800 人	361 票	45.1%

(5) 報告書を読む際の注意点

- 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。
- 百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。このため、百分率の合計が 100%にならないことがあります。
- 1 つの質問に 2 つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100%を超える場合があります。
- 選択肢の文章が長い場合、グラフ、コメントでは省略して表記していることがあります。

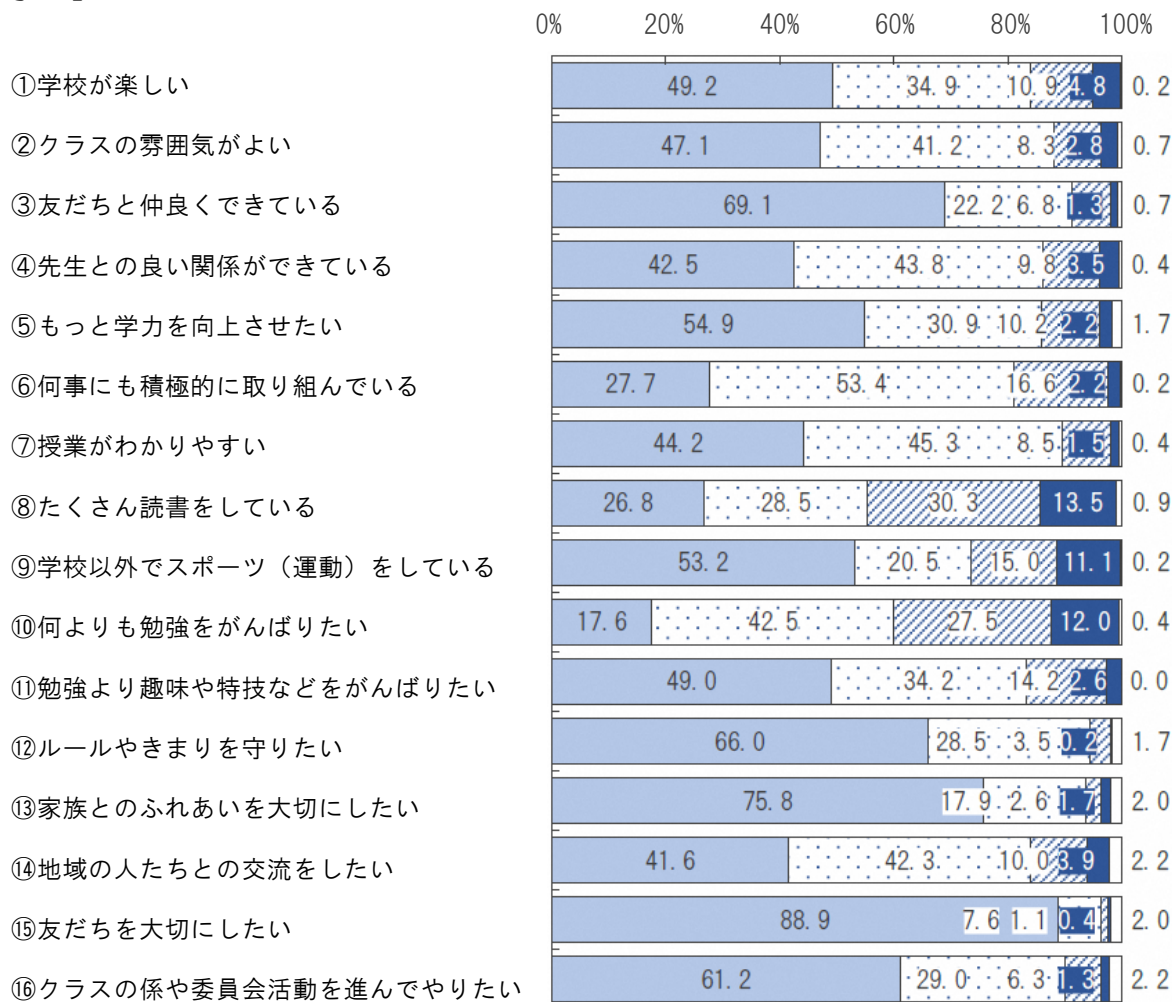
Ⅱ 調査の結果【裾野市教育振興基本計画に関すること】《児童・生徒》

2. 学校生活について

(2) 感じていること

問4. あなたは、次のことについて、どのように感じていますか。(それぞれ単数回答)

【小学生】



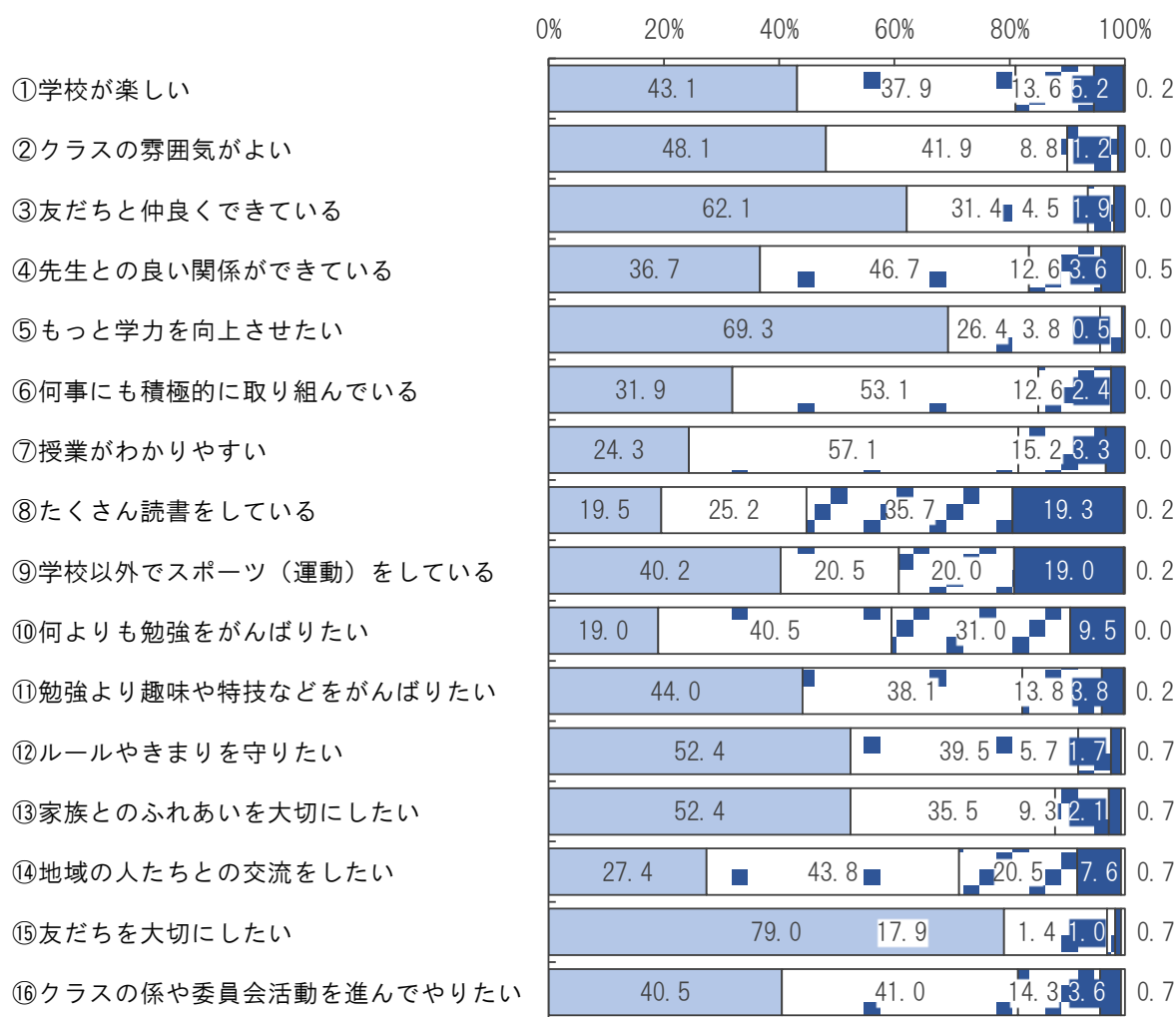
小学生（n=459）



【小学生】

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』が最も多いのは《⑮友だちを大切にしたい》（96.5%）で、《⑫ルールやきまりを守りたい》（94.5%）、《⑬家族とのふれあいを大切にしたい》（93.7%）が続いている。一方で、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた『思わない』が最も多いのは《⑧たくさん読書をしている》（43.8%）で、《⑩何よりも勉強をがんばりたい》（39.5%）、《⑨学校以外でスポーツ（運動）をしている》（26.1%）が続いている。

【中学生】



中学生（n=420）

☐ そう思う ☐ ややそう思う
☐ あまり思わない ☐ 思わない
☐ 無回答

【中学生】

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う』が最も多いのは《⑮友だちを大切にしたい》（96.9%）で、《⑤もっと学力を向上させたい》（95.7%）、《③友だちと仲良くできている》（93.5%）が続いている。一方で、「思わない」と「あまり思わない」を合わせた『思わない』が最も多いのは《⑧たくさん読書をしている》（55.0%）で、《⑩何よりも勉強をがんばりたい》（40.5%）、《⑨学校以外でスポーツ（運動）をしている》（39.0%）が続いている。

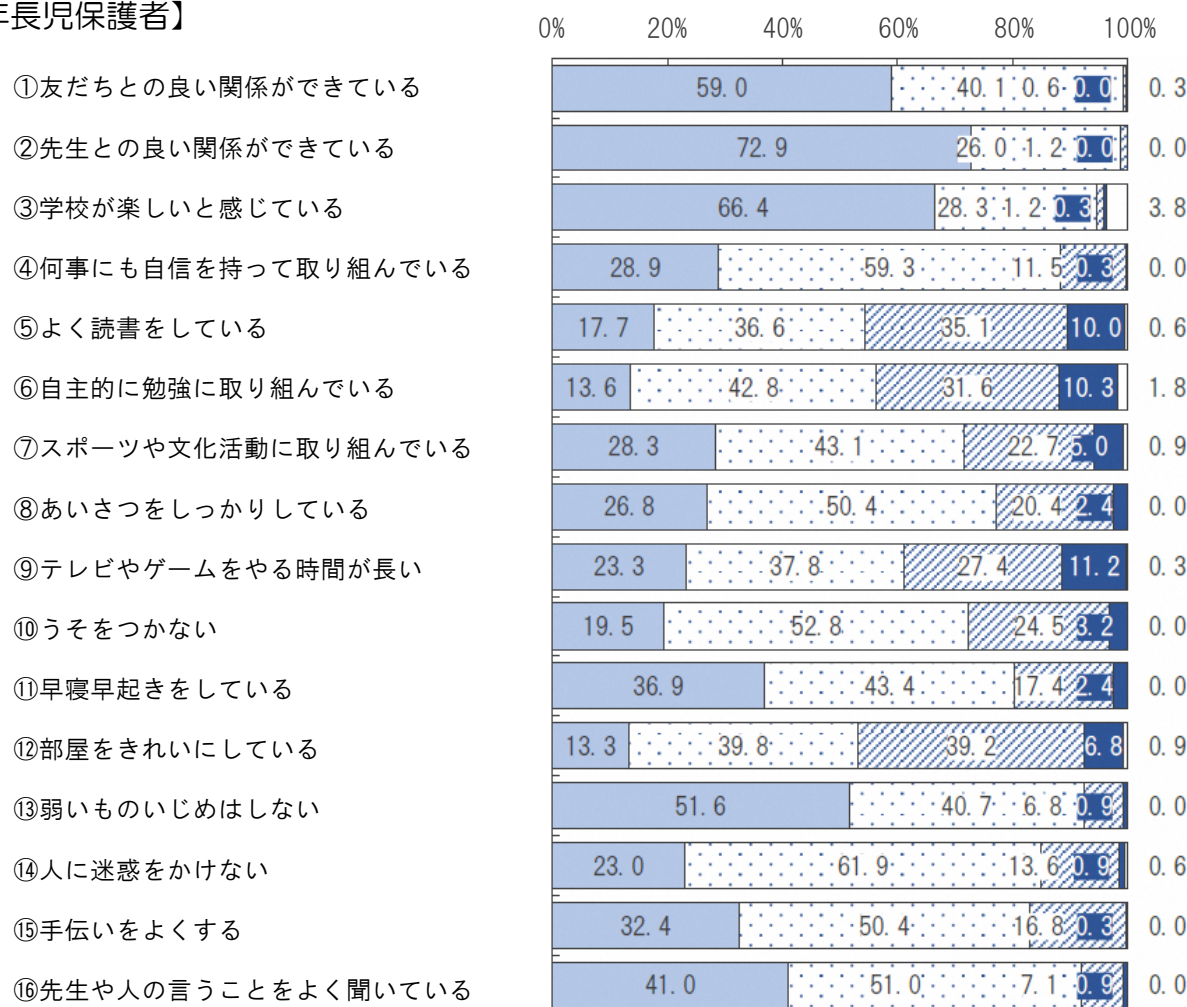
Ⅲ 調査の結果【裾野市教育振興基本計画に関すること】《保護者》

2. お子さんについて

(1) お子さんの普段の様子

問1. お子さんの普段の様子について、次のことはどの程度あてはまりますか。
(それぞれ単数回答)

【年長児保護者】



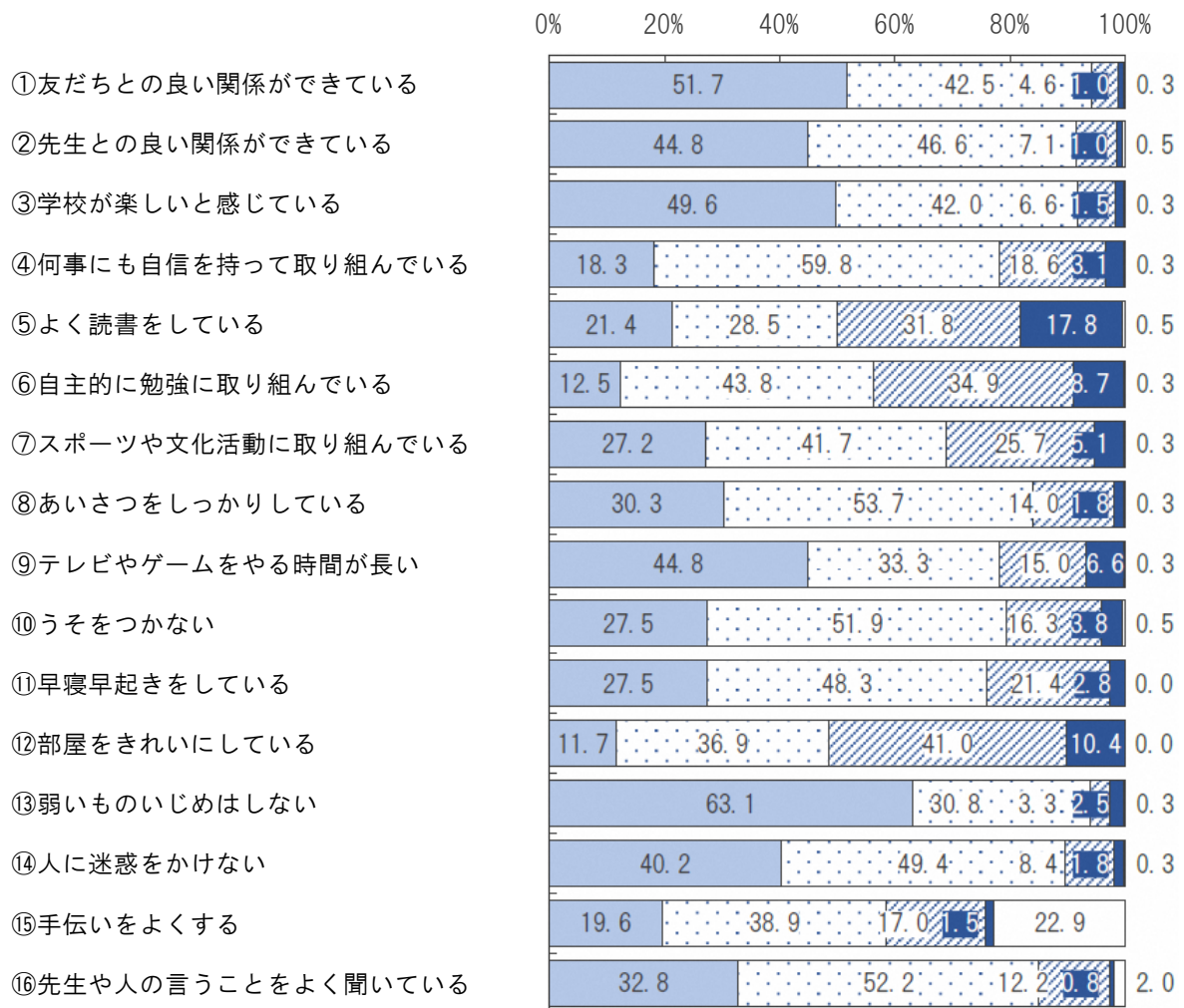
年長児保護者 (n=339)

- ☒ あてはまる
- ☐ どちらかといえばあてはまる
- ☐ どちらかといえばあてはまらない
- ☐ あてはまらない
- ☐ 無回答

【年長児保護者】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは《① 友だちとの良い関係ができています》(99.1%)で、《② 先生との良い関係ができています》(98.9%)、《③ 学校が楽しいと感じています》(94.7%)が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは《⑫ 部屋をきれいにしている》(46.0%)で、《⑤ よく読書をしている》(45.1%)、《⑥ 自主的に勉強に取り組んでいる》(41.9%)が続いている。

【小学生保護者】



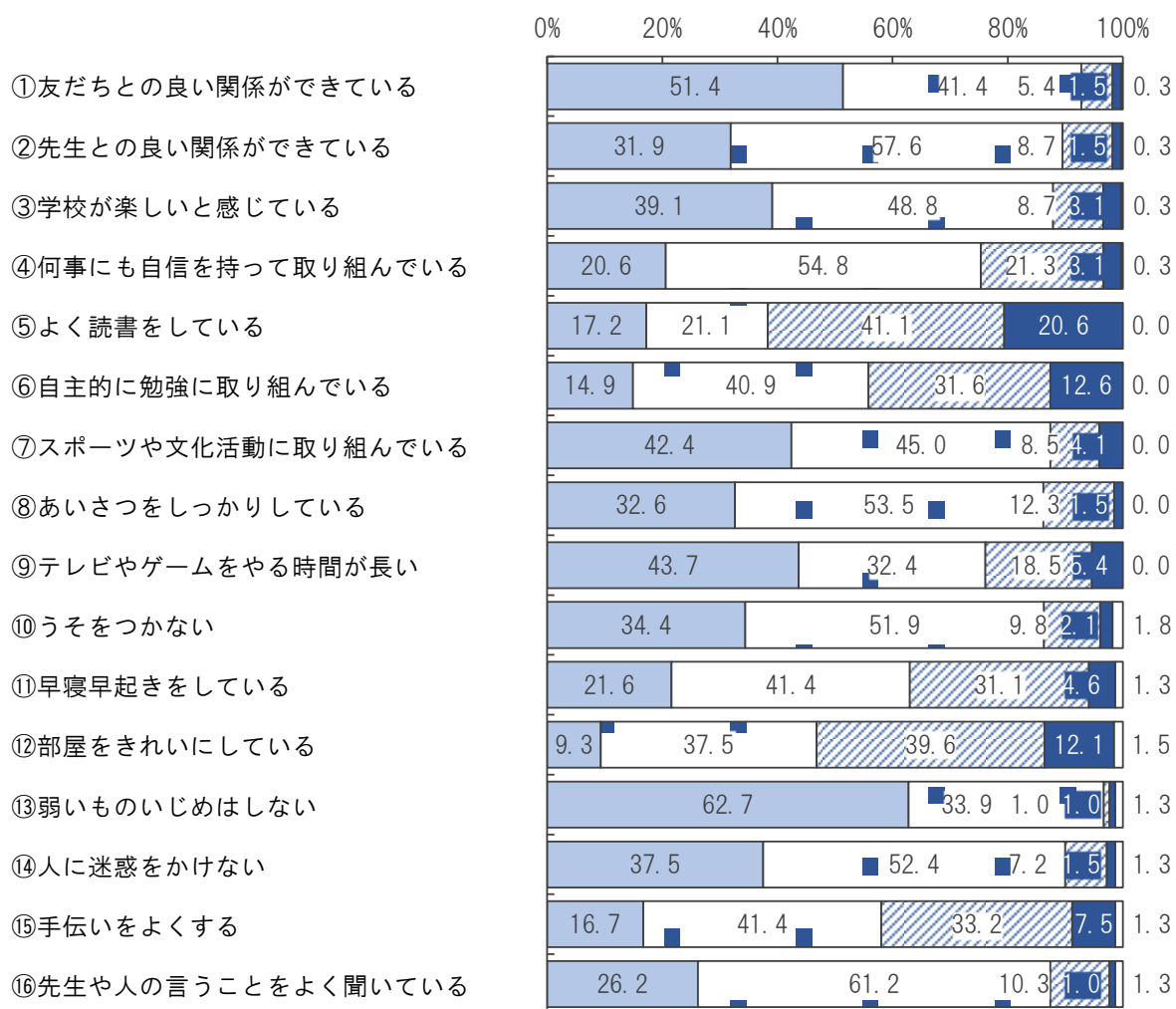
小学生保護者（n=393）

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

【小学生保護者】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは「① 友だちとの良い関係ができています」（94.2%）で、「⑬ 弱いもののいじめはしない」（93.9%）、「③ 学校が楽しいと感じています」（91.6%）が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは「⑫ 部屋をきれいにしています」（51.4%）で、「⑤ よく読書をしている」（49.6%）、「⑥ 自主的に勉強に取り組んでいます」（43.6%）が続いている。

【中学生保護者】



中学生保護者（n=389）

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

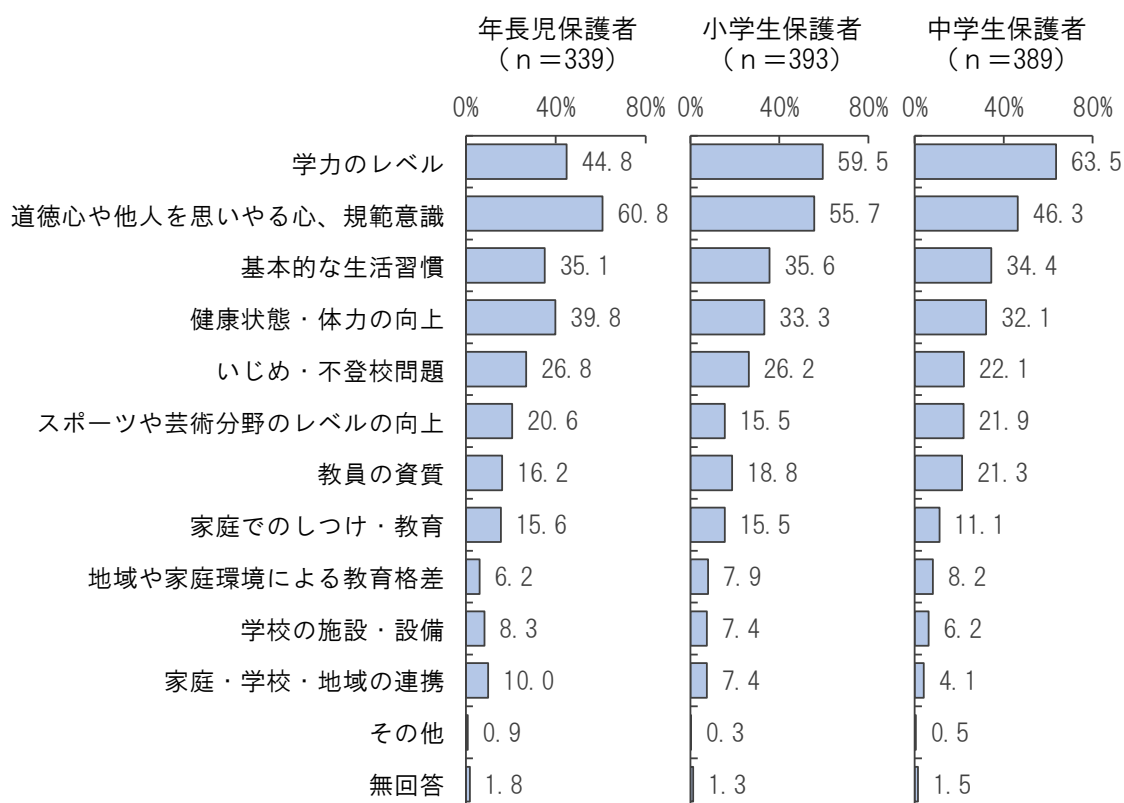
【中学生保護者】

「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは「⑬弱いもののいじめはしない」（96.6%）で、「①友だちと良い関係ができています」（92.8%）、「⑭人に迷惑をかけない」（89.9%）が続いている。一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは「⑤よく読書をしている」（61.7%）で、「⑫部屋をきれいにしています」（51.7%）、「⑥自主的に勉強に取り組んでいます」（44.2%）が続いている。

3. 子どもの教育について

(1) 子どもの教育についての関心

問2. 現在、子どもの教育について関心があることはなんですか。(複数回答：3つまで)



【年長児保護者】

「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が60.8%と最も多く、次いで「学力のレベル」が44.8%、「健康状態・体力の向上」が39.8%などとなっている。

【小学生保護者】

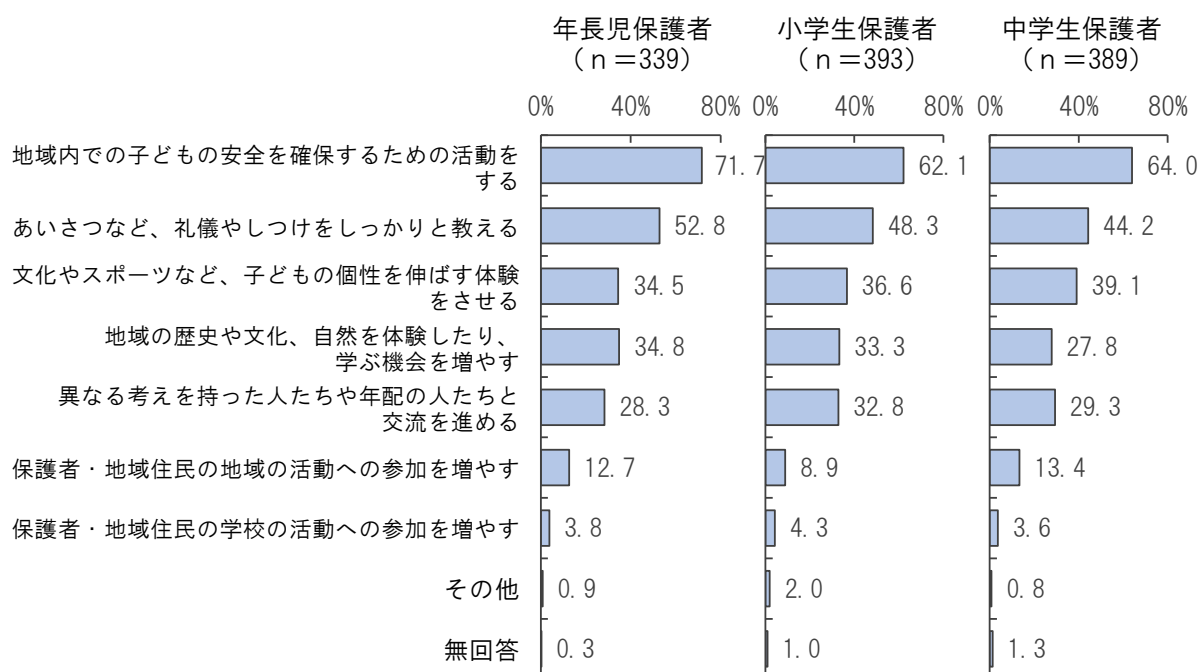
「学力のレベル」が59.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が55.7%、「基本的な生活習慣」が35.6%などとなっている。

【中学生保護者】

「学力のレベル」が63.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」が46.3%、「基本的な生活習慣」が34.4%などとなっている。

(4) 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきこと

問5. 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。
(複数回答：3つまで)



【年長児保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が71.7%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が52.8%、「地域の歴史や文化、自然を体験したり、学ぶ機会を増やす」が34.8%などとなっている。

【小学生保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が62.1%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が48.3%、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」が36.6%などとなっている。

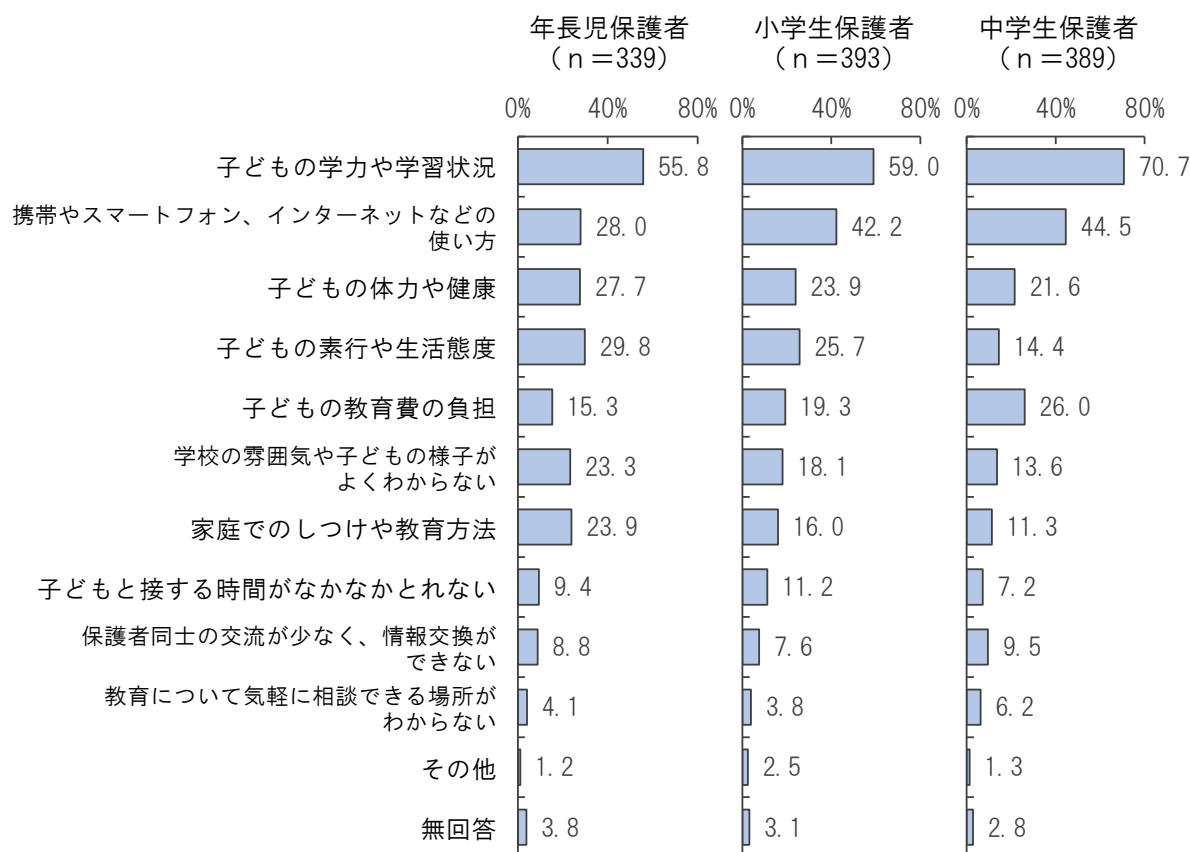
【中学生保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」が64.0%と最も多く、次いで「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」が44.2%、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」が39.1%などとなっている。

(6) 教育について気になること、心配なこと

問7. お子さんの教育について気になること、心配なことはありますか。

(複数回答：3つまで)



【年長児保護者】

「子どもの学力や学習状況」が55.8%と最も多く、次いで「子どもの素行や生活態度」が29.8%、「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」が28.0%などとなっている。

【小学生保護者】

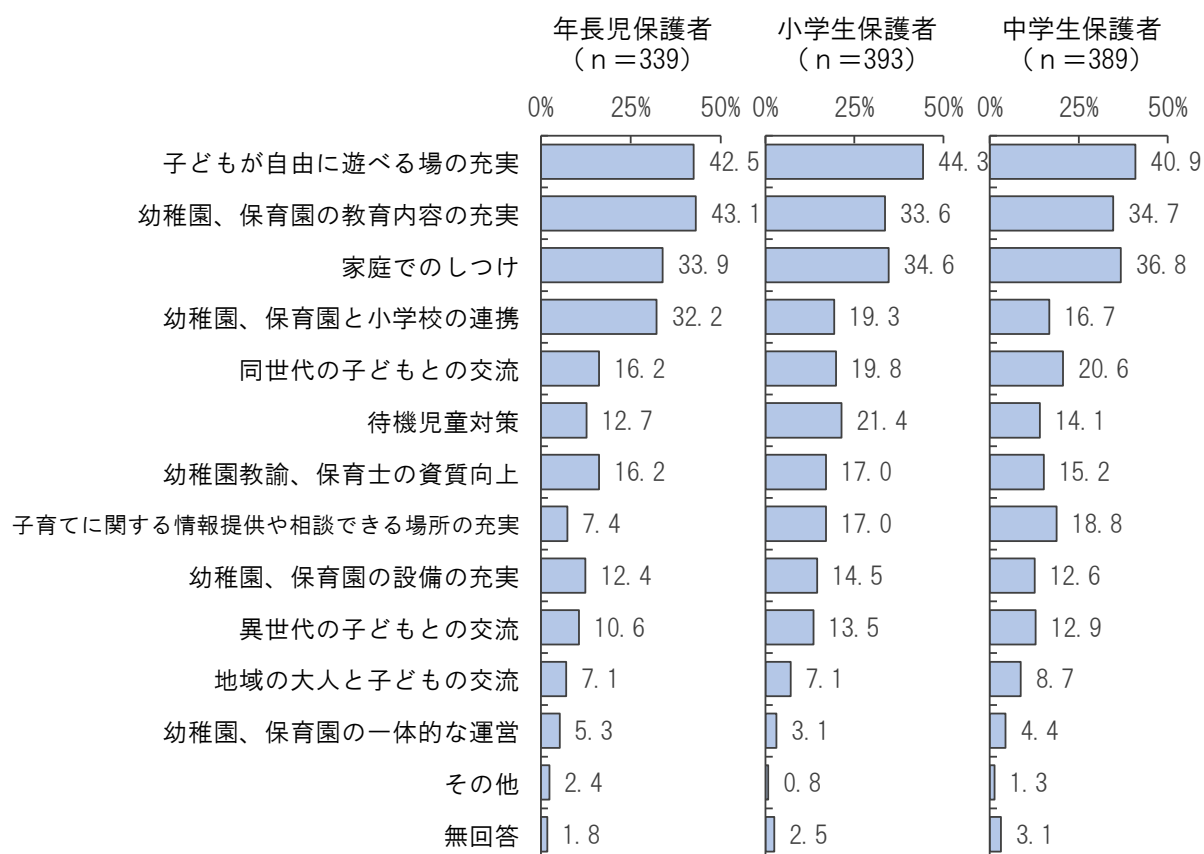
「子どもの学力や学習状況」が59.0%と最も多く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」が42.2%、「子どもの素行や生活態度」が25.7%などとなっている。

【中学生保護者】

「子どもの学力や学習状況」が70.7%と最も多く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」が44.5%、「子どもの教育費の負担」が26.0%などとなっている。

（７）就学前教育の充実のために必要なこと

問８．就学前（小学校入学前）教育の充実のために必要なことはなんだと思いますか。
（複数回答：３つまで）



【年長児保護者】

「幼稚園、保育園の教育内容の充実」が43.1%と最も多く、次いで「子どもが自由に遊べる場の充実」が42.5%、「家庭でのしつけ」が33.9%などとなっている。

【小学生保護者】

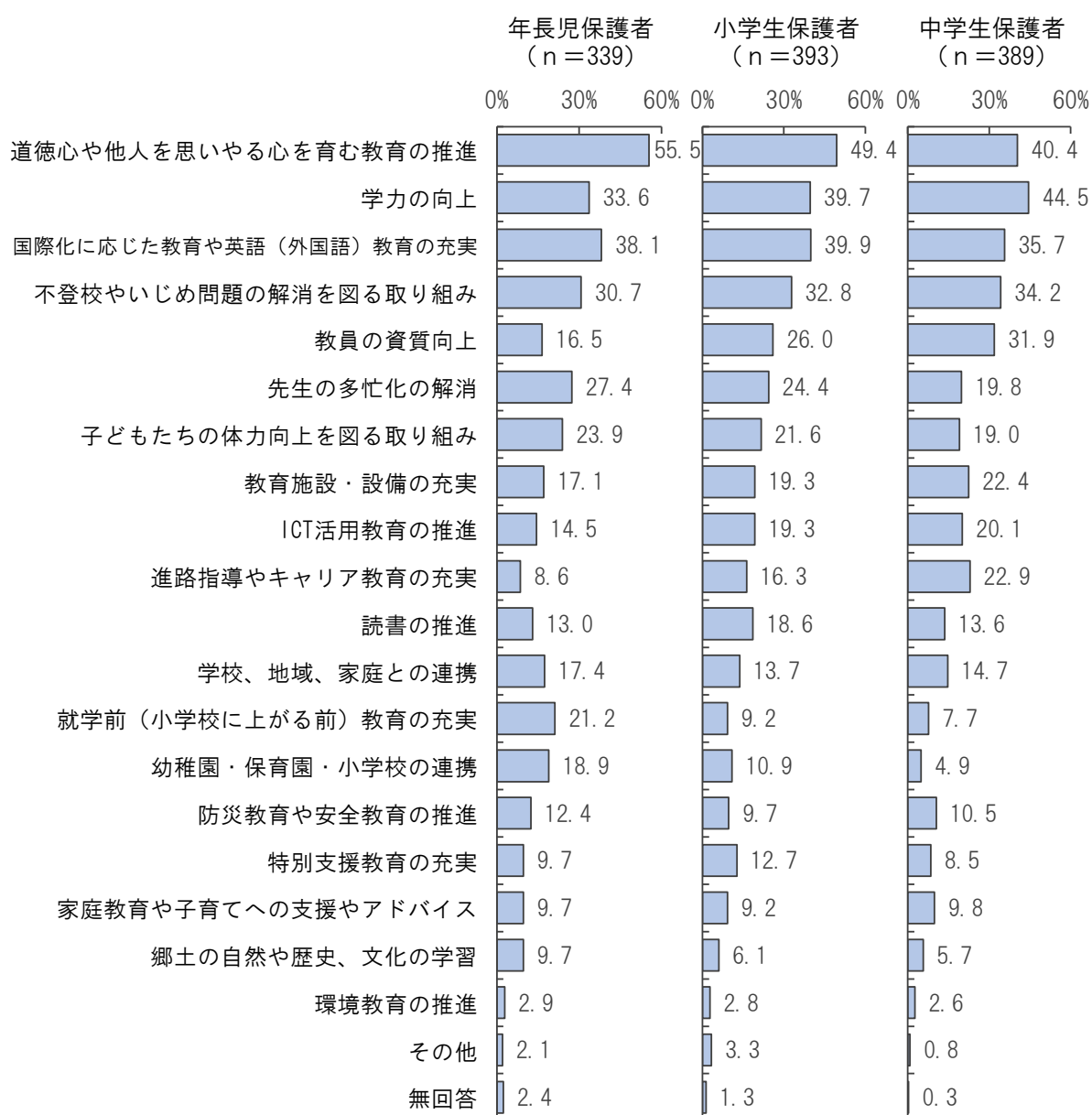
「子どもが自由に遊べる場の充実」が44.3%と最も多く、次いで「家庭でのしつけ」が34.6%、「幼稚園、保育園の教育内容の充実」が33.6%などとなっている。

【中学生保護者】

「子どもが自由に遊べる場の充実」が40.9%と最も多く、次いで「家庭でのしつけ」が36.8%、「幼稚園、保育園の教育内容の充実」が34.7%などとなっている。

(8) 重要だと思う教育施策

問9. 裾野市が取り組む教育施策として、いずれの施策が重要だと思いますか。
(複数回答：5つまで)



【年長児保護者】

「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が55.5%と最も多く、次いで「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が38.1%、「学力の向上」が33.6%などとなっている。

【小学生保護者】

「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が49.4%と最も多く、次いで「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が39.9%、「学力の向上」が39.7%などとなっている。

【中学生保護者】

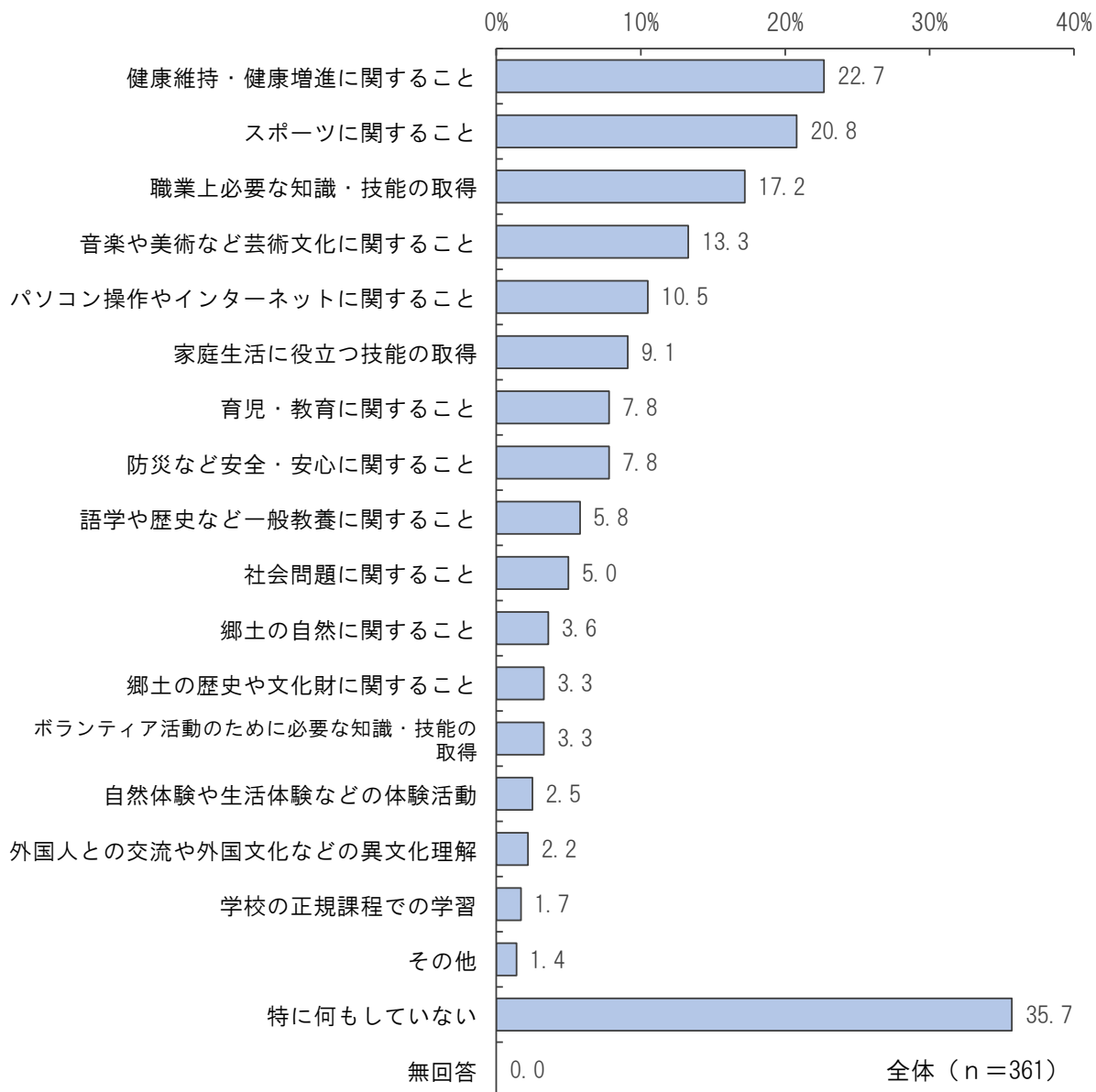
「学力の向上」が44.5%と最も多く、次いで「道徳心や他人を思いやる心を育む教育の推進」が40.4%、「国際化に応じた教育や英語（外国語）教育の充実」が35.7%などとなっている。

Ⅳ 調査の結果【裾野市教育振興基本計画に関すること】《市民》

2. あなたご自身の学習や活動について

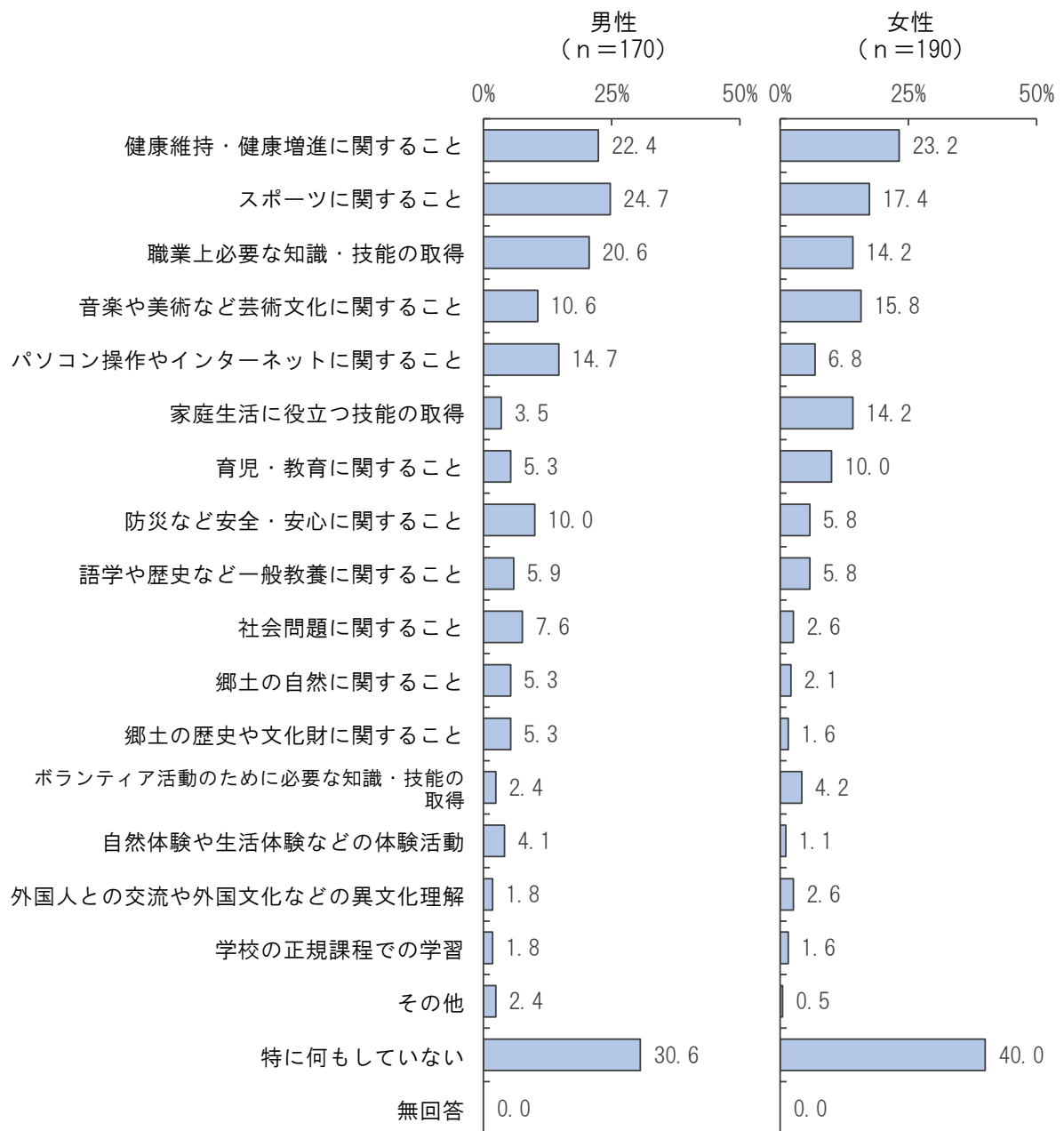
(1) 行っている学習、活動

問4. あなたは今どのような学習や活動をしていますか。(複数回答)



行っている学習、活動は、「特に何もしていない」が35.7%と最も多く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」が22.7%、「スポーツに関すること」が20.8%などとなっている。

【性別】



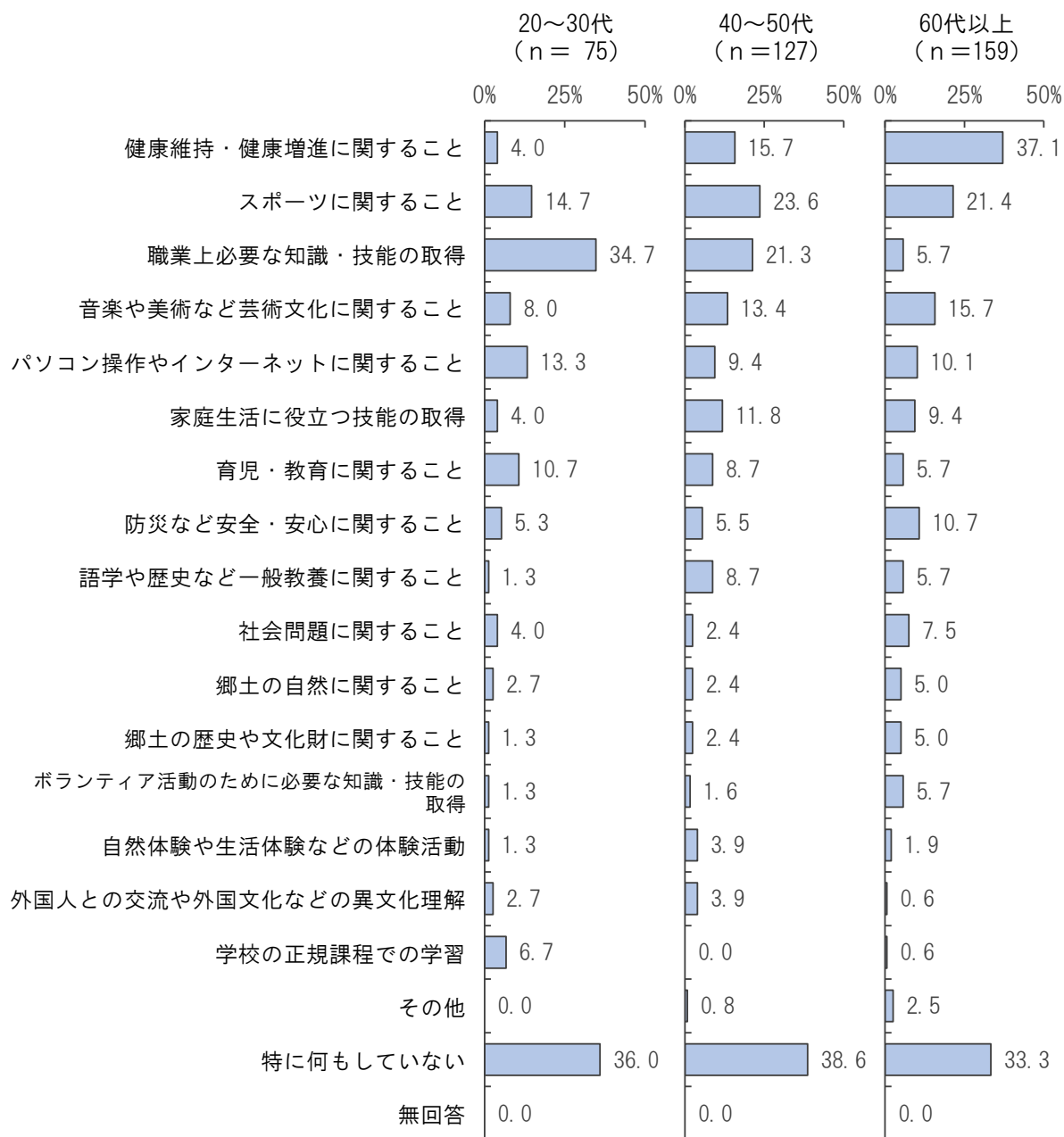
【男性】

「特になんもしていない」が30.6%と最も多く、次いで「スポーツに関すること」が24.7%、「健康維持・健康増進に関すること」が22.4%などとなっている。

【女性】

「特になんもしていない」が40.0%と最も多く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」が23.2%、「スポーツに関すること」が17.4%などとなっている。

【年代別】



【20~30代】

「特に何もしていない」が36.0%と最も多く、次いで「職業上必要な知識・技能の取得」が34.7%、「スポーツに関すること」が14.7%などとなっている。

【40~50代】

「特に何もしていない」が38.6%と最も多く、次いで「スポーツに関すること」が23.6%、「職業上必要な知識・技能の取得」が21.3%などとなっている。

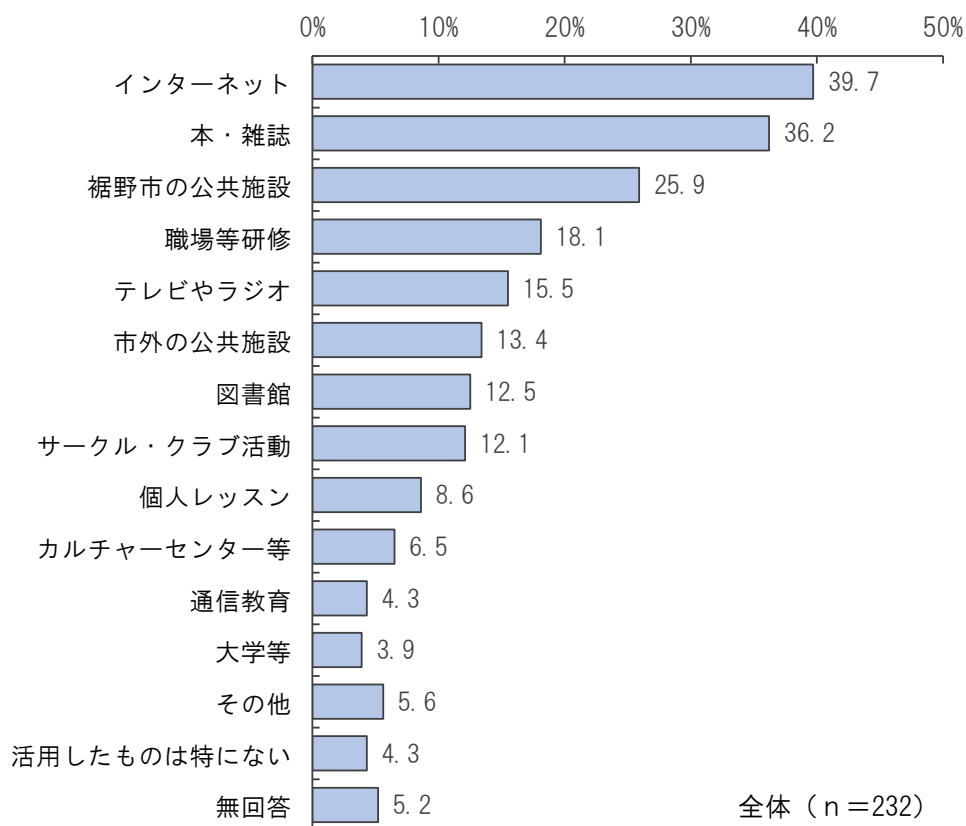
【60代以上】

「健康維持・健康増進に関すること」が37.1%と最も多く、次いで「特に何もしていない」が33.3%、「スポーツに関すること」が21.4%などとなっている。

（２）学習や活動に活用したもの

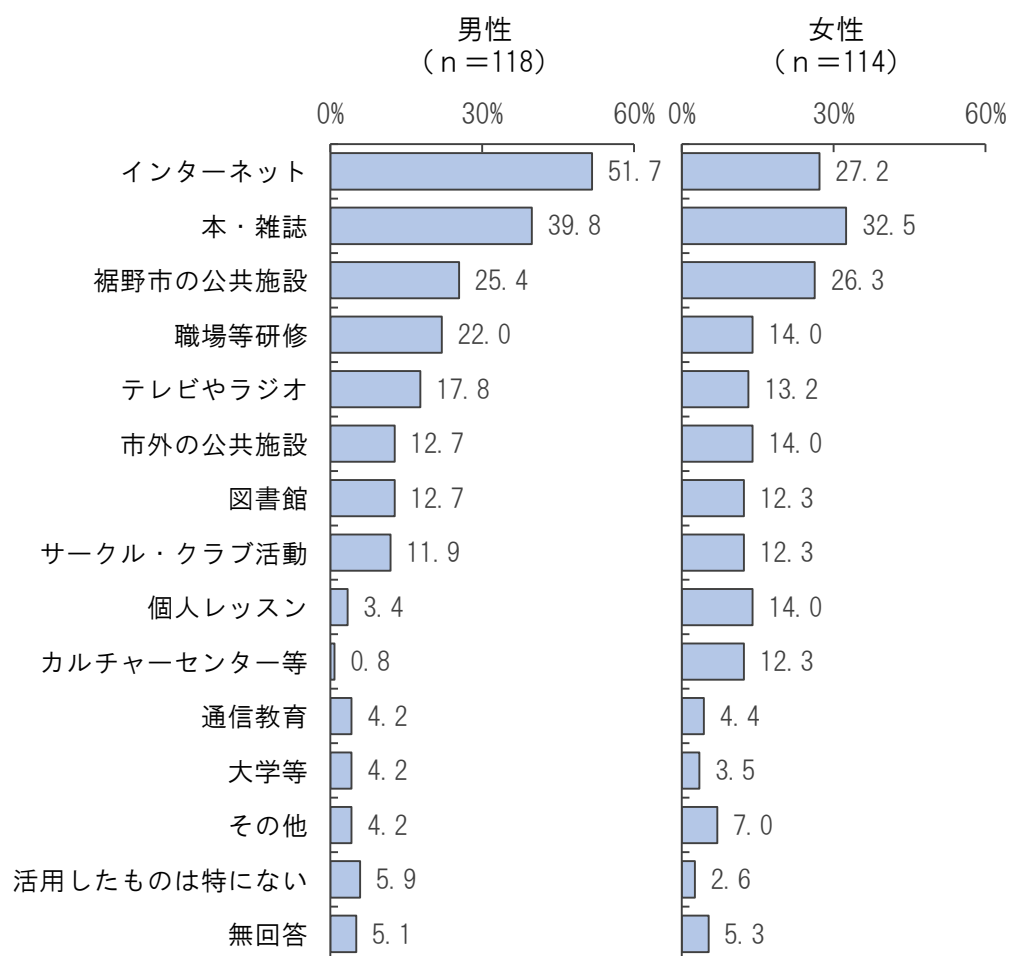
問４－１．学習や活動をしている方は何を活用しましたか。（複数回答）

（問４で「学習や活動をしている」と回答した方のみ）



学習や活動に活用したものは、「インターネット」が 39.7%と最も多く、次いで「本・雑誌」が 36.2%、「裾野市の公共施設」が 25.9%などとなっている。

【性別】



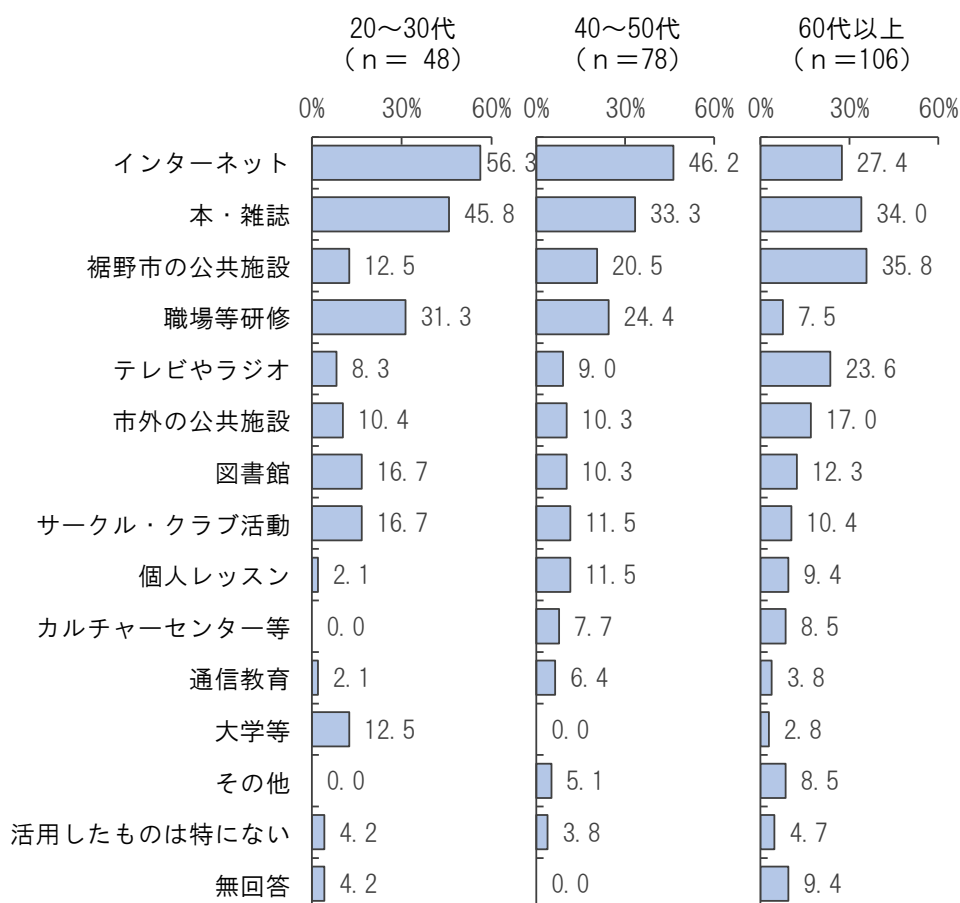
【男性】

「インターネット」が51.7%と最も多く、次いで「本・雑誌」が39.8%、「裾野市の公共施設」が25.4%などとなっている。

【女性】

「本・雑誌」が32.5%と最も多く、次いで「インターネット」が27.2%、「裾野市の公共施設」が26.3%などとなっている。

【年代別】



【20～30代】

「インターネット」が56.3%と最も多く、次いで「本・雑誌」が45.8%、「職場等研修」が31.3%などとなっている。

【40～50代】

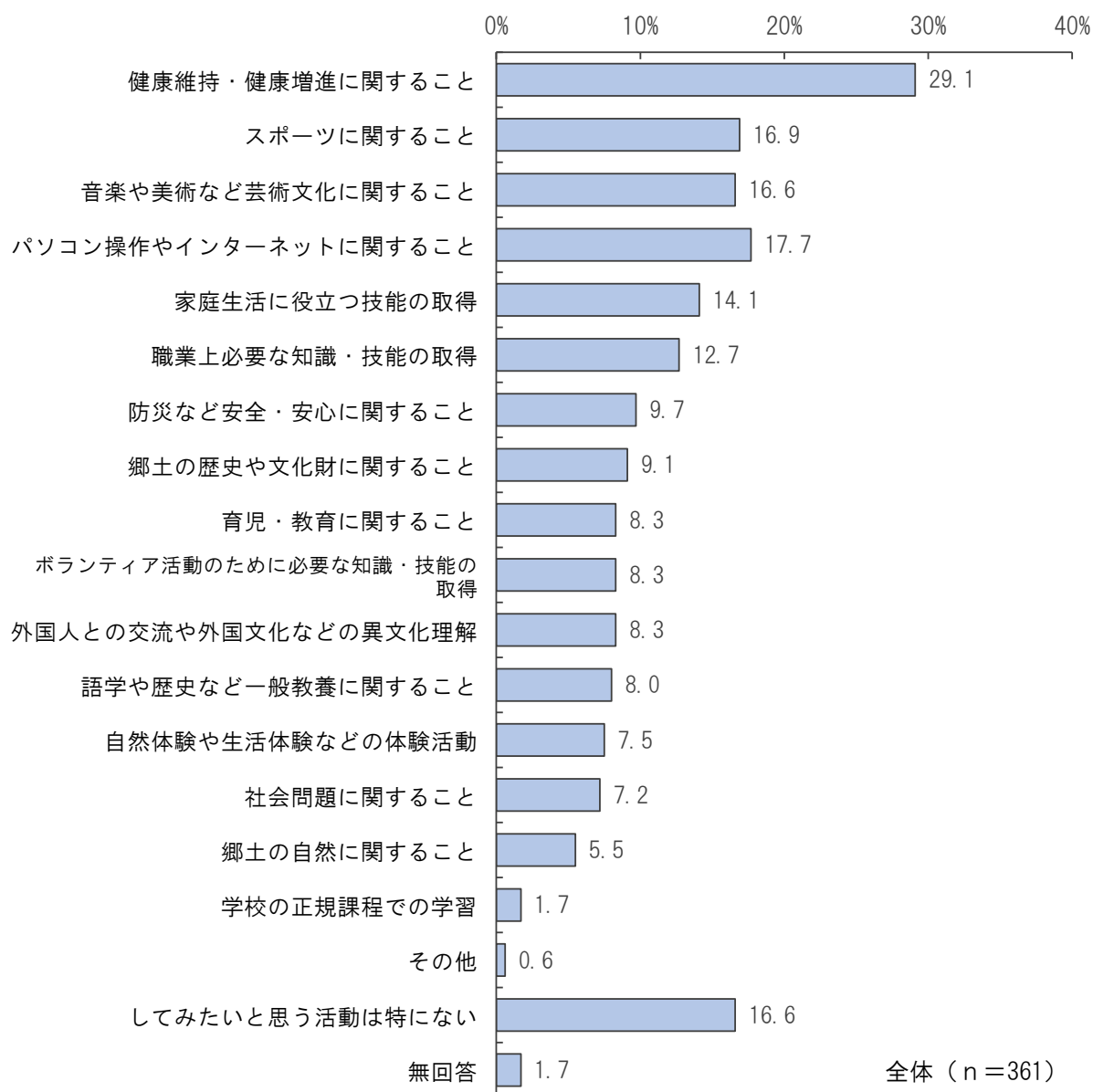
「インターネット」が46.2%と最も多く、次いで「本・雑誌」が33.3%、「職場等研修」が24.4%などとなっている。

【60代以上】

「裾野市の公共施設」が35.8%と最も多く、次いで「本・雑誌」が34.0%、「インターネット」が27.4%などとなっている。

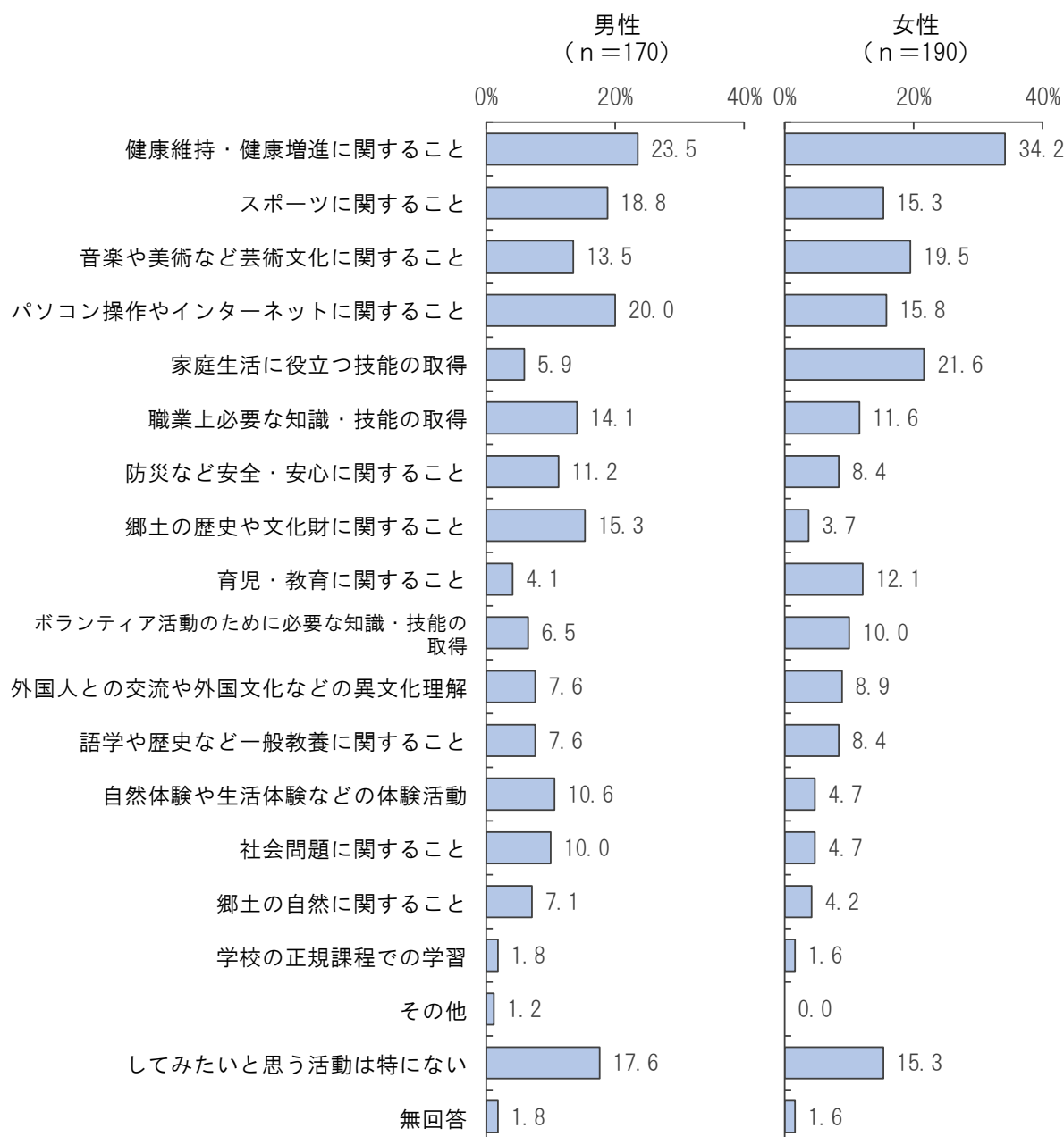
(3) 今後行ってみたい学習、活動

問5. 今後、どのような学習や活動をしてみたいと思いますか。(複数回答：3つまで)



今後行ってみたい学習、活動は、「健康維持・健康増進に関すること」が29.1%と最も多く、次いで「パソコン操作やインターネットに関すること」が17.7%、「スポーツに関すること」が16.9%などとなっている。

【性別】



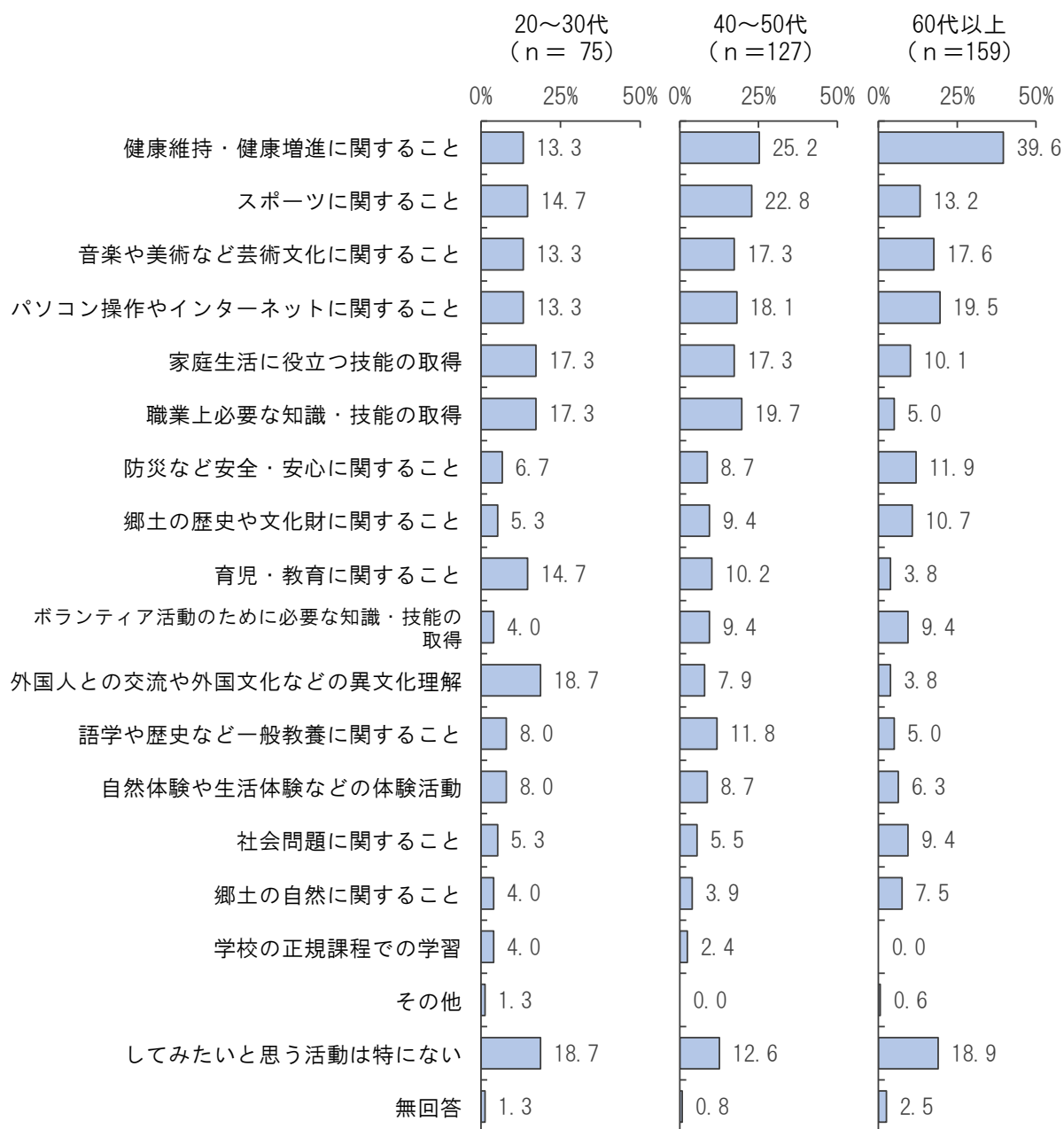
【男性】

「健康維持・健康増進に関すること」が23.5%と最も多く、次いで「パソコン操作やインターネットに関すること」が20.0%、「スポーツに関すること」が18.8%などとなっている。

【女性】

「健康維持・健康増進に関すること」が34.2%と最も多く、次いで「家庭生活に役立つ技能の取得」が21.6%、「音楽や美術など芸術文化に関すること」が19.5%などとなっている。

【年代別】



【20～30代】

「外国人との交流や外国文化などの異文化理解」、「してみたいと思う活動は特にない」がそれぞれ18.7%と最も多く、次いで「家庭生活に役立つ技能の取得」、「職業上必要な知識・技能の取得」がそれぞれ17.3%、「スポーツに関すること」、「育児・教育に関すること」がそれぞれ14.7%などとなっている。

【40～50代】

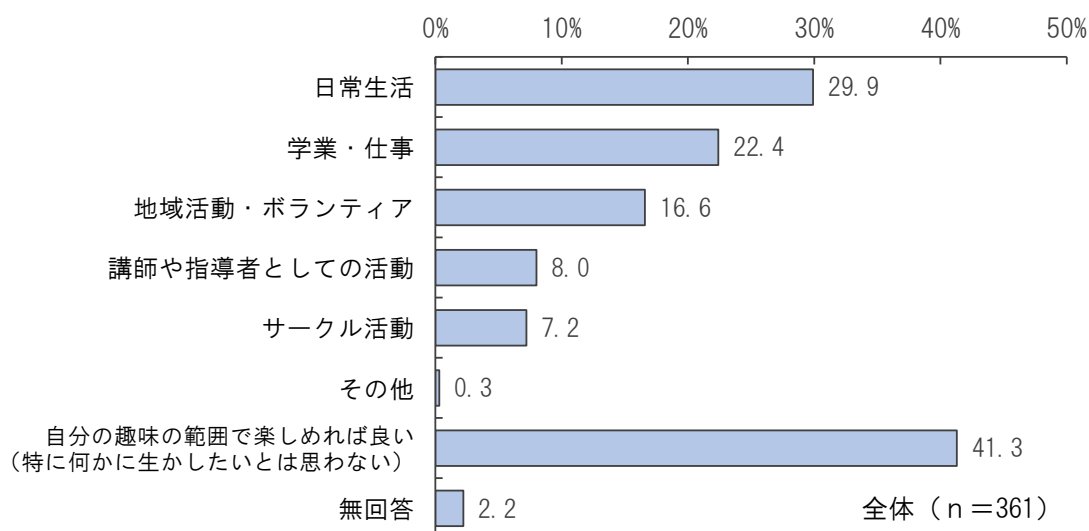
「健康維持・健康増進に関すること」が25.2%と最も多く、次いで「スポーツに関すること」が22.8%、「職業上必要な知識・技能の取得」が19.7%などとなっている。

【60代以上】

「健康維持・健康増進に関すること」が39.6%と最も多く、次いで「パソコン操作やインターネットに関すること」が19.5%、「してみたいと思う活動は特にない」が18.9%などとなっている。

（４）知識や技能などの生かし方

問６．これまで学習して身につけてきた知識や技能などを何かに生かしてみたいと思いますか。（複数回答）



知識や技能などの生かし方は、「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が41.3%と最も多く、次いで「日常生活」が29.9%、「学業・仕事」が22.4%などとなっている。

【男性】

「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が39.4%と最も多く、次いで「日常生活」が27.1%、「学業・仕事」が24.7%などとなっている。

【女性】

「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が42.6%と最も多く、次いで「日常生活」が32.6%、「学業・仕事」が20.5%などとなっている。

【20～30代】

「学業・仕事」が42.7%と最も多く、次いで「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が32.0%、「日常生活」が30.7%などとなっている。

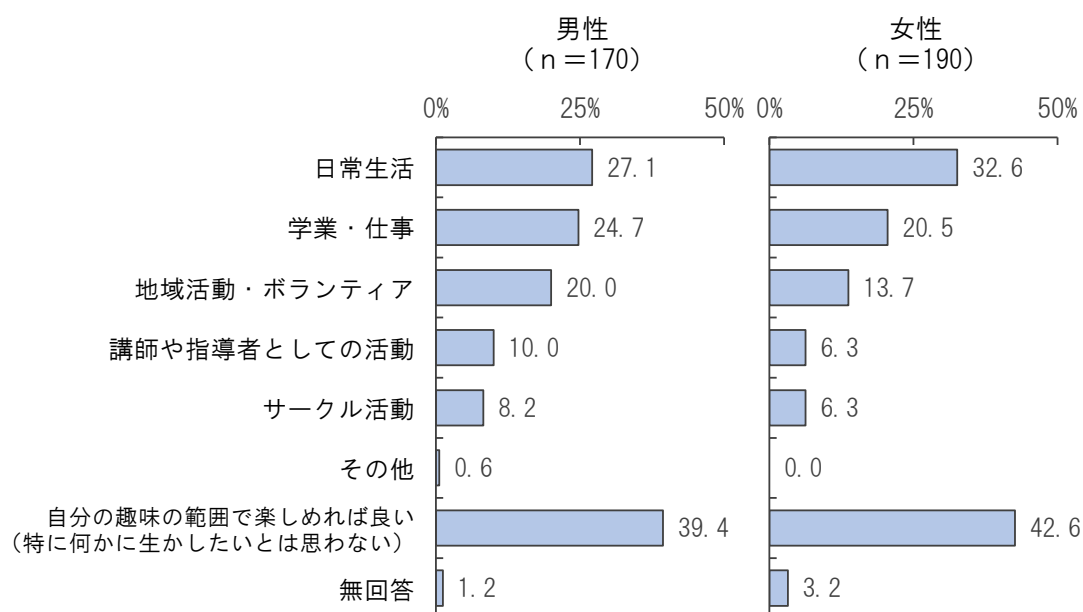
【40～50代】

「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が33.1%と最も多く、次いで「日常生活」が31.5%、「学業・仕事」が29.9%などとなっている。

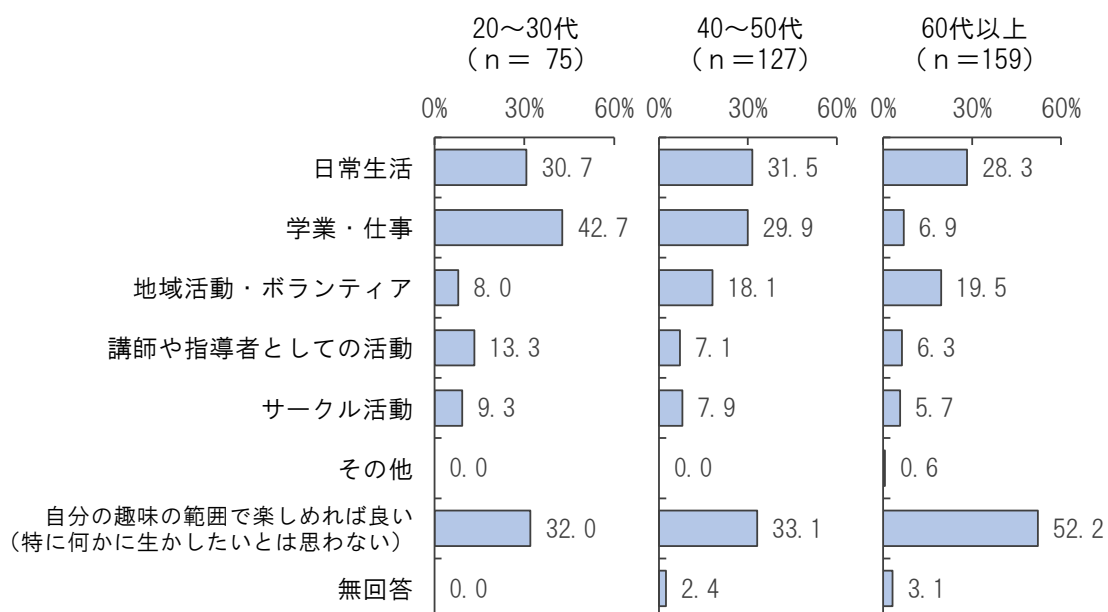
【60代以上】

「自分の趣味の範囲で楽しめれば良い（特に何かに生かしたいとは思わない）」が52.2%と最も多く、次いで「日常生活」が28.3%、「地域活動・ボランティア」が19.5%などとなっている。

【性別】



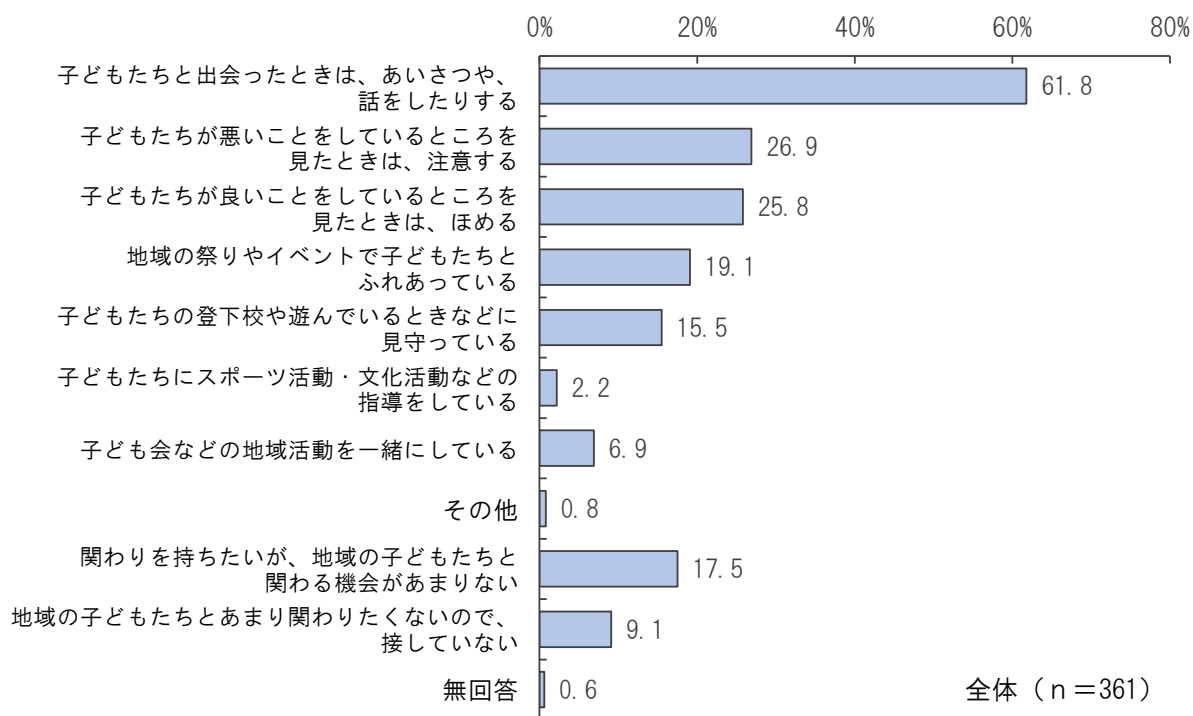
【年代別】



4. 裾野市の子どもたちとの接し方やご意見について

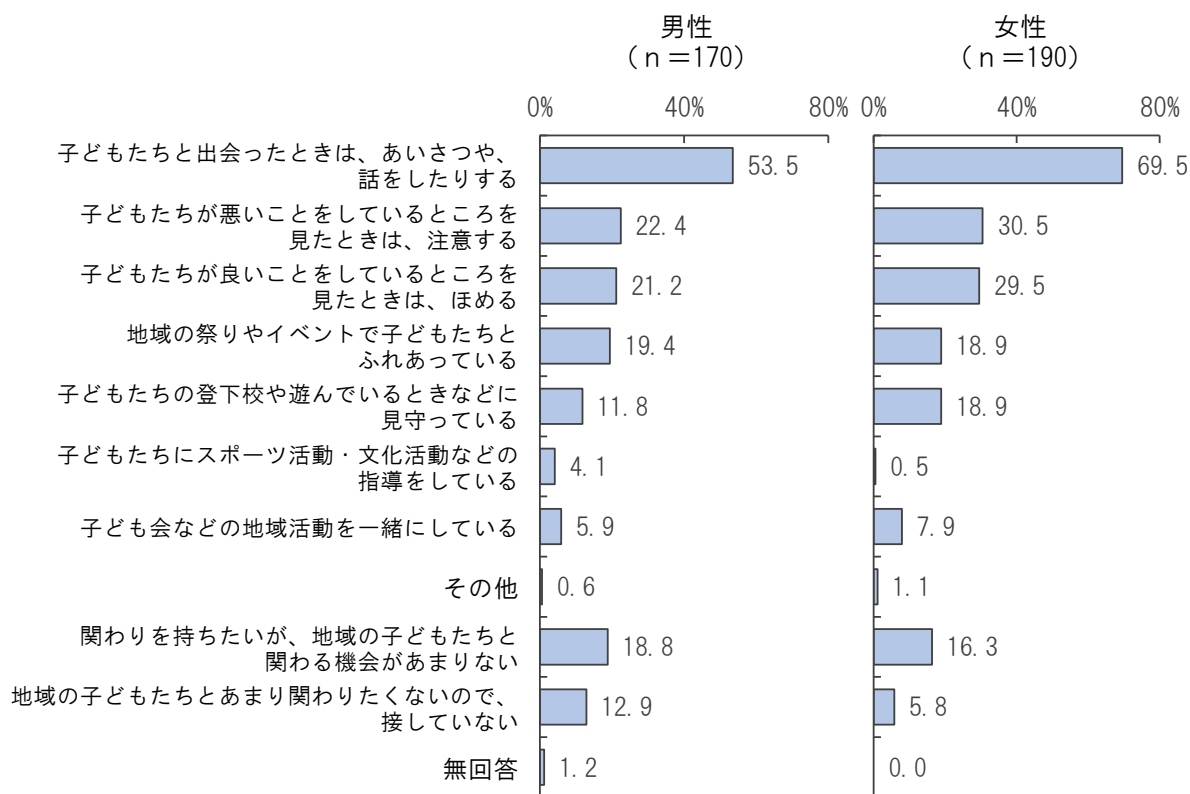
(1) 地域の子どもたちへの接し方

問 10. 地域の子どもたちとどのように接していますか。(複数回答)



地域の子どもたちへの接し方は、「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が61.8%と最も多く、次いで「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が26.9%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」が25.8%などとなっている。

【性別】



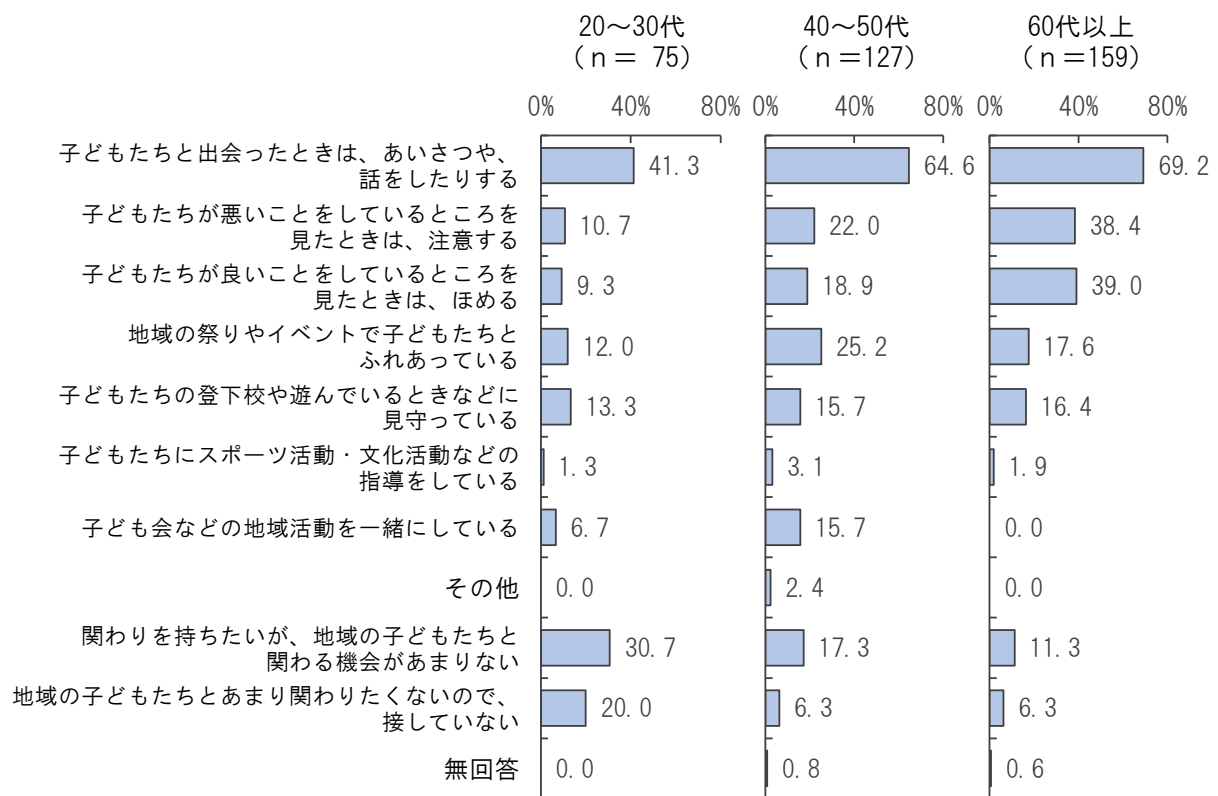
【男性】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が53.5%と最も多く、次いで「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が22.4%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」が21.2%などとなっている。

【女性】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が69.5%と最も多く、次いで「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が30.5%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」が29.5%などとなっている。

【年代別】



【20～30代】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が41.3%と最も多く、次いで「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」が30.7%、「地域の子どもたちとあまり関わりたくないの、接していない」が20.0%などとなっている。

【40～50代】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が64.6%と最も多く、次いで「地域の祭りやイベントで子どもたちとふれあっている」が25.2%、「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が22.0%などとなっている。

【60代以上】

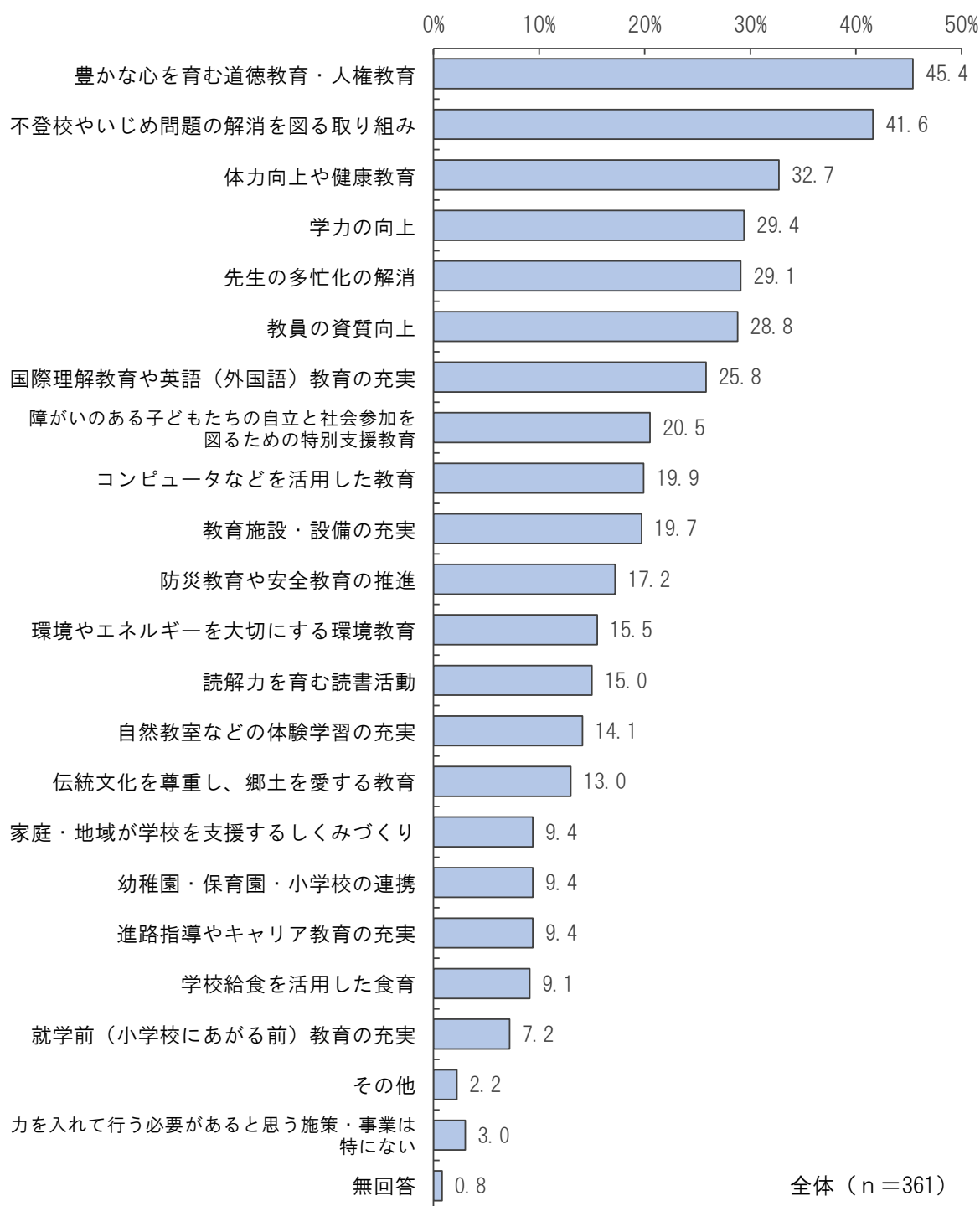
「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」が69.2%と最も多く、次いで「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」が39.0%、「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」が38.4%などとなっている。

5. 裾野市の教育施策や教育事業について

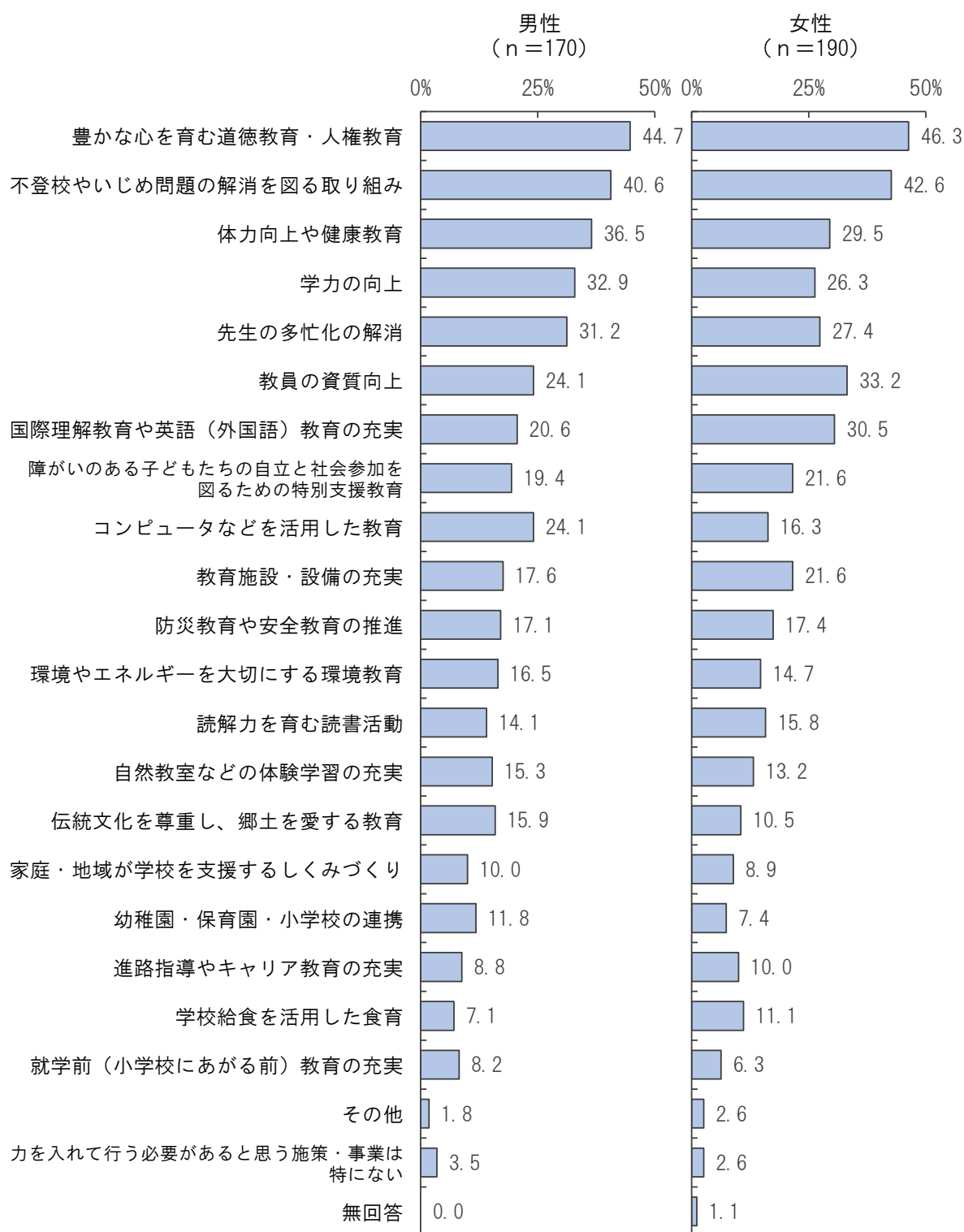
（１）裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業

問 12. 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。
学校教育、生涯学習、スポーツ活動について、それぞれご回答ください。

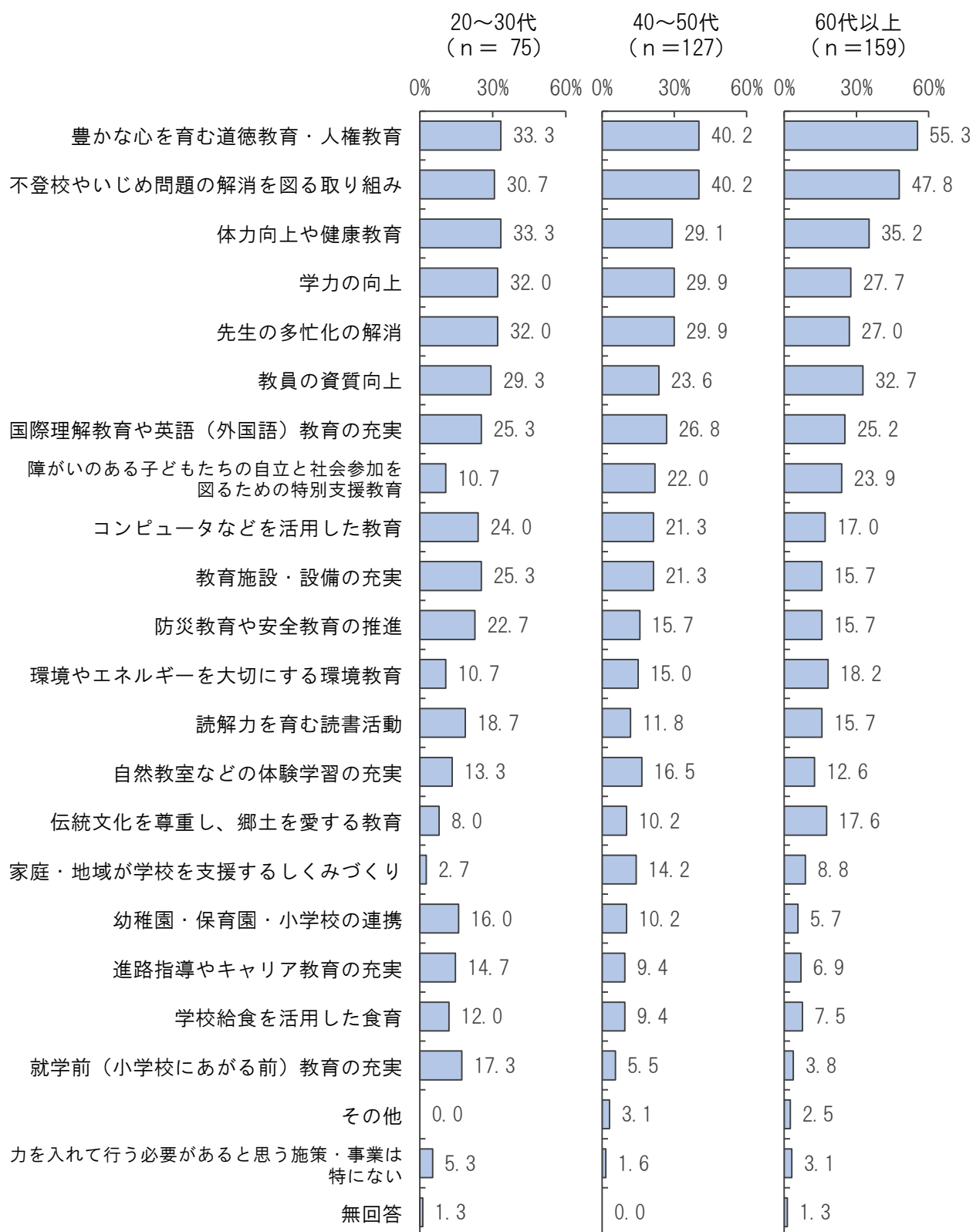
学校教育について（複数回答：５つまで）



【性別】



【年代別】



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（学校教育）は、「豊かな心を育む道德教育・人権教育」が45.4%と最も多く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が41.6%、「体力向上や健康教育」が32.7%などとなっている。

【男性】

「豊かな心を育む道德教育・人権教育」が44.7%と最も多く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が40.6%、「体力向上や健康教育」が36.5%などとなっている。

【女性】

「豊かな心を育む道德教育・人権教育」が46.3%と最も多く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が42.6%、「教員の資質向上」が33.2%などとなっている。

【20～30代】

「豊かな心を育む道德教育・人権教育」、「体力向上や健康教育」がそれぞれ33.3%と最も多く、次いで「学寮の向上」、「先生の多忙化の解消」がそれぞれ32.0%、「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が30.7%などとなっている。

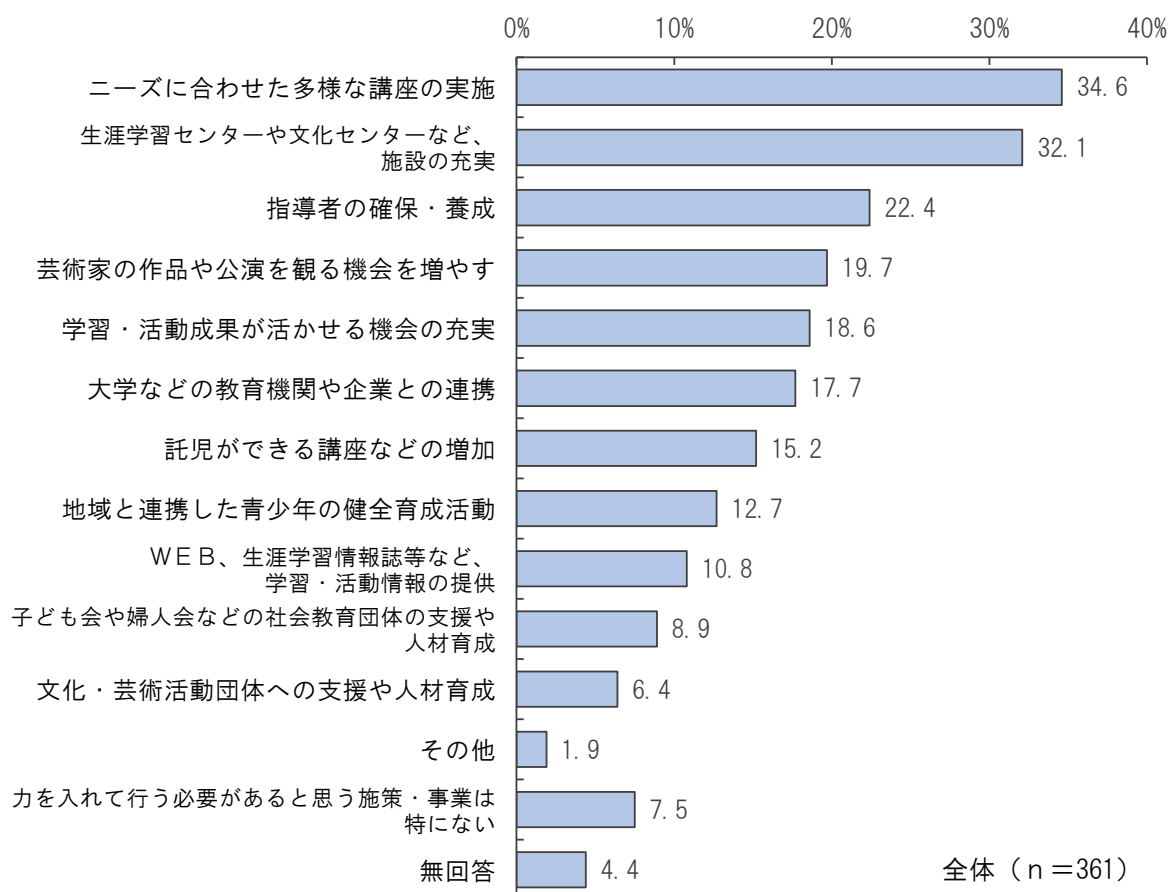
【40～50代】

「豊かな心を育む道德教育・人権教育」、「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」がそれぞれ40.2%と最も多く、次いで「学力の向上」、「先生の多忙化の解消」がそれぞれ29.9%、「体力向上や健康教育」が29.1%などとなっている。

【60代以上】

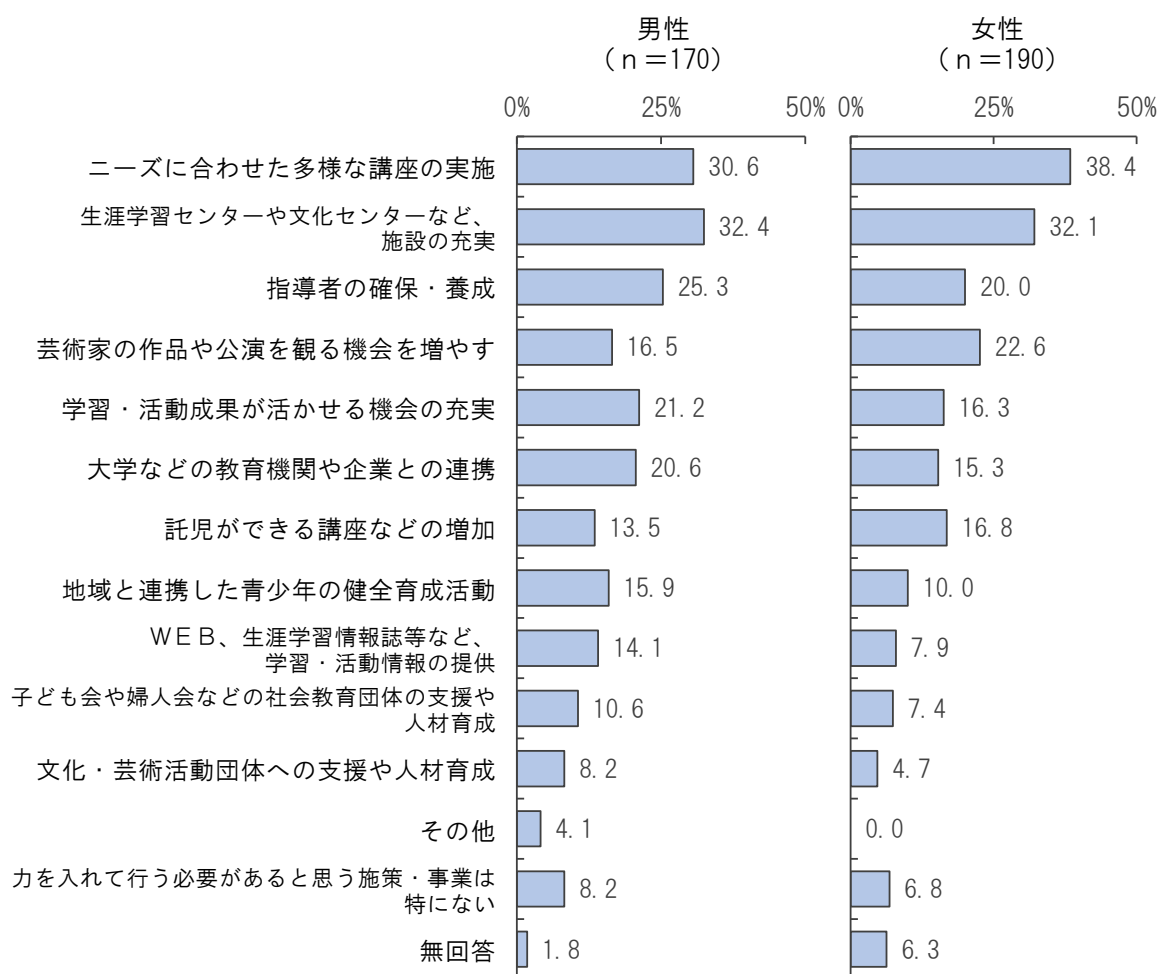
「豊かな心を育む道德教育・人権教育」が55.3%と最も多く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」が47.8%、「体力向上や健康教育」が35.2%などとなっている。

生涯学習について（複数回答：3つまで）



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（生涯学習）は、「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が34.6%と最も多く、次いで「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が32.1%、「指導者の確保・養成」が22.4%などとなっている。

【性別】



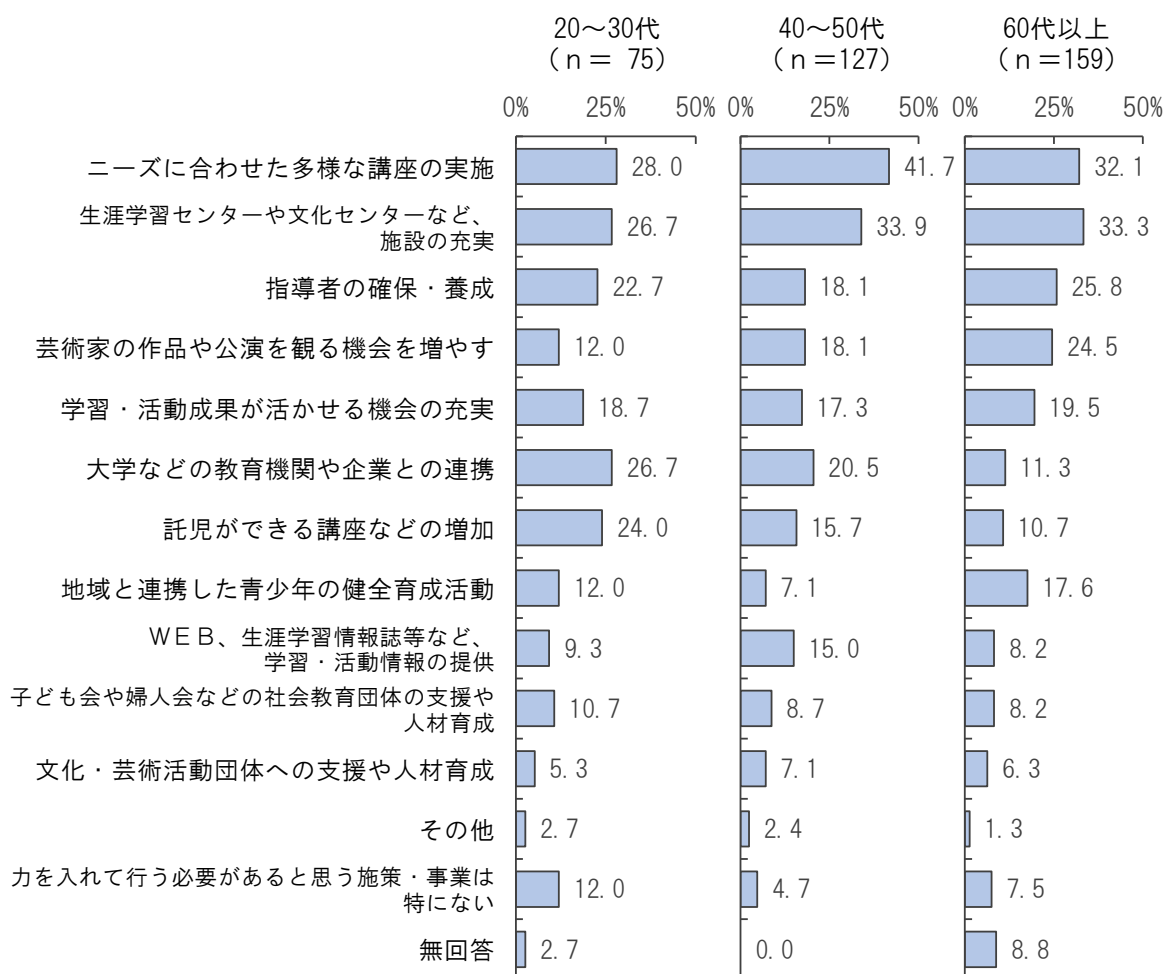
【男性】

「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が32.4%と最も多く、次いで「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が30.6%、「指導者の確保・養成」が25.3%などとなっている。

【女性】

「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が38.4%と最も多く、次いで「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が32.1%、「芸術家の作品や公演を観る機会を増やす」が22.6%などとなっている。

【年代別】



【20～30代】

「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が28.0%と最も多く、次いで「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」、「大学などの教育機関や企業との連携」がそれぞれ26.7%、「託児ができる講座などの増加」が24.0%などとなっている。

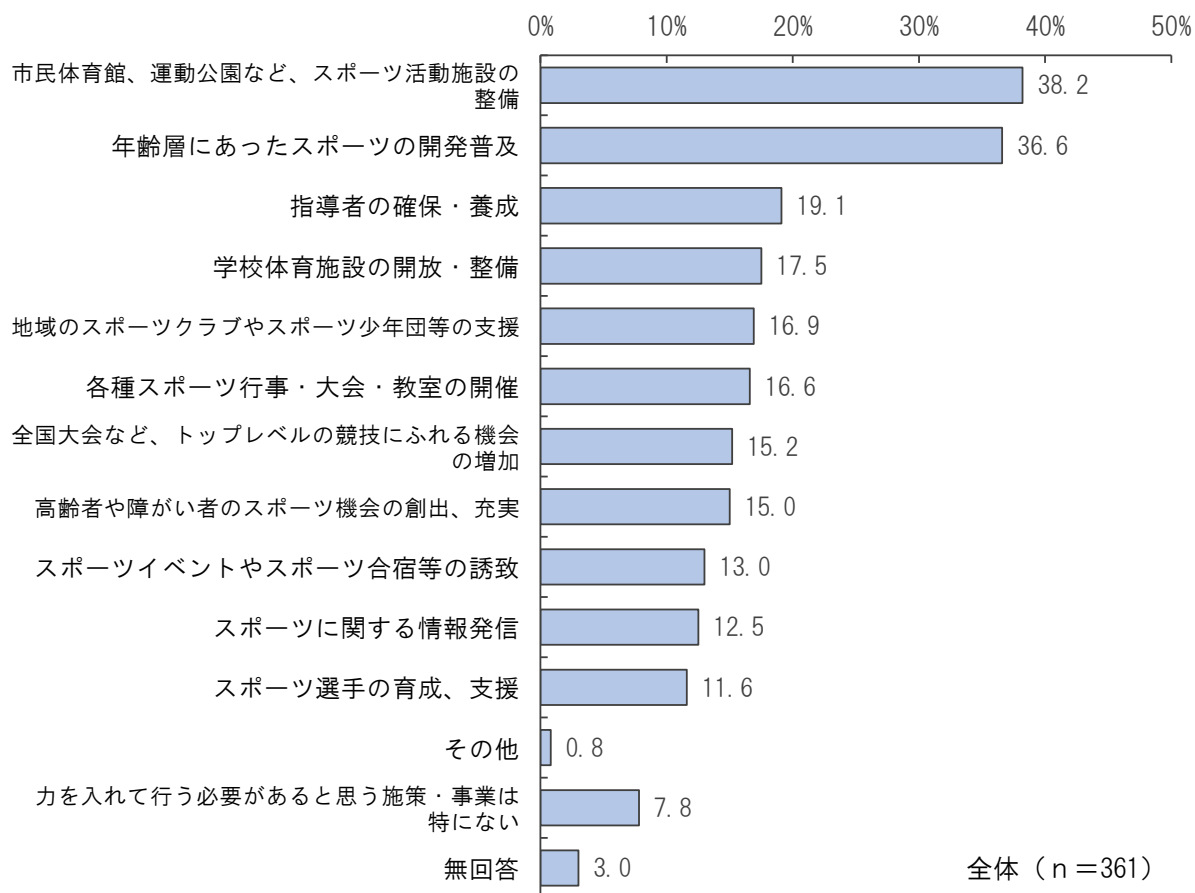
【40～50代】

「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が41.7%と最も多く、次いで「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が33.9%、「大学などの教育機関や企業との連携」が20.5%などとなっている。

【60代以上】

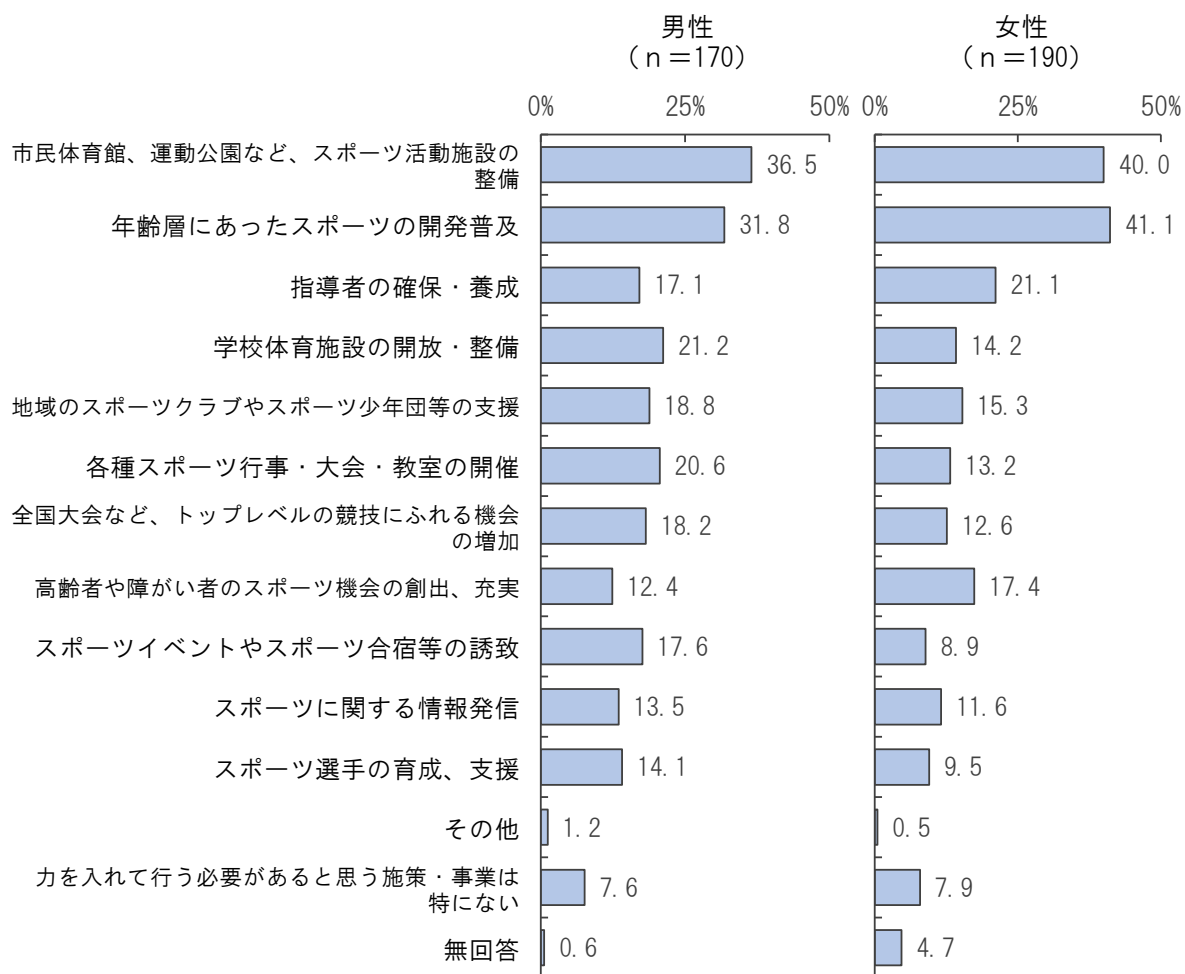
「生涯学習センターや文化センターなど、施設の充実」が33.3%と最も多く、次いで「ニーズに合わせた多様な講座の実施」が32.1%、「指導者の確保・養成」が25.8%などとなっている。

スポーツ活動について（複数回答：3つまで）



裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業（スポーツ活動）は、「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が38.2%と最も多く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」が36.6%、「指導者の確保・養成」が19.1%などとなっている。

【性別】



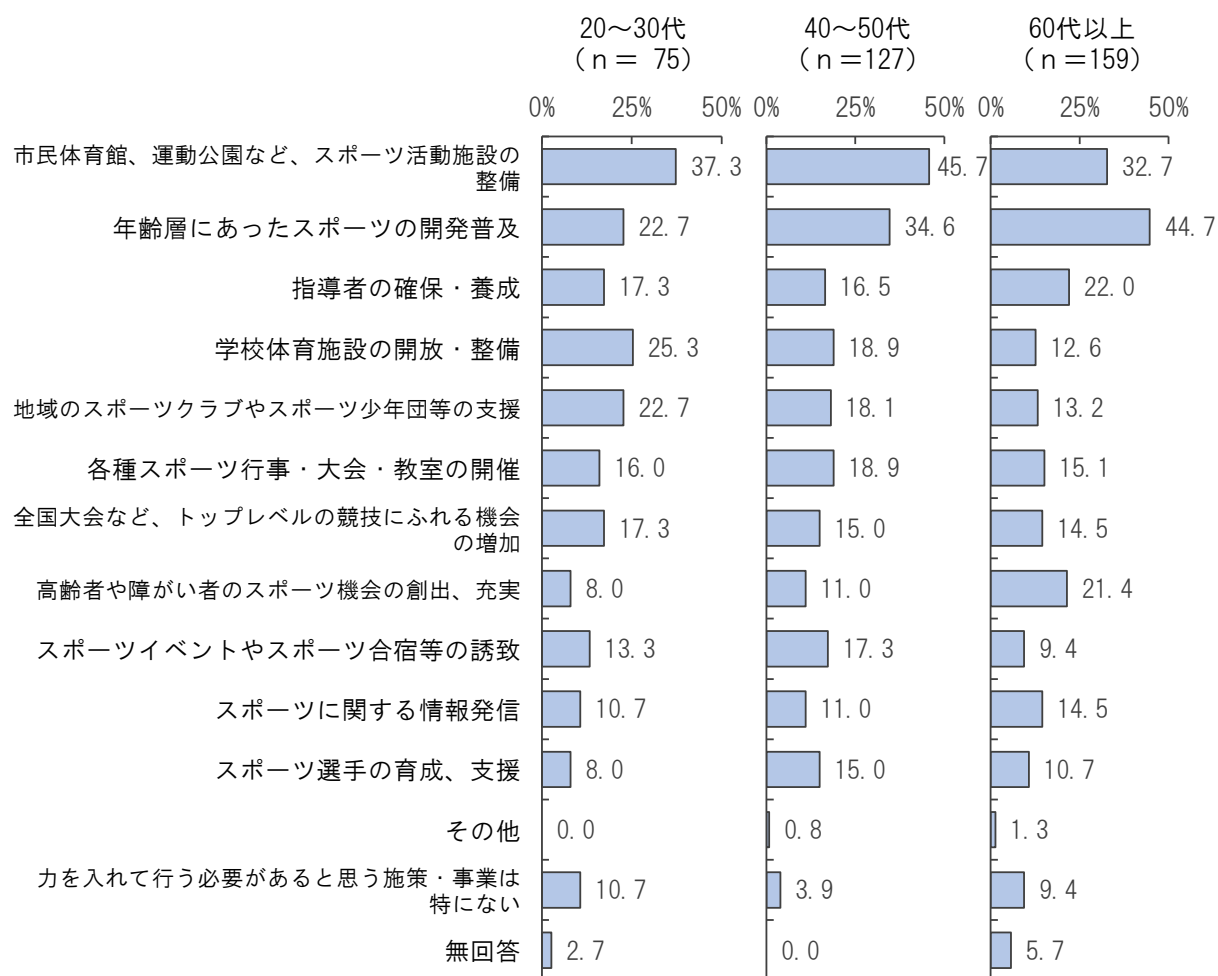
【男性】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が36.5%と最も多く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」が31.8%、「学校体育施設の開放・整備」が21.2%などとなっている。

【女性】

「年齢層にあったスポーツの開発普及」が40.0%と最も多く、次いで「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が40.0%、「指導者の確保・養成」が21.1%などとなっている。

【年代別】



【20～30代】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が37.3%と最も多く、次いで「学校体育施設の開放・整備」が25.3%、「年齢層にあったスポーツの開発普及」、「地域のスポーツクラブやスポーツ少年団等の支援」がそれぞれ22.7%などとなっている。

【40～50代】

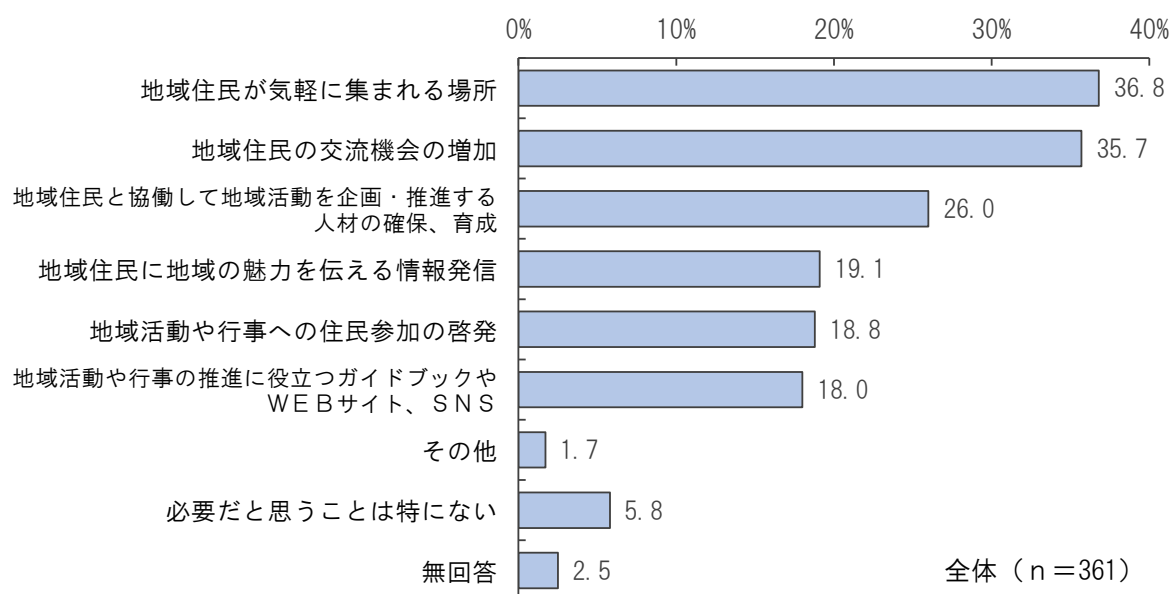
「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が45.7%と最も多く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」が34.6%、「学校体育施設の開放・整備」、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」がそれぞれ18.9%などとなっている。

【60代以上】

「年齢層にあったスポーツの開発普及」が44.7%と最も多く、次いで「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」が32.7%、「指導者の確保・養成」が22.0%などとなっている。

（３）地域住民のつながりを広げるために必要だと思うこと

問 14. 地域をより良くするためには人と人のつながりが大切です。地域住民のつながりを広げるためには何が必要だと思いますか。（複数回答：２つまで）



地域住民のつながりを広げるために必要だと思うことは、「地域住民が気軽に集まれる場所」が36.8%と最も多く、次いで「地域住民の交流機会の増加」が35.7%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が26.0%などとなっている。

【男性】

「地域住民の交流機会の増加」が37.6%と最も多く、次いで「地域住民が気軽に集まれる場所」が31.8%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が29.4%などとなっている。

【女性】

「地域住民が気軽に集まれる場所」が41.6%と最も多く、次いで「地域住民の交流機会の増加」が34.2%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が23.2%などとなっている。

【20～30代】

「地域住民が気軽に集まれる場所」が45.3%と最も多く、次いで「地域住民の交流機会の増加」が36.0%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が24.0%などとなっている。

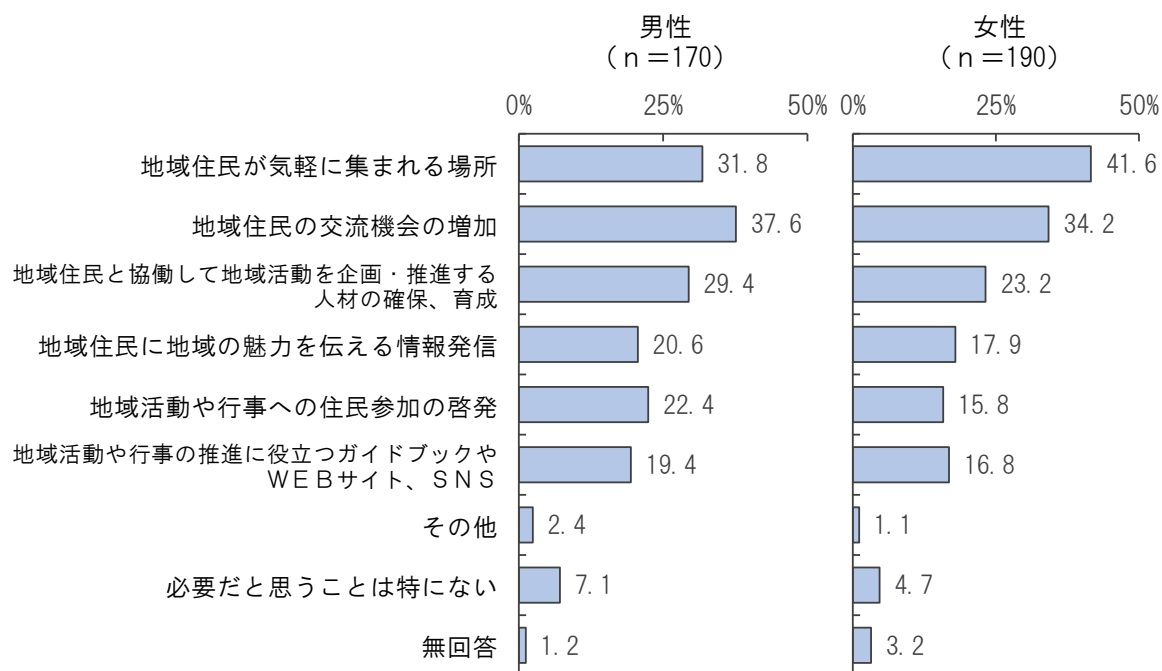
【40～50代】

「地域住民の交流機会の増加」が37.0%と最も多く、次いで「地域住民が気軽に集まれる場所」が36.2%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が26.0%などとなっている。

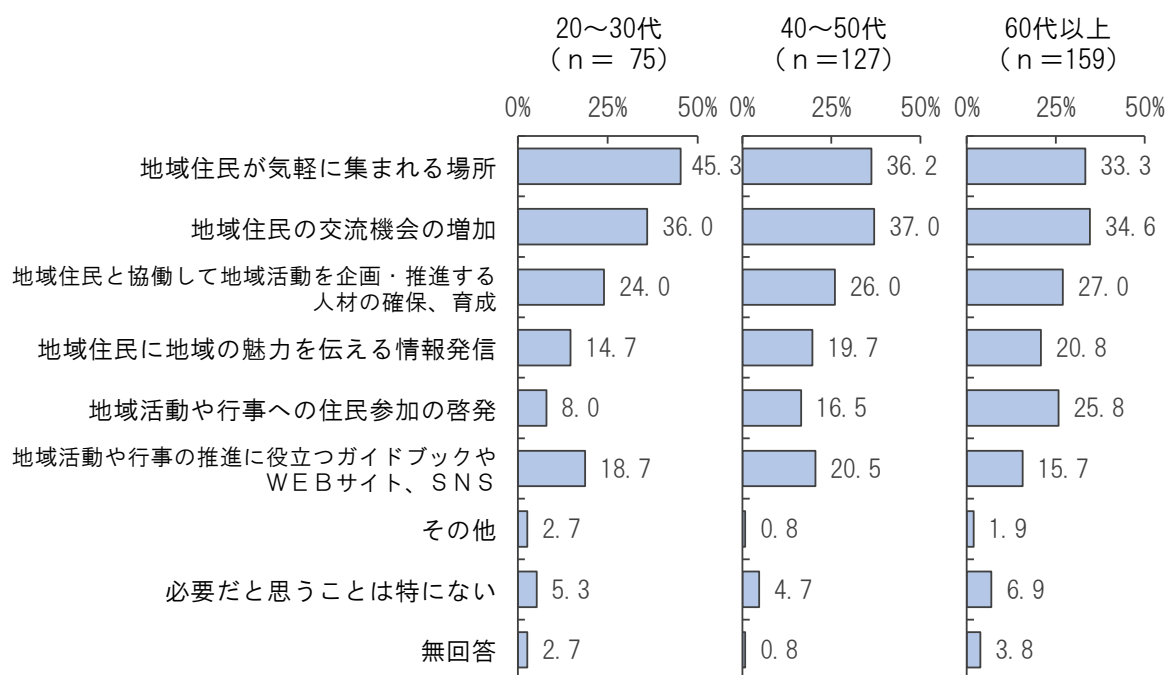
【60代以上】

「地域住民の交流機会の増加」が34.6%と最も多く、次いで「地域住民が気軽に集まれる場所」が33.3%、「地域住民と協働して地域活動を企画・推進する人材の確保、育成」が27.0%などとなっている。

【性別】



【年代別】



資料4 令和元年度裾野市生活習慣等に関するアンケート調査(抜粋)

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和2年度に予定している「第2次すその健康増進プラン」「第3次裾野市食育推進計画」「第2次裾野市歯科保健計画」「第2次裾野市自殺総合対策計画」「第2次裾野市母子保健計画」を策定するにあたり、アンケート調査を実施することにより、食の現状や課題、日常生活での健康観や生活習慣等を把握し、基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の設計

調査時期：令和元年8月29日から令和元年9月30日

調査種別と調査対象

調査種別	調査対象
① 一般調査	市内在住の20歳以上の男女個人1,000人（無作為抽出）
② 小学校・中学校調査	小学校5年生216人、中学校2年生136人
③ 幼稚園・保育園年長児調査	年長児童の保護者381人
④ 受動喫煙防止対策に関する調査	市内の医療機関・公共機関等158施設

調査方法

調査種別	調査方法
① 一般調査	郵送調査（ハガキによる督促1回）
② 小学校・中学校調査	各施設に直接調査票を手渡し配布、手渡し回収
③ 幼稚園・保育園年長児調査	
④ 受動喫煙防止対策に関する調査	各施設に直接調査票を手渡し配布、FAX・郵送等で回収

3 調査の内容

調査種別	調査内容	
① 一般調査	・属性（性別・年齢等） ・食生活について ・食文化について ・食の安全性について ・飲酒習慣について ・こころの健康について ・その他（地域社会活動等）	・健康感について ・食育への関心について ・地産地消について ・運動及び日常生活について ・喫煙習慣について ・歯科保健について
② 小学校・中学校調査	・性別 ・健康状態について ・家庭での食事について	・起床、就寝時間 ・排便習慣 ・ダイエット経験について

調査種別	調査内容	
③ 幼稚園・保育園年長児調査	・ 属性（年齢等） ・ 起床、就寝時間 ・ 普段の遊びについて ・ 保護者の生活習慣について	・ 健康状態について ・ 家庭での食事について ・ 歯磨きについて
④ 受動喫煙防止対策に関する調査	・ 施設管理者と職員の喫煙状況について	
	・ 施設の現在の状況について	

4 回収結果

調査種別	調査数	有効回収数	有効回収率
① 一般調査	1,000 人	499 人	49.9%
② 小学校・中学校調査	352 人	336 人	95.5%
③ 幼稚園・保育園年長児調査	381 人	359 人	94.2%
④ 受動喫煙防止対策に関する調査	158 施設	158 施設	100.0%

5 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・ 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

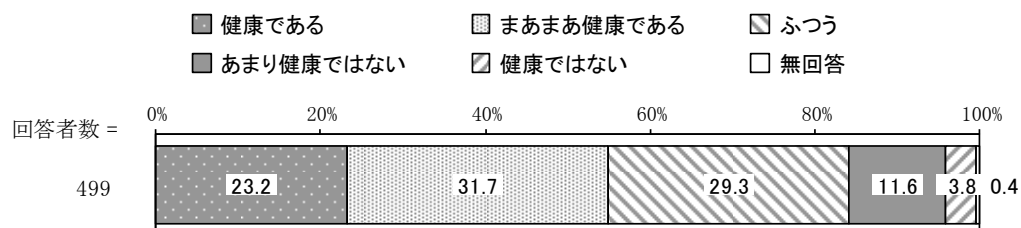
Ⅱ 調査結果

1 一般調査

(2) あなたの健康について

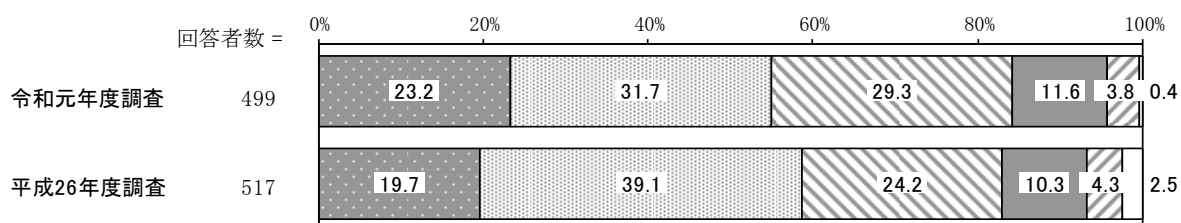
問1 自分の健康状態についてどのように感じていますか。(○は1つ)

「健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた“健康である”の割合が54.9%、「あまり健康でない」と「健康でない」を合わせた“健康でない”の割合が15.4%となっています。



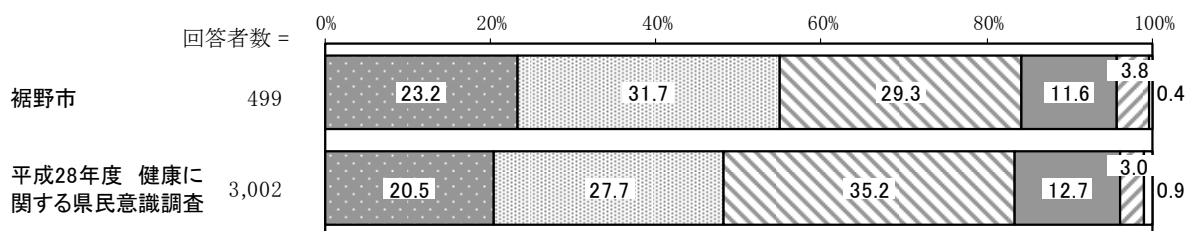
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、「まあまあ健康である」が7.4ポイント減少し、「ふつう」が5.1ポイント増加しています。



【県調査との比較】

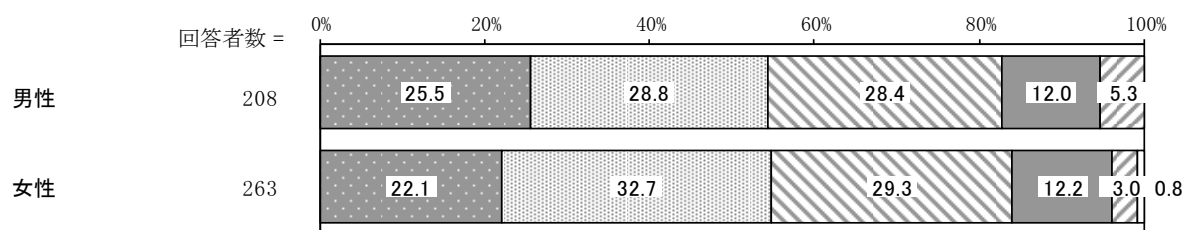
県調査と比較すると、「ふつう」が5.9ポイント低くなっています。



※平成28年度 健康に関する県民意識調査では選択肢は「よい」、「まあよい」、「ふつう」、「あまりよくない」、「よくない」となっている。

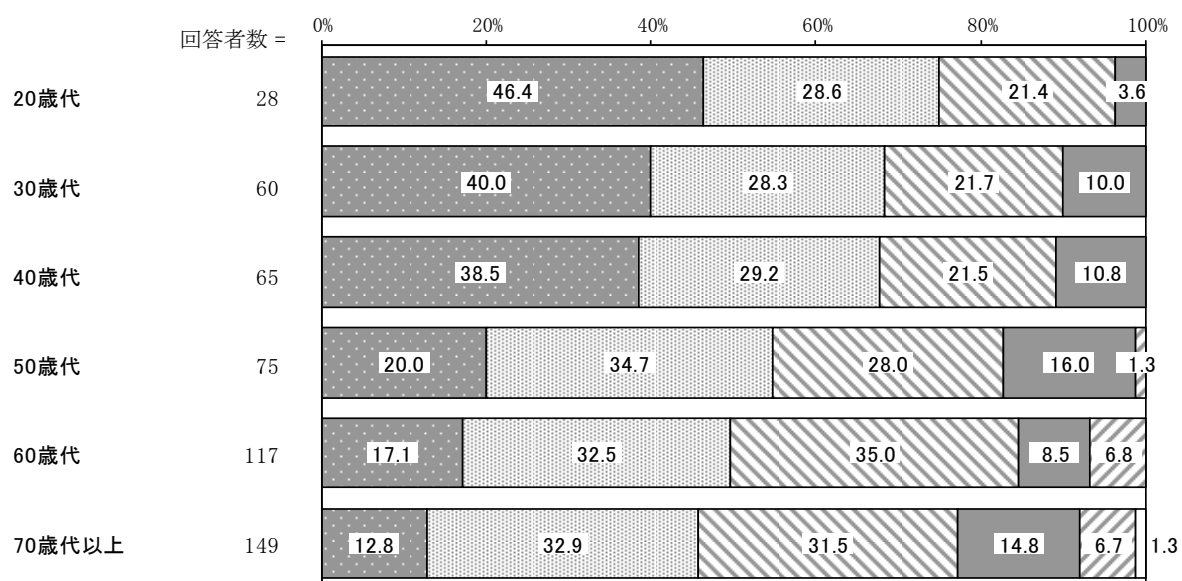
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



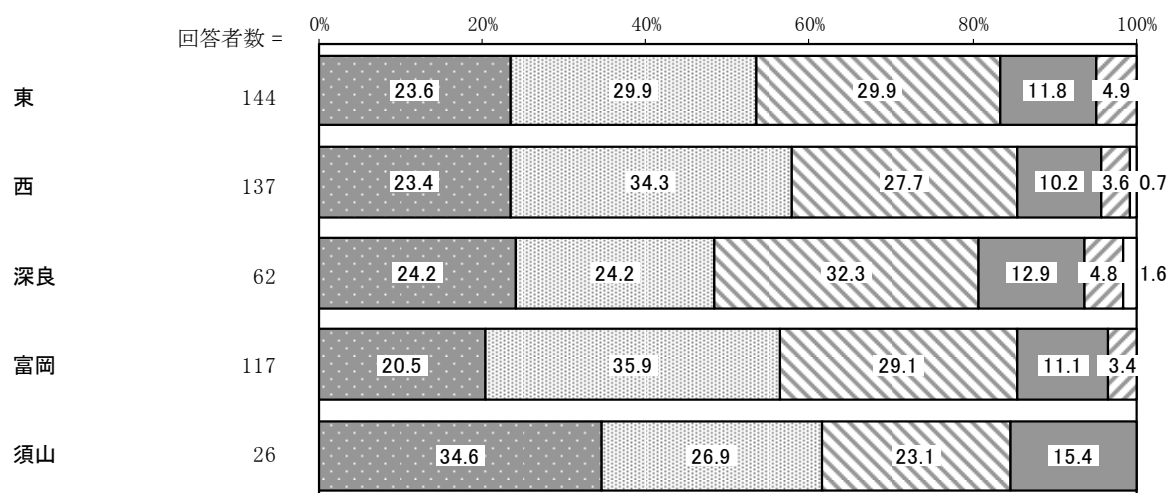
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、年齢が低くなるにつれ“健康である”の割合が高く、年齢が高くなるにつれ“健康ではない”の割合が高くなっています。



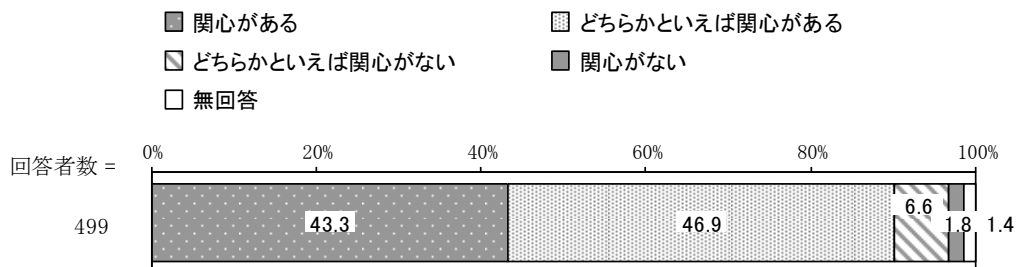
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、須山で“健康である”の割合が高くなっています。



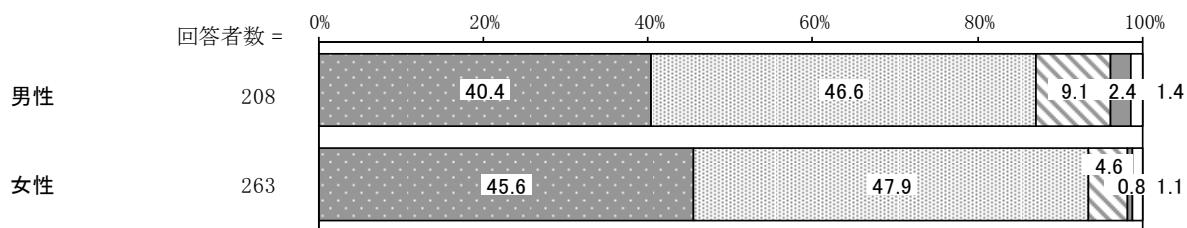
問2 自分自身や家族の健康づくりに関心がありますか。(○は1つ)

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 90.2%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が 8.4%となっています。



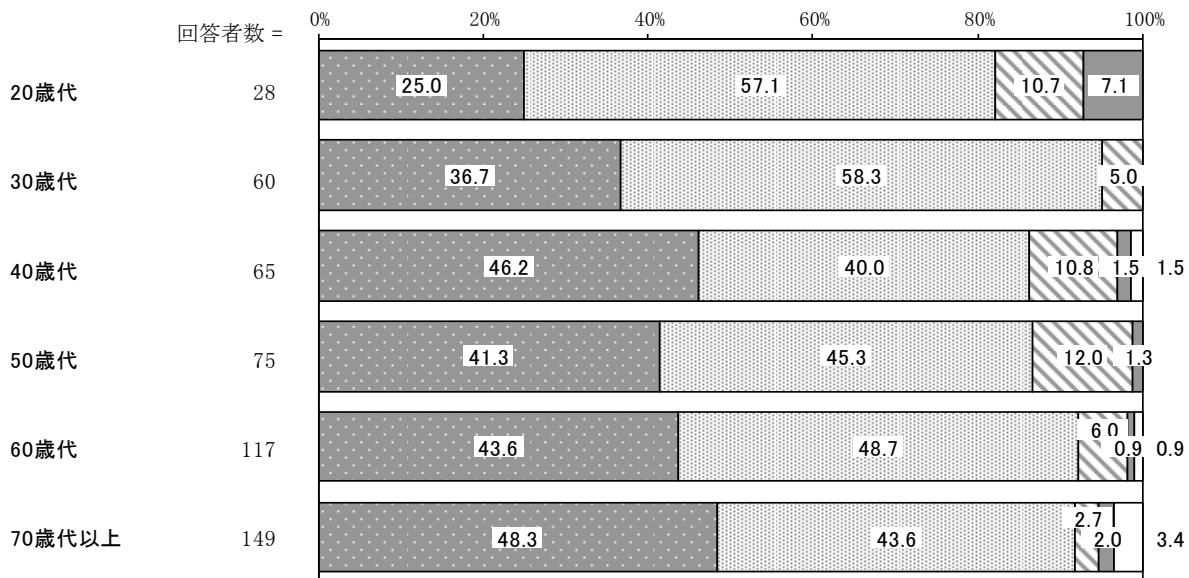
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“関心がある”の割合が高くなっています。



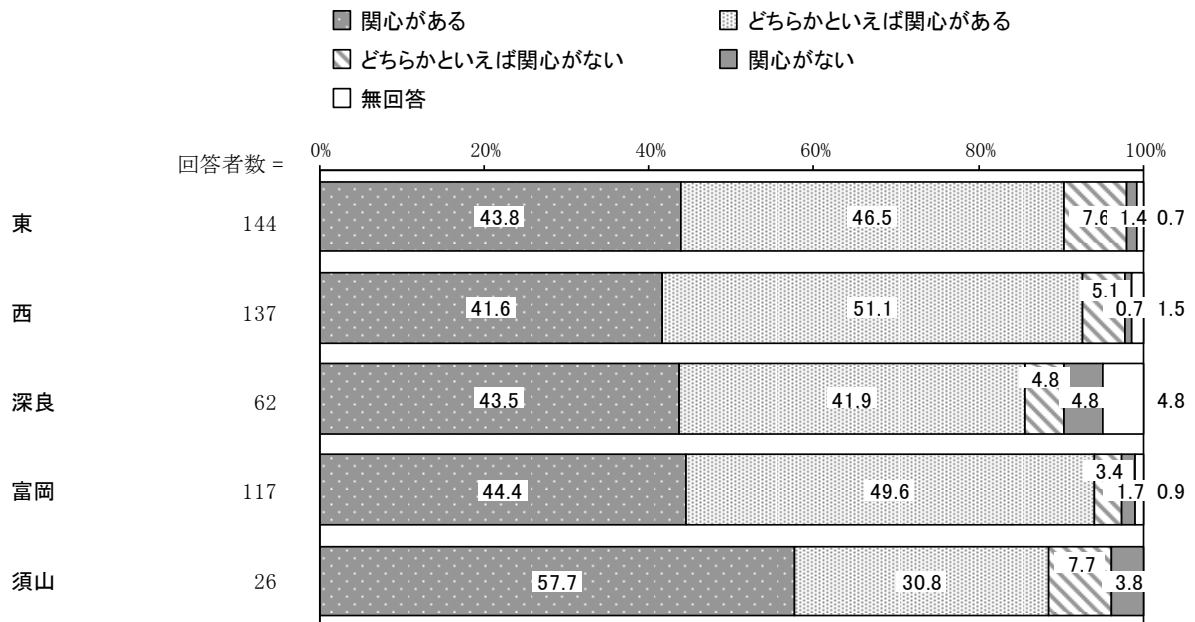
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、30歳代で“関心がある”の割合が高くなっています。また、20歳代で“関心がない”の割合が高くなっています。



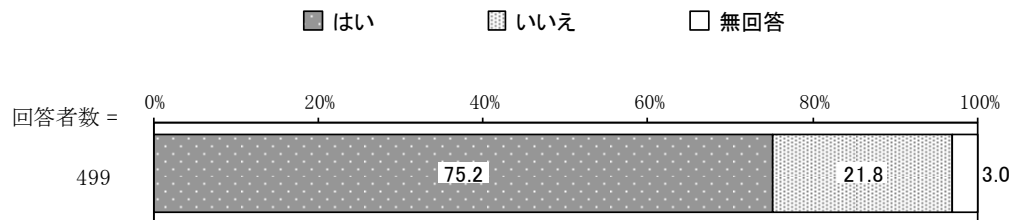
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、富岡で“関心がある”の割合が高くなっています。また、東、深良、須山で“関心がない”の割合が高くなっています。



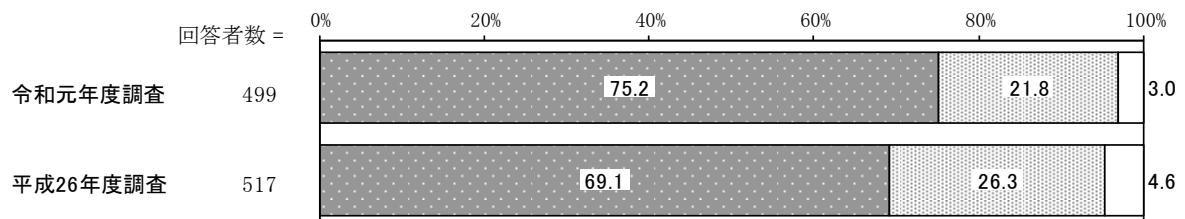
問3 自分の適正体重を知っていますか。(○は1つ)

「はい」の割合が75.2%、「いいえ」の割合が21.8%となっています。



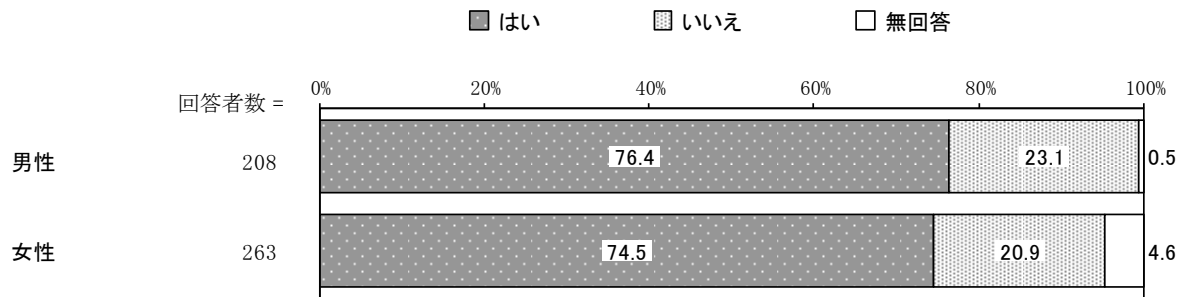
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、「はい」が6.1ポイント増加しています。



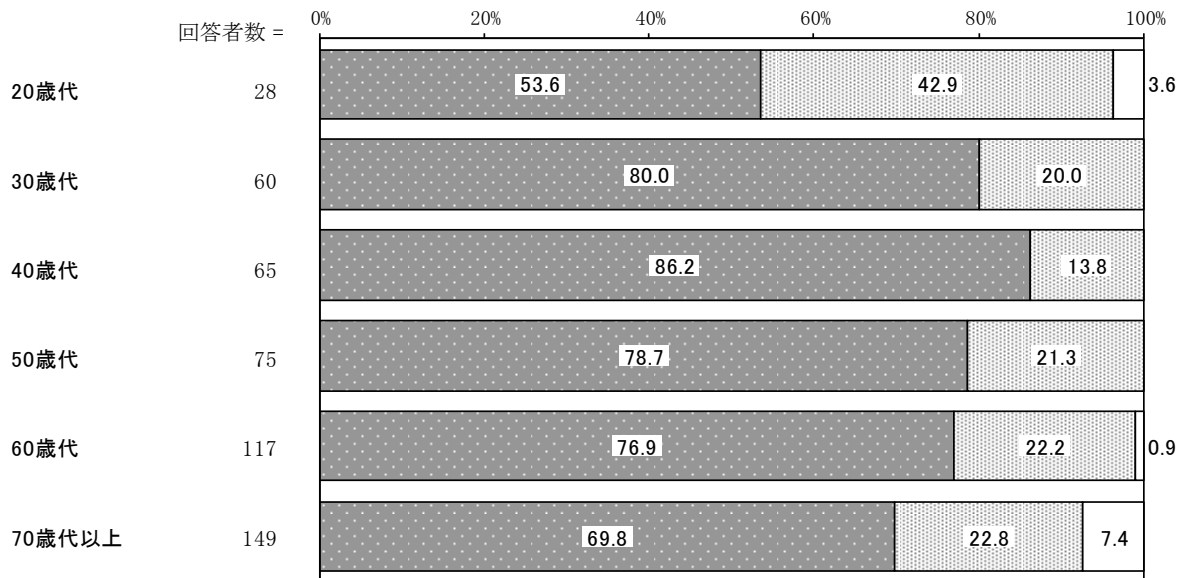
【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



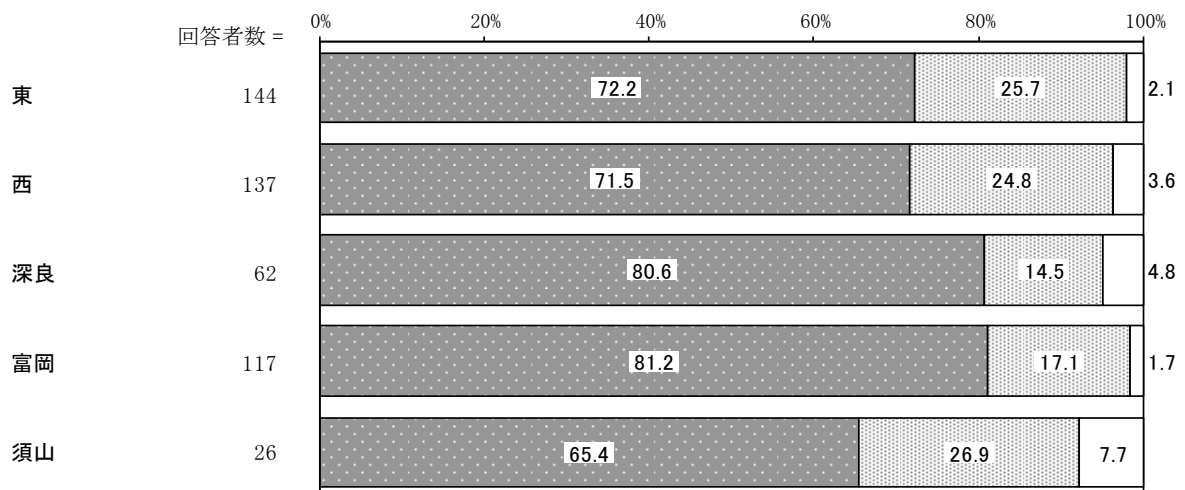
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、40歳代で「はい」の割合が高くなっています。また、20歳代で「いいえ」の割合が高くなっています。



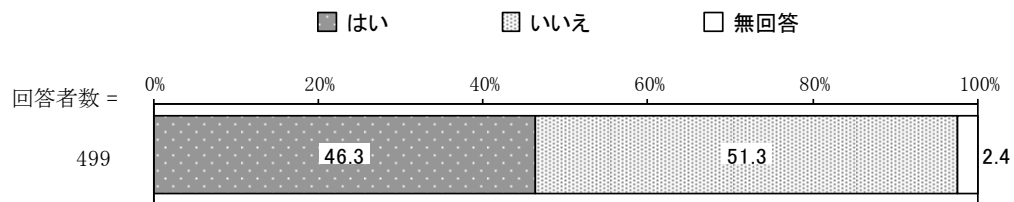
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、深良、富岡で「はい」の割合が高くなっています。



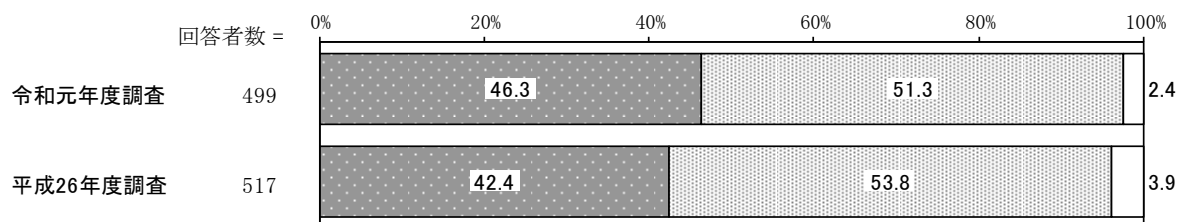
問4 適正体重に近づくように体重コントロールを実践していますか。(○は1つ)

「はい」の割合が46.3%、「いいえ」の割合が51.3%となっています。



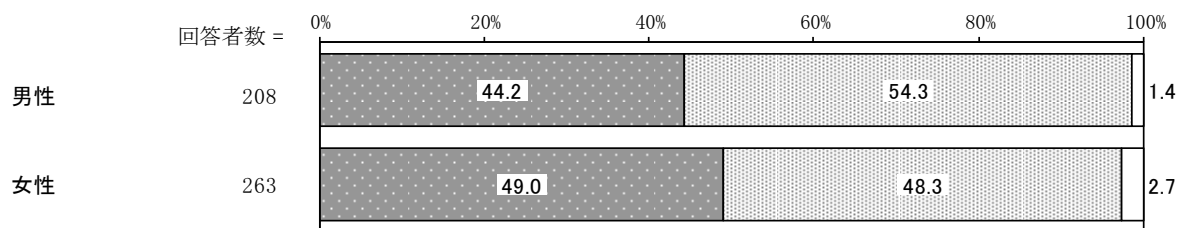
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



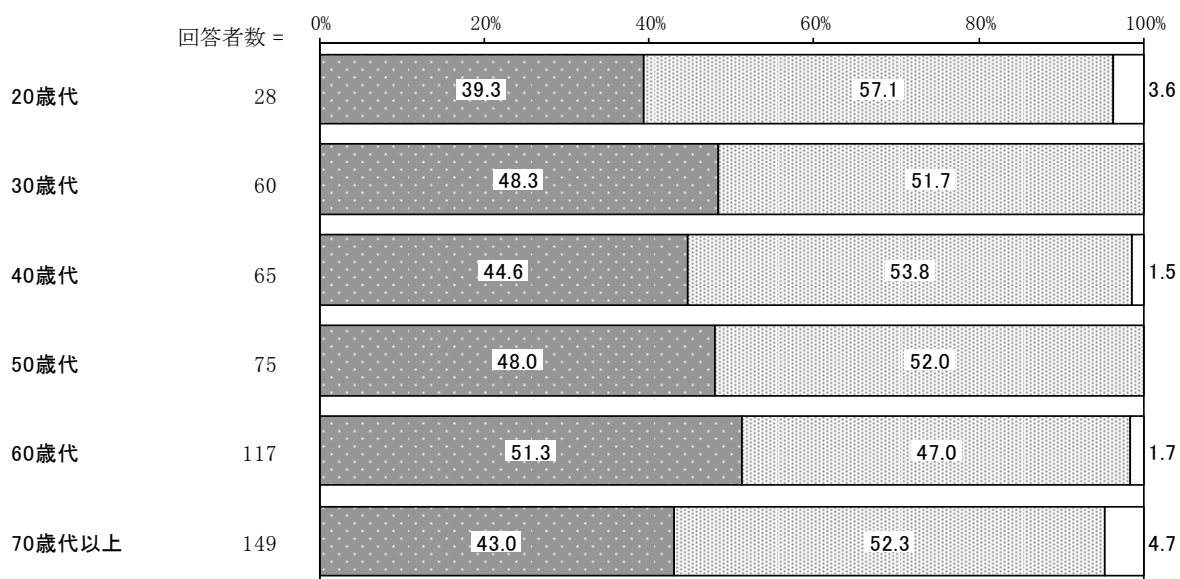
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。



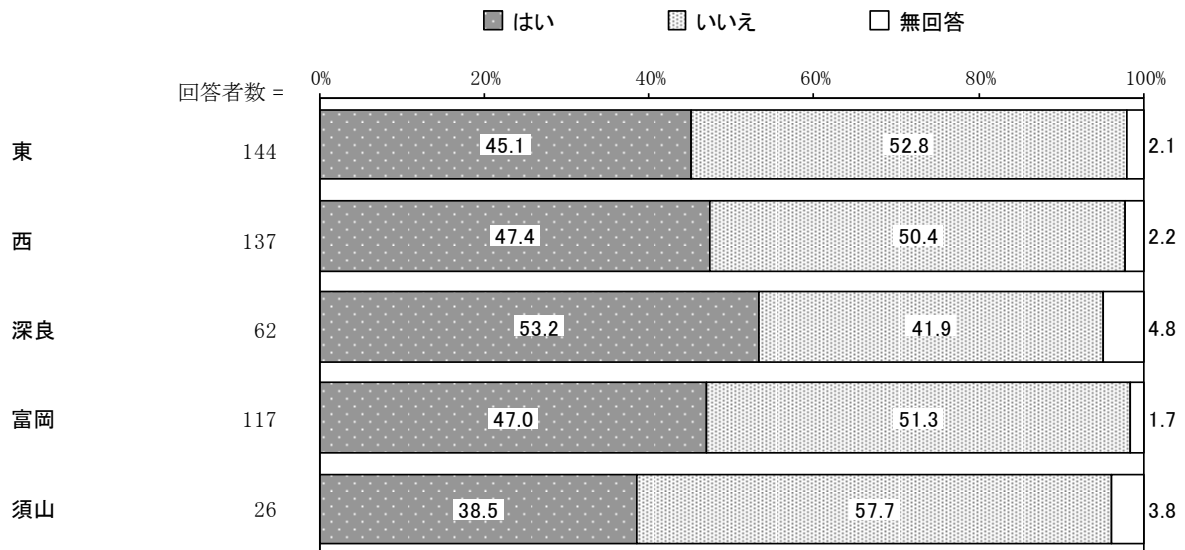
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、30歳代、50歳代、60歳代で「はい」の割合が高くなっています。また、20歳代で「いいえ」の割合が高くなっています。



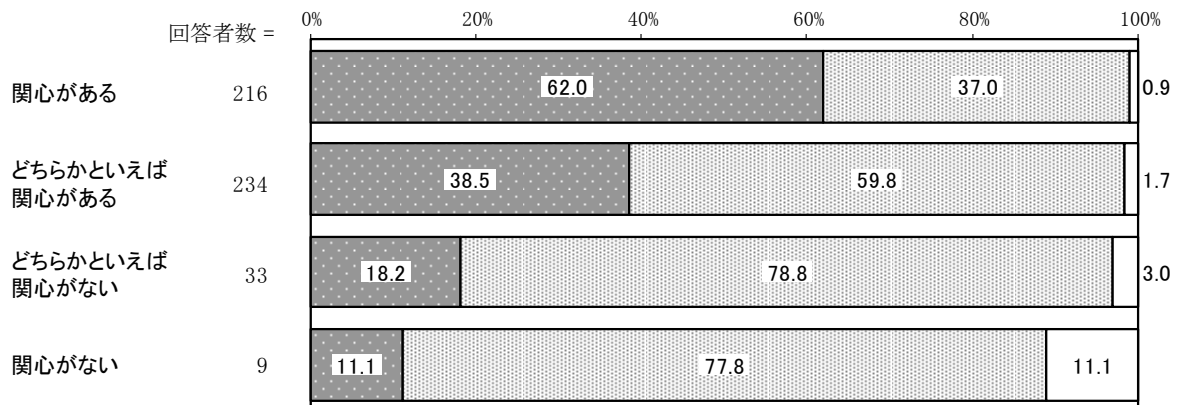
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、深良で「はい」の割合が高くなっています。また、須山で「いいえ」の割合が高くなっています。



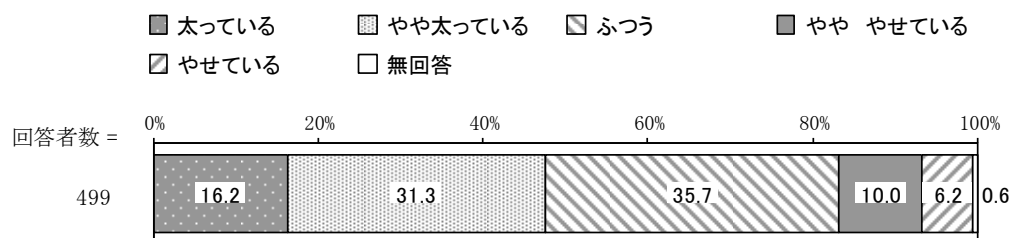
【健康づくりへの関心度別】（問4 体重コントロールの実践×問2 健康づくりへの関心度）

健康づくりへの関心度別でみると、関心がある人ほど「はい」の割合が高くなっています。



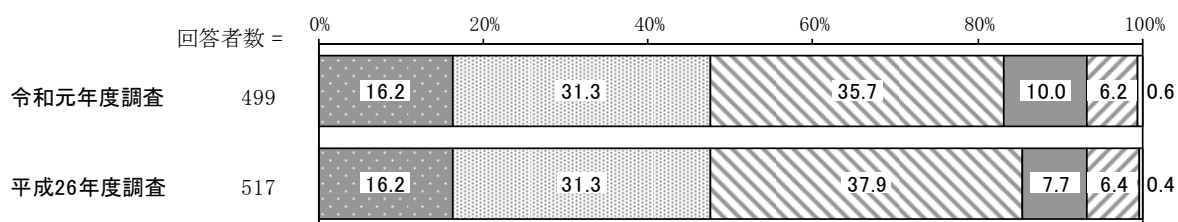
問5 ご自分の体型をどのように感じていますか。(〇は1つ)

「太っている」と「やや太っている」を合わせた“太っている”の割合が47.5%、「やややせている」と「やせている」を合わせた“やせている”の割合が16.2%となっています。



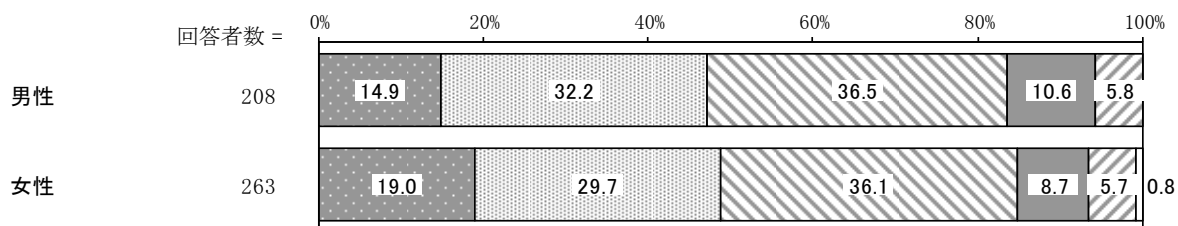
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



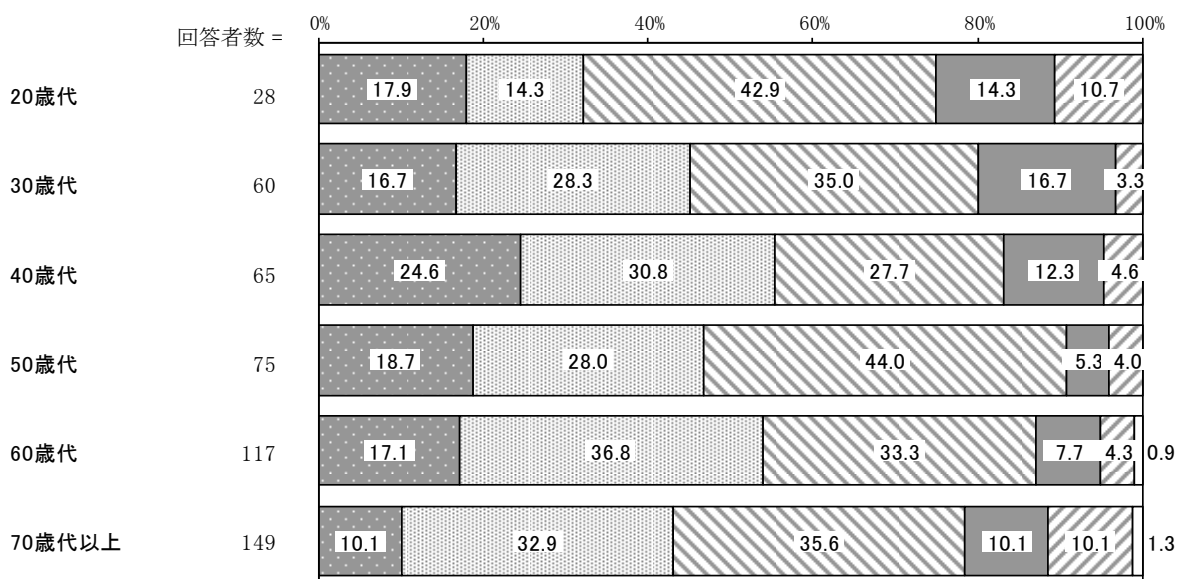
【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



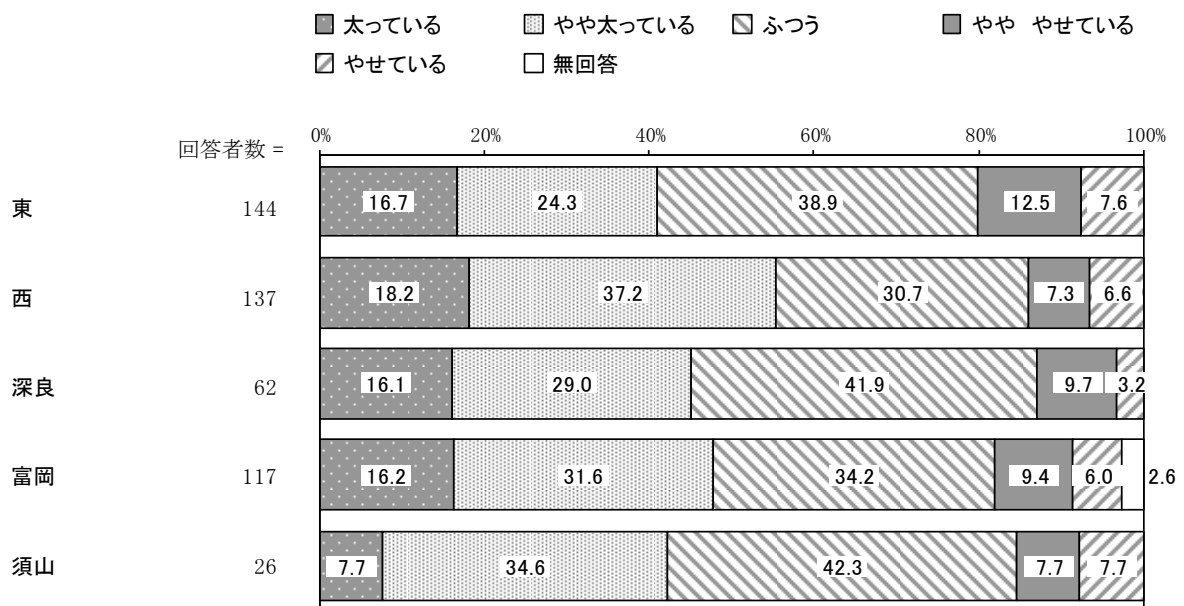
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、40歳代、60歳代で“太っている”の割合が高くなっています。また、20歳代で“やせている”の割合が高くなっています。



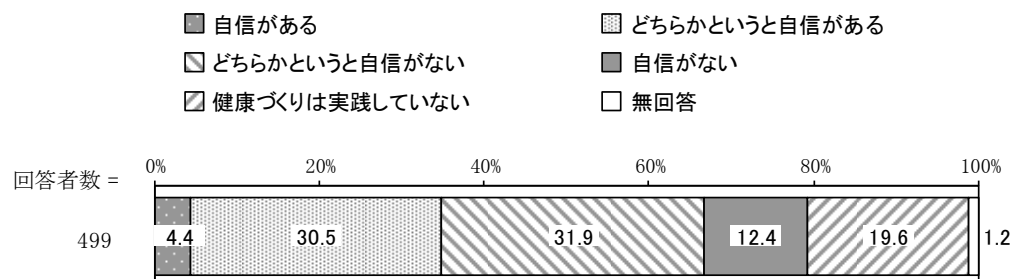
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西で“太っている”の割合が、東で“やせている”の割合が高くなっています。



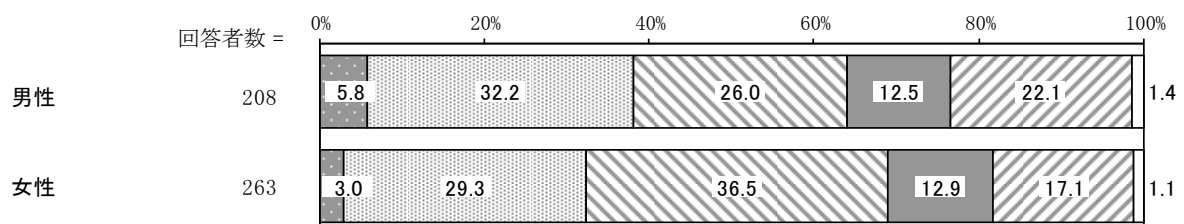
問6 ご自分が実践している健康づくりに自信がありますか。(○は1つ)

「自信がある」と「どちらかという自信がある」を合わせた“自信がある”の割合が 34.9%、「どちらかという自信がない」と「自信がない」を合わせた“自信がない”の割合が 44.3%、「健康づくりは実践していない」の割合が 19.6%となっています。



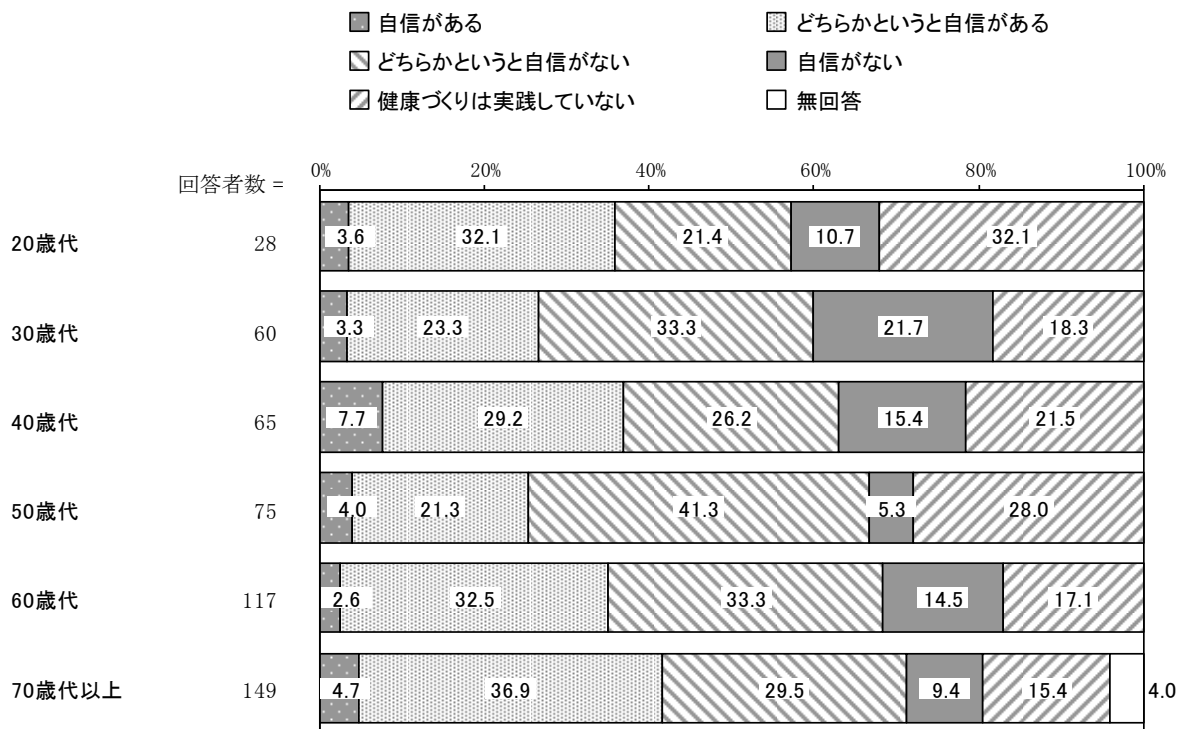
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「健康づくりは実践していない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“自信がない”の割合が高くなっています。



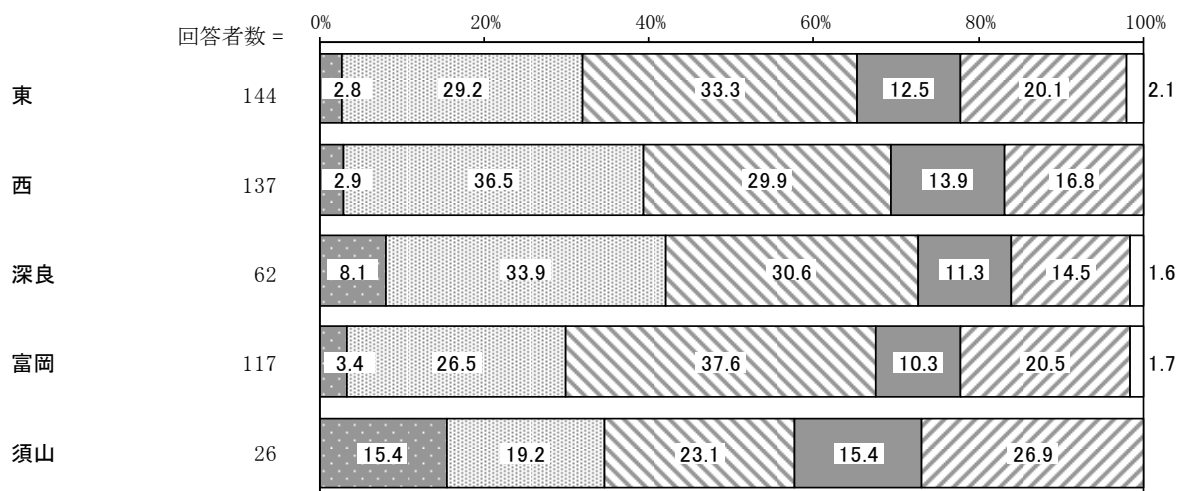
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70 歳代以上で“自信がある”の割合が高くなっています。また、30 歳代で“自信がない”の割合が高くなっています。



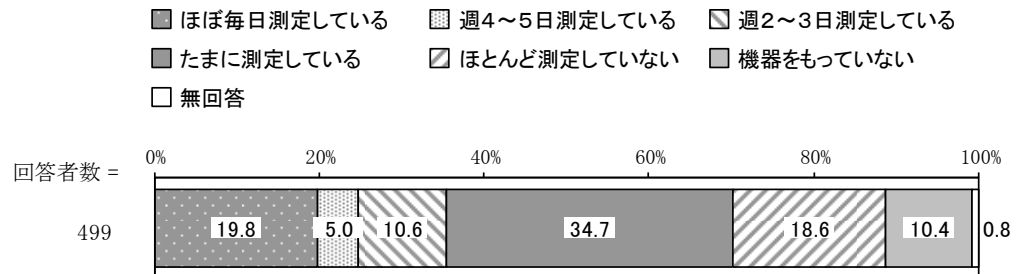
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西、深良で“自信がある”の割合が高くなっています。また、富岡で“自信がない”の割合が高くなっています。



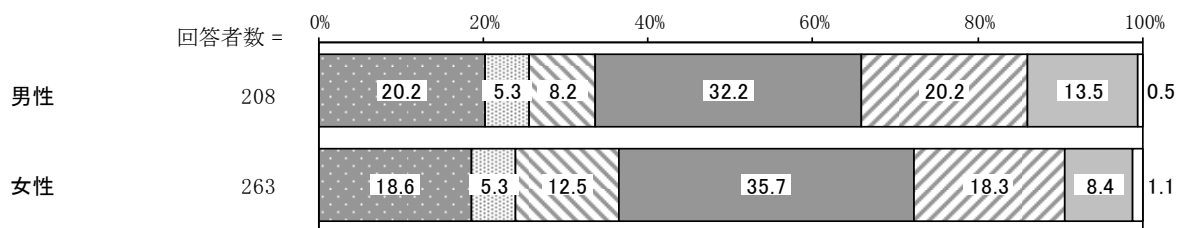
問7 ご自分で体重計や歩数計、血圧計等自らの健康管理に必要な機器をそろえ、定期的に測定していますか。(〇は1つ)

「たまに測定している」の割合が34.7%と最も高く、次いで「ほぼ毎日測定している」の割合が19.8%、「ほとんど測定していない」の割合が18.6%となっています。



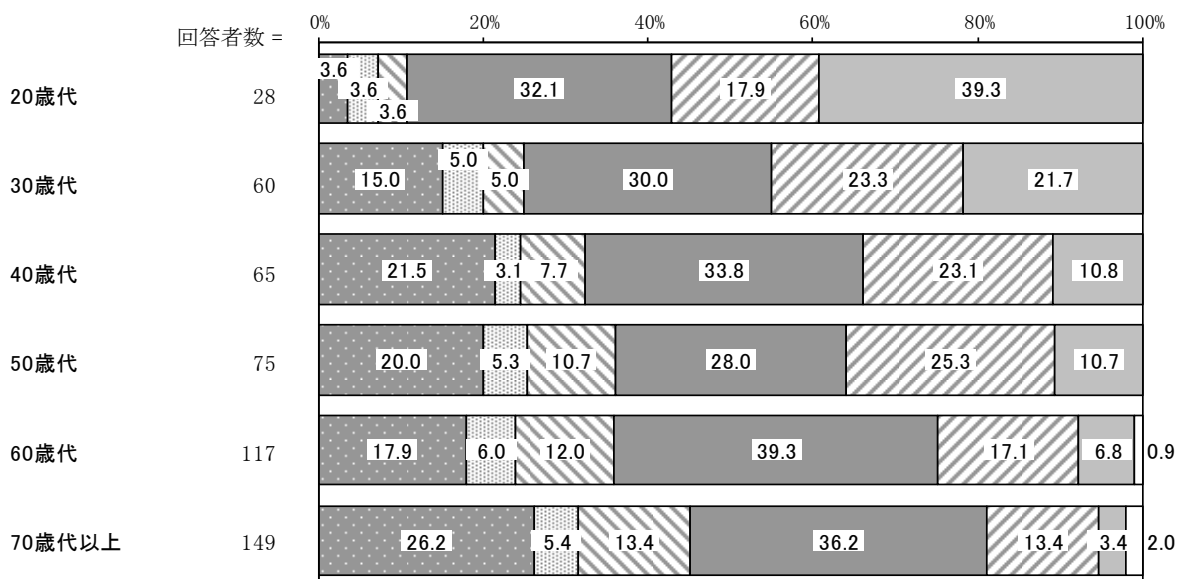
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「機器をもっていない」の割合が高くなっています。



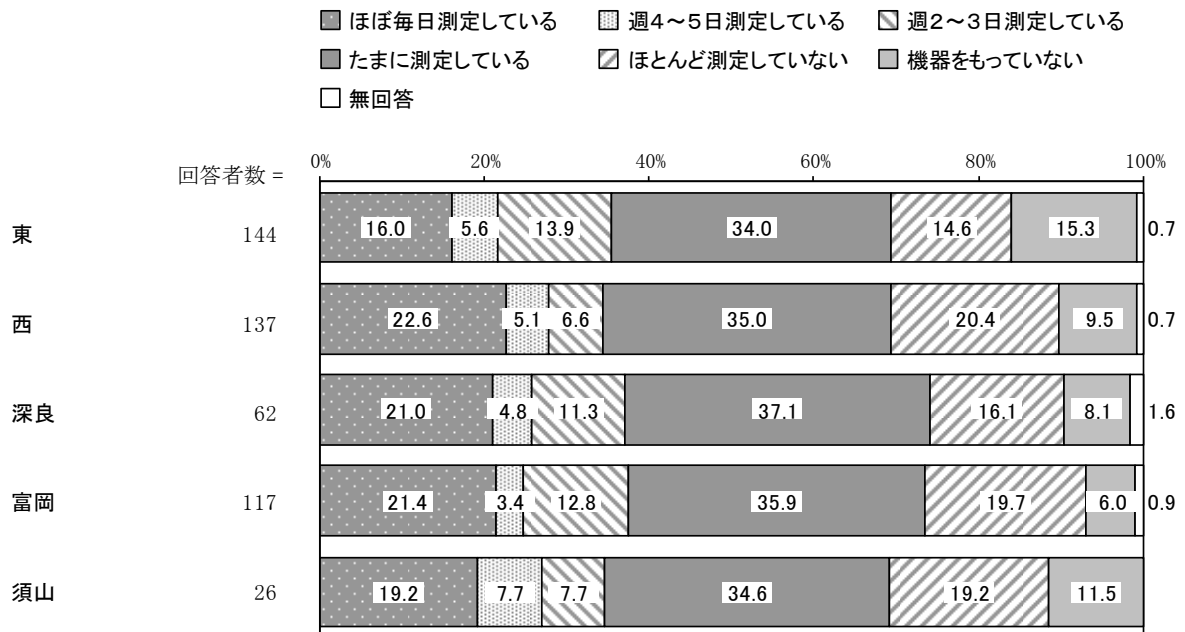
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「週2～3日測定している」の割合が、年齢が低くなるにつれ「機器をもっていない」の割合が高くなっています。また、他の年齢に比べ、70歳代以上で「ほぼ毎日測定している」の割合が高くなっています。



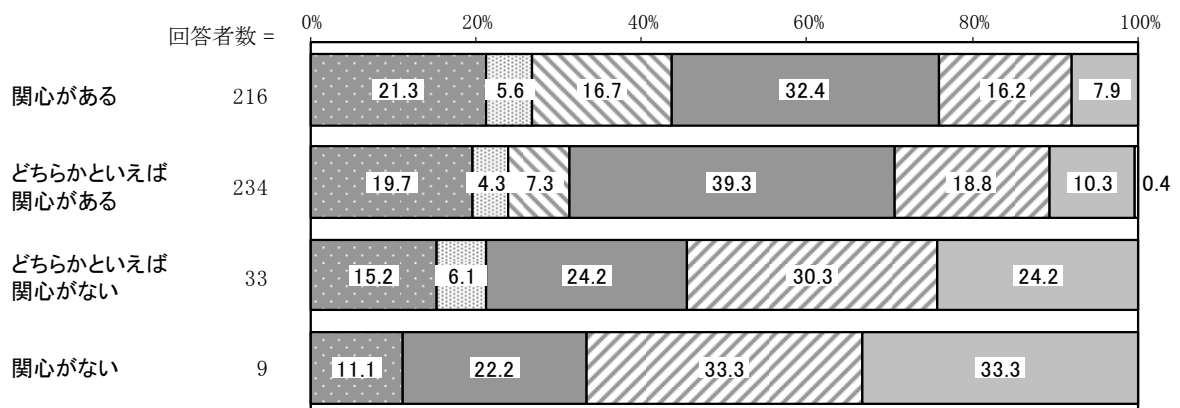
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、東で「機器をもっていない」の割合が高くなっています。



【健康づくりへの関心度別】（問7 健康管理×問2 健康づくりへの関心度）

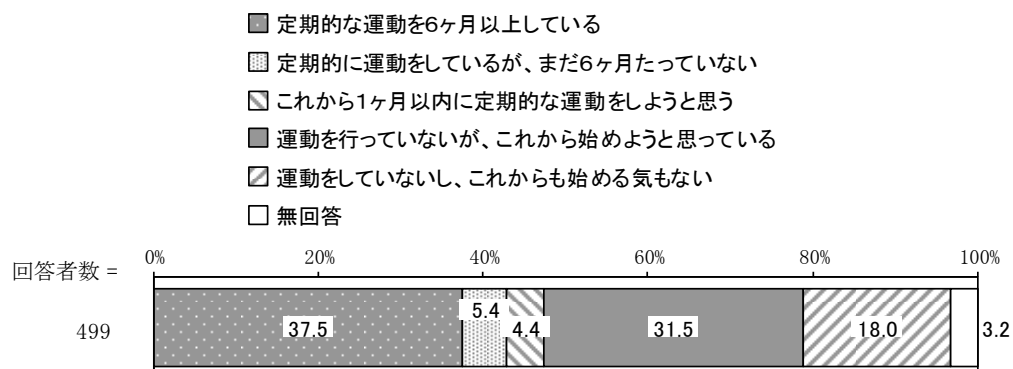
健康づくりへの関心度別でみると、関心がない人ほど「機器をもっていない」の割合が高くなっています。



（５）運動および日常生活について

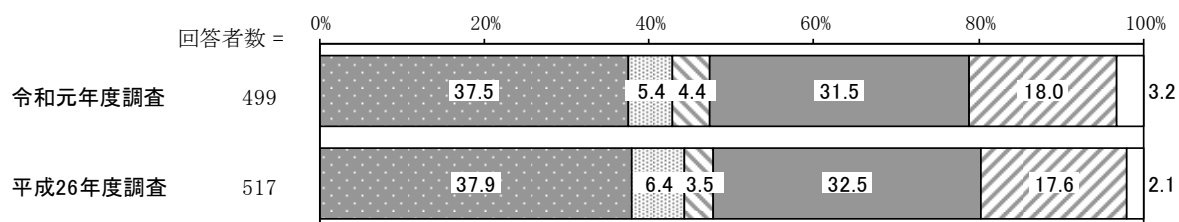
問 32 運動習慣についてお聞きします。次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

「定期的な運動を６ヶ月以上している」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「運動を行っていないが、これから始めようと思っている」の割合が 31.5%、「運動をしていないし、これからも始める気もない」の割合が 18.0%となっています。



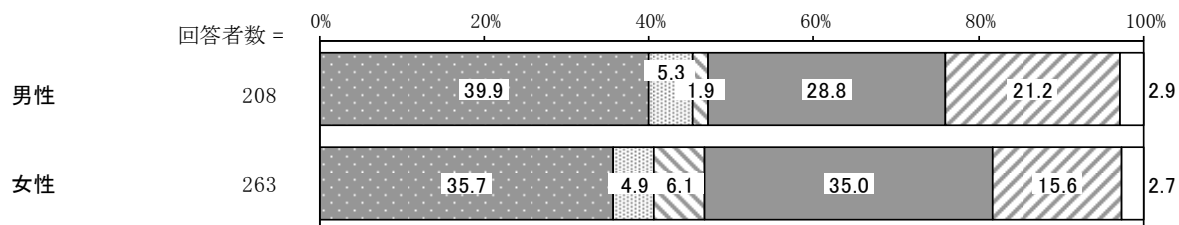
【前回調査との比較】

平成 26 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



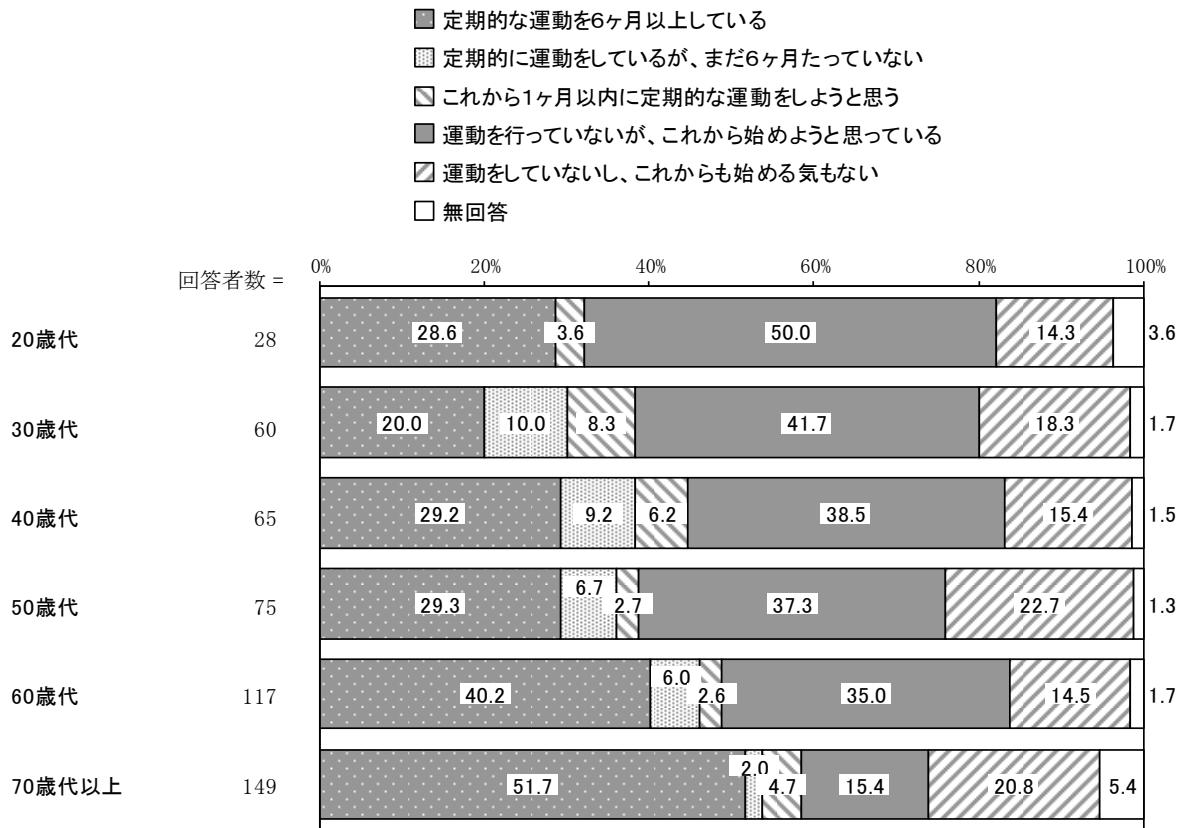
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「運動をしていないし、これからも始める気もない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「運動を行っていないが、これから始めようと思っている」の割合が高くなっています。



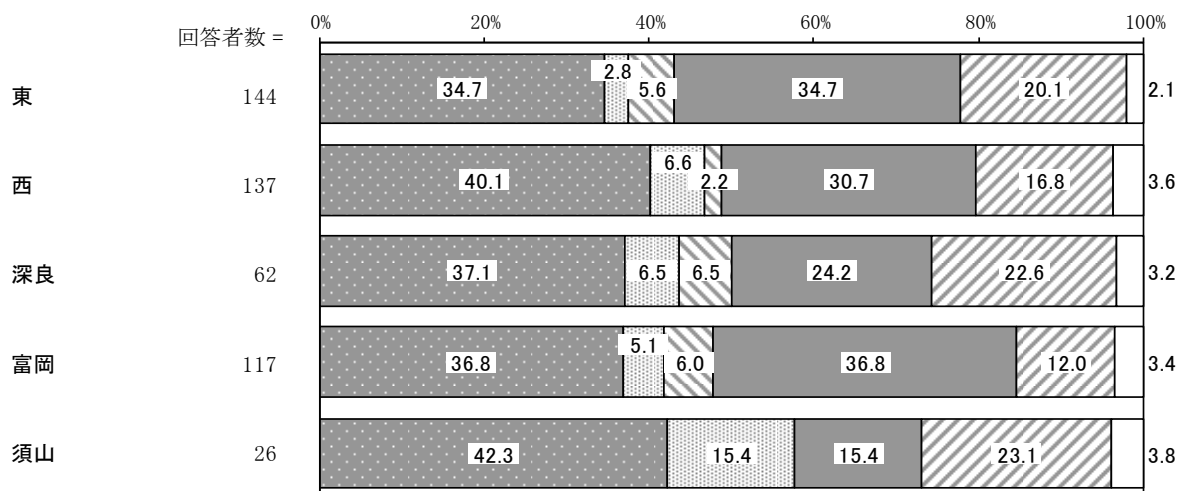
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70歳代以上で「定期的な運動を6ヶ月以上している」の割合が高くなっています。また、20歳代で「運動を行っていないが、これから始めようと思っている」の割合が高くなっています。



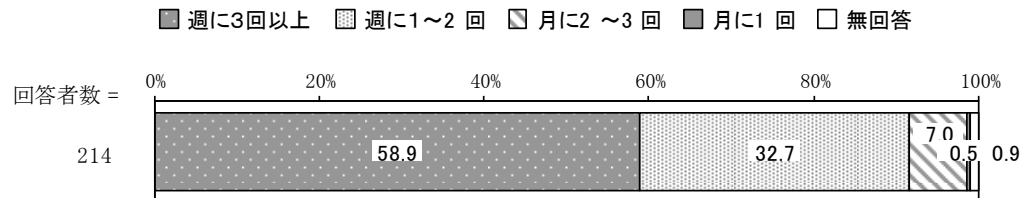
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、東、富岡で「運動を行っていないが、これから始めようと思っている」の割合が高くなっています。また、須山で「定期的に運動をしているが、まだ6ヶ月たっていない」の割合が高くなっています。



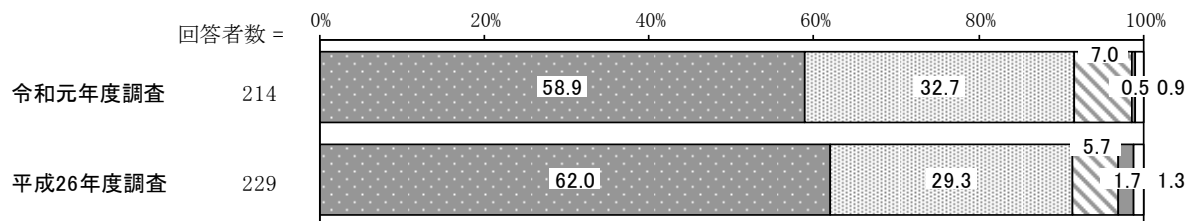
問 32－1 問 32 で「定期的な運動を6ヶ月以上している」「定期的に運動をしているが、まだ6ヶ月たっていない」と回答した方にうかがいます。
平均すると、運動をどのくらい行っていますか。(〇は1つ)

「週に3回以上」の割合が58.9%と最も高く、次いで「週に1～2回」の割合が32.7%となっています。



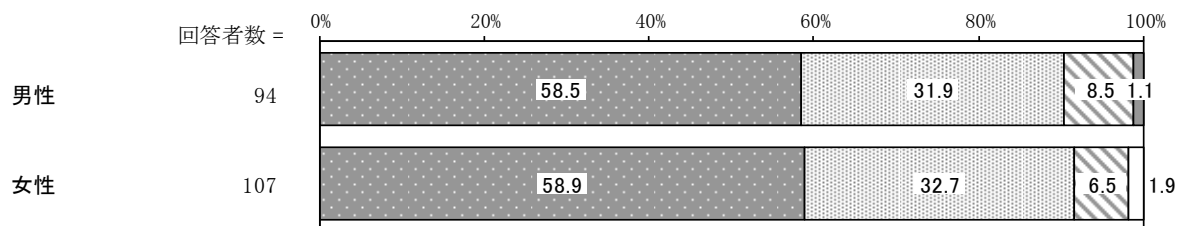
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



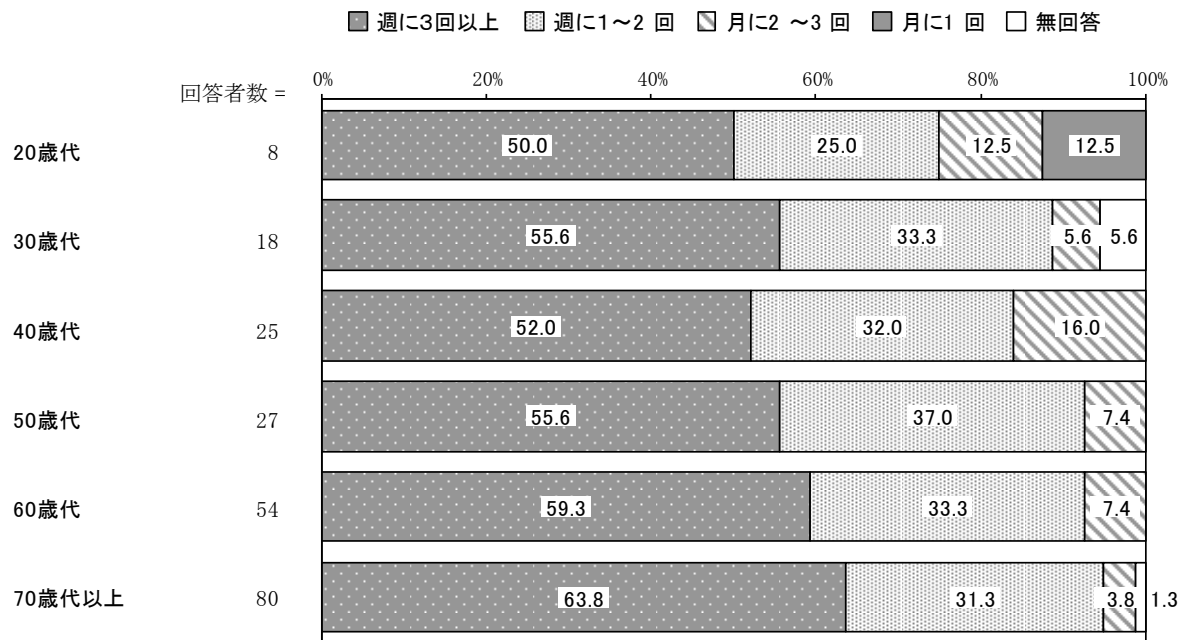
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



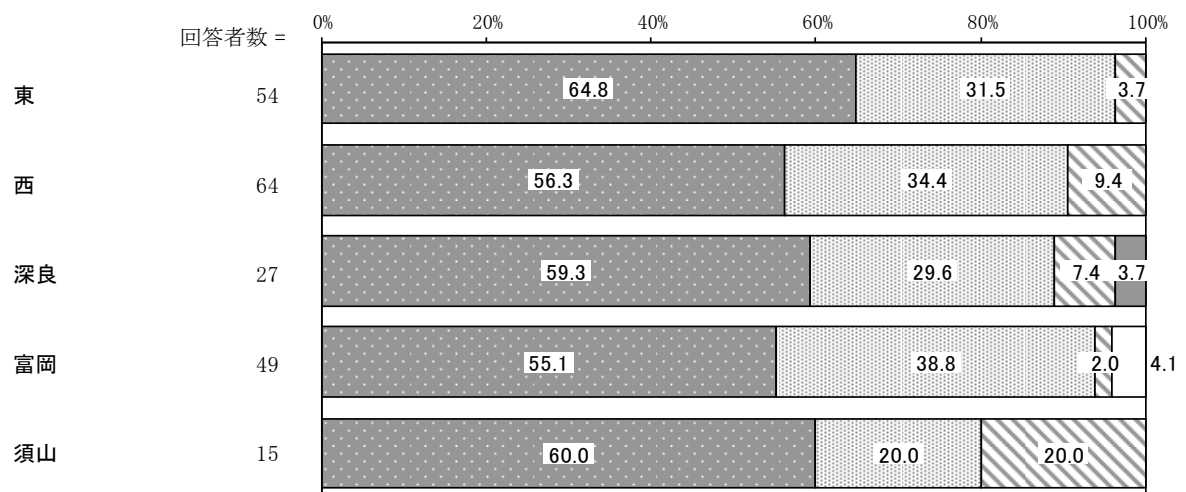
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「週に3回以上」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年齢に比べ、40歳代で「月に2～3回」の割合が高くなっています。



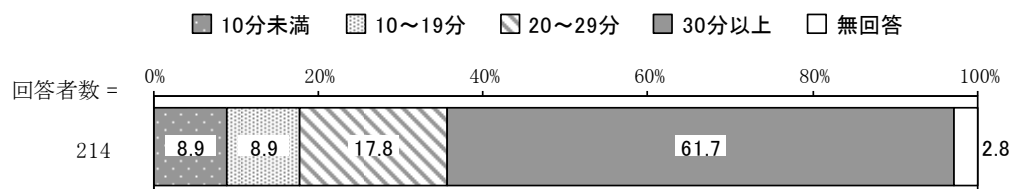
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、東で「週に3回以上」の割合が高くなっています。また、富岡で「週に1～2回」の割合が、須山で「月に2～3回」の割合が高くなっています。



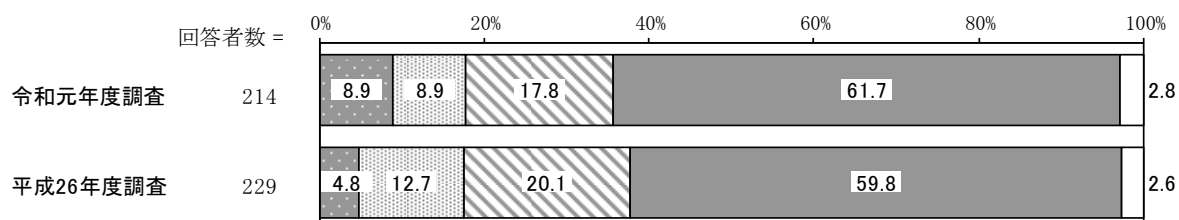
問 32－2 問 32 で「定期的な運動を 6 ヶ月以上している」「定期的に運動をしているが、まだ 6 ヶ月たっていない」と回答した方にうかがいます。
運動する日の 1 日の平均的な時間を教えてください。(○は 1 つ)

「30 分以上」の割合が 61.7%と最も高く、次いで「20～29 分」の割合が 17.8%となっています。



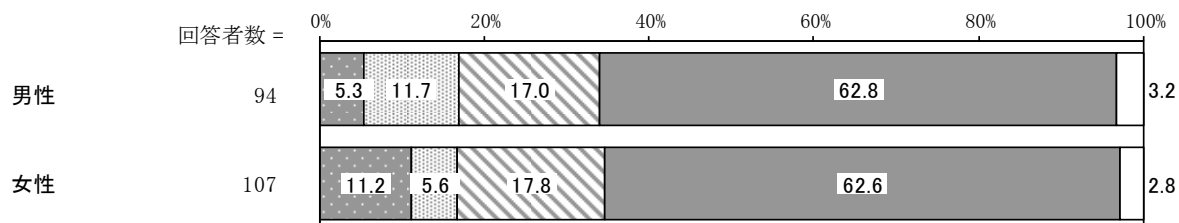
【前回調査との比較】

平成 26 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



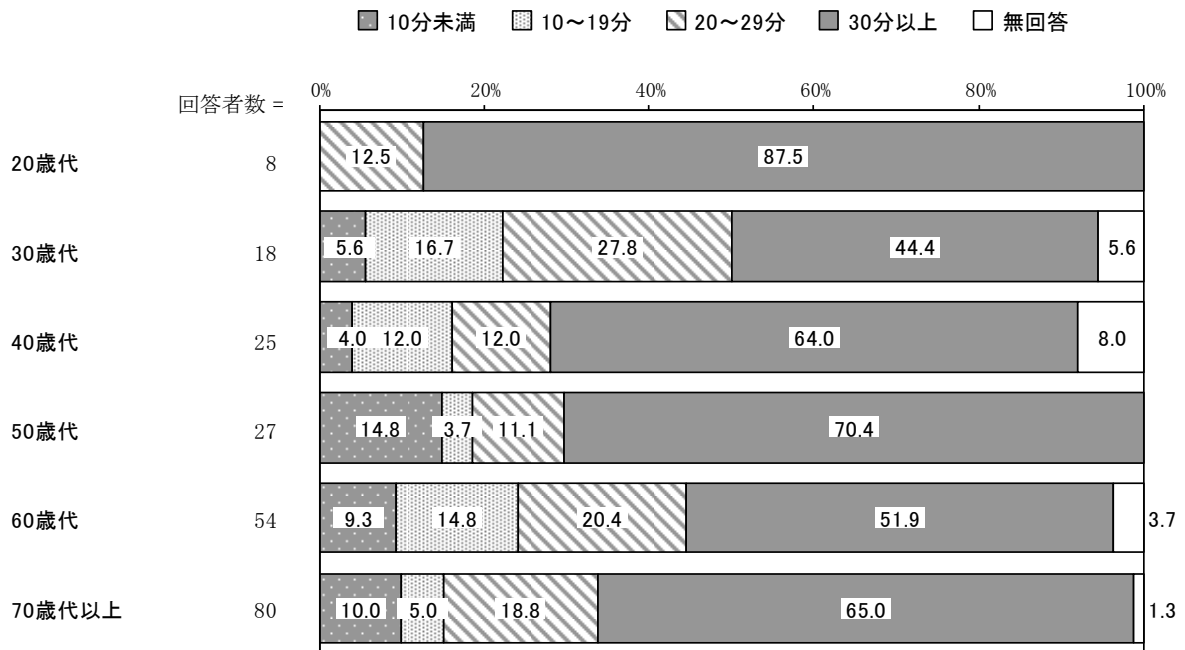
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「10～19 分」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「10 分未満」の割合が高くなっています。



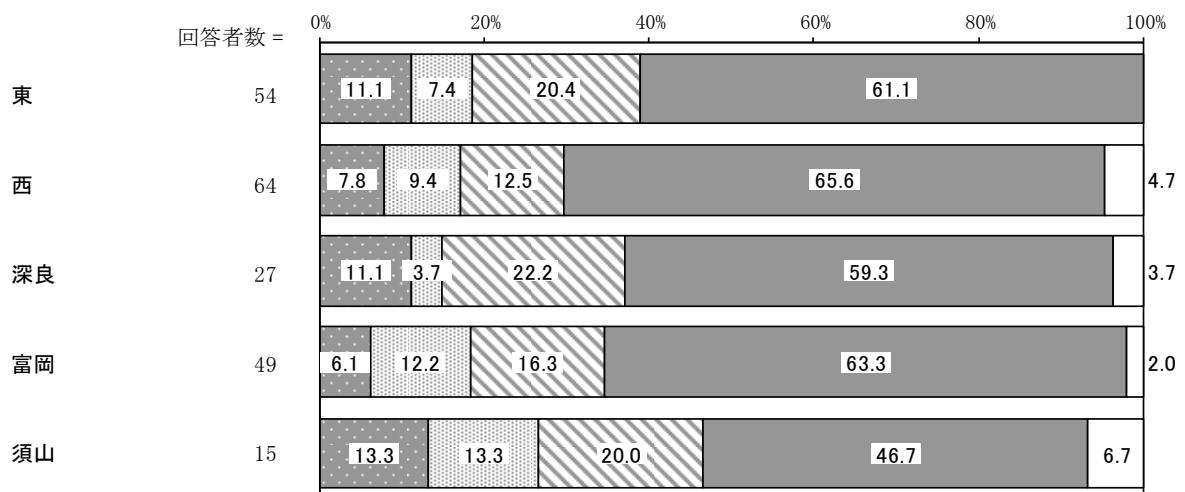
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、50歳代で「30分以上」の割合が高くなっています。また、30歳代で「10～19分」の割合が高くなっています。



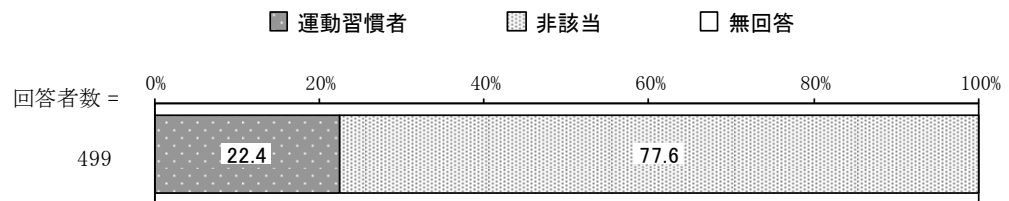
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西で「30分以上」の割合が高くなっています。



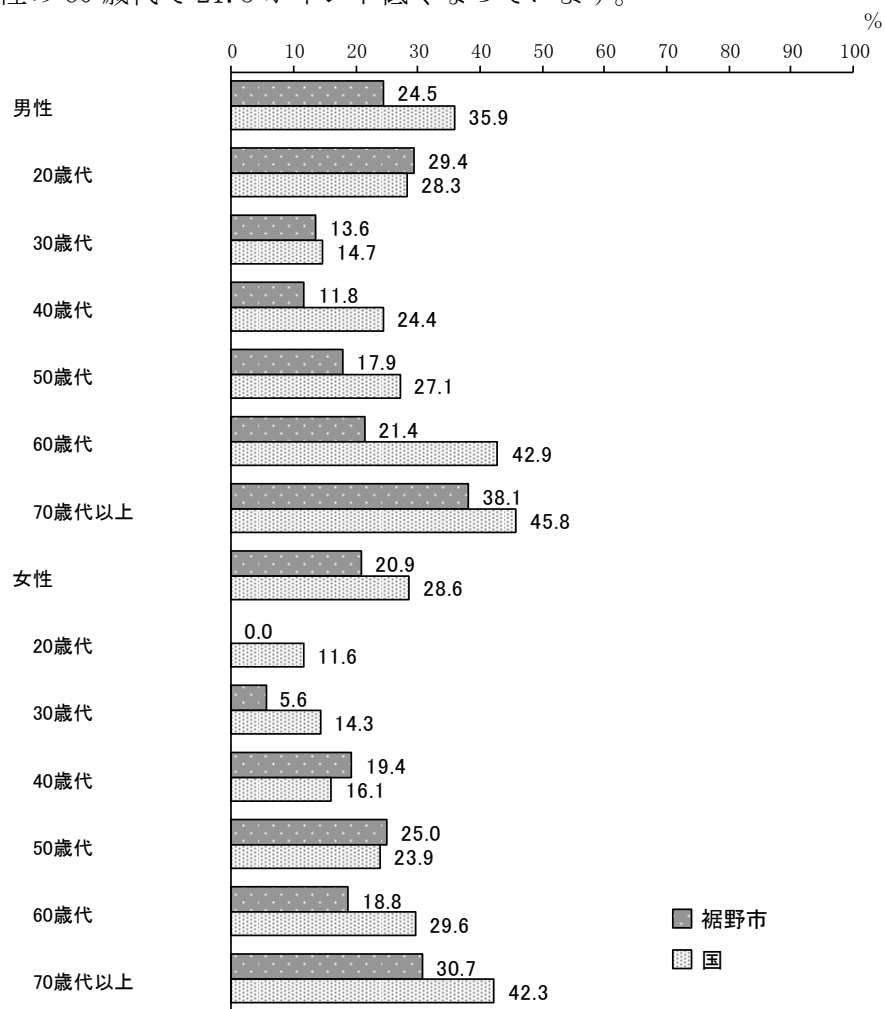
<運動習慣者（１回 30 分以上の運動を週 2 回以上実施し、１年以上継続している人）>

「運動習慣者」の割合が 22.4%、「非該当」の割合が 77.6%となっています。



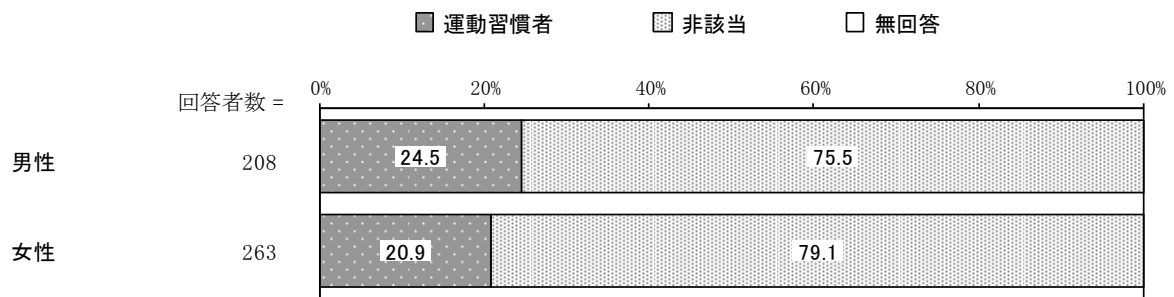
【国調査との比較（運動習慣者の割合）】

国調査（平成 29 年国民健康・栄養調査）と比較すると、男女とも国に比べ運動習慣者の割合が低く、特に男性の 60 歳代で 21.5 ポイント低くなっています。



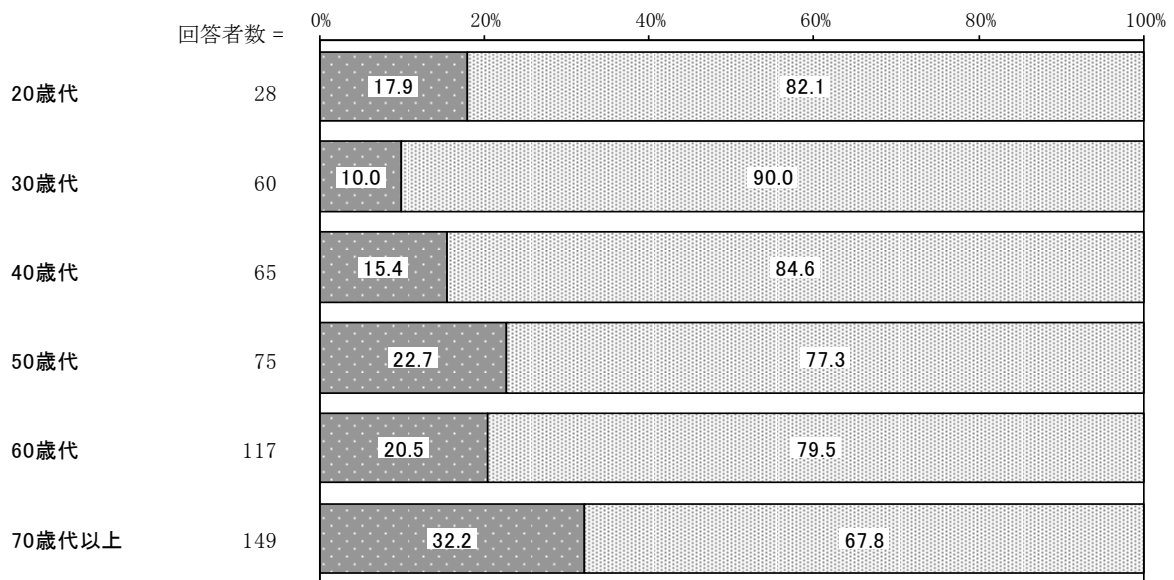
【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



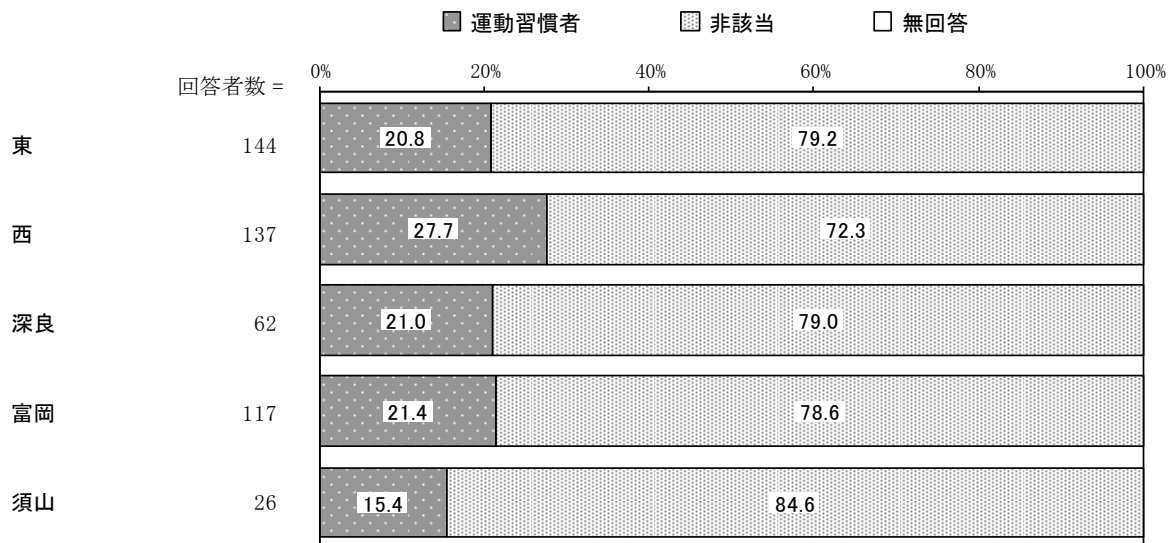
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70 歳代以上で「運動習慣者」の割合が高くなっています。また、30 歳代で「非該当」の割合が高くなっています。



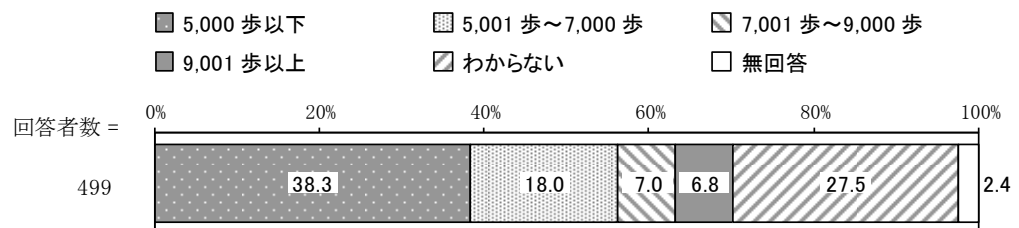
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西で「運動習慣者」の割合が高くなっています。また、須山で「非該当」の割合が高くなっています。



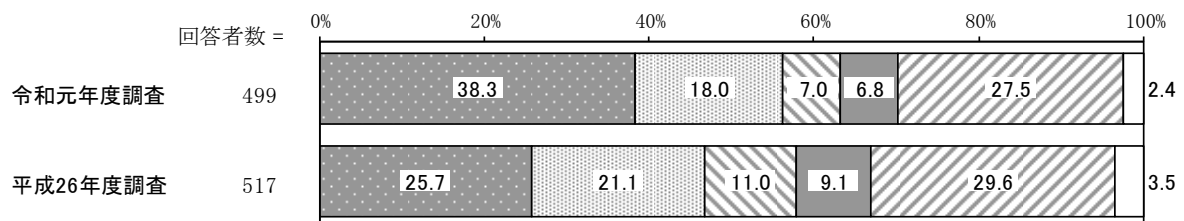
問 33 日常生活での平均の1日の歩数を教えてください。(○は1つ)

「5,000 歩以下」の割合が 38.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 27.5%、「5,001 歩～7,000 歩」の割合が 18.0%となっています。



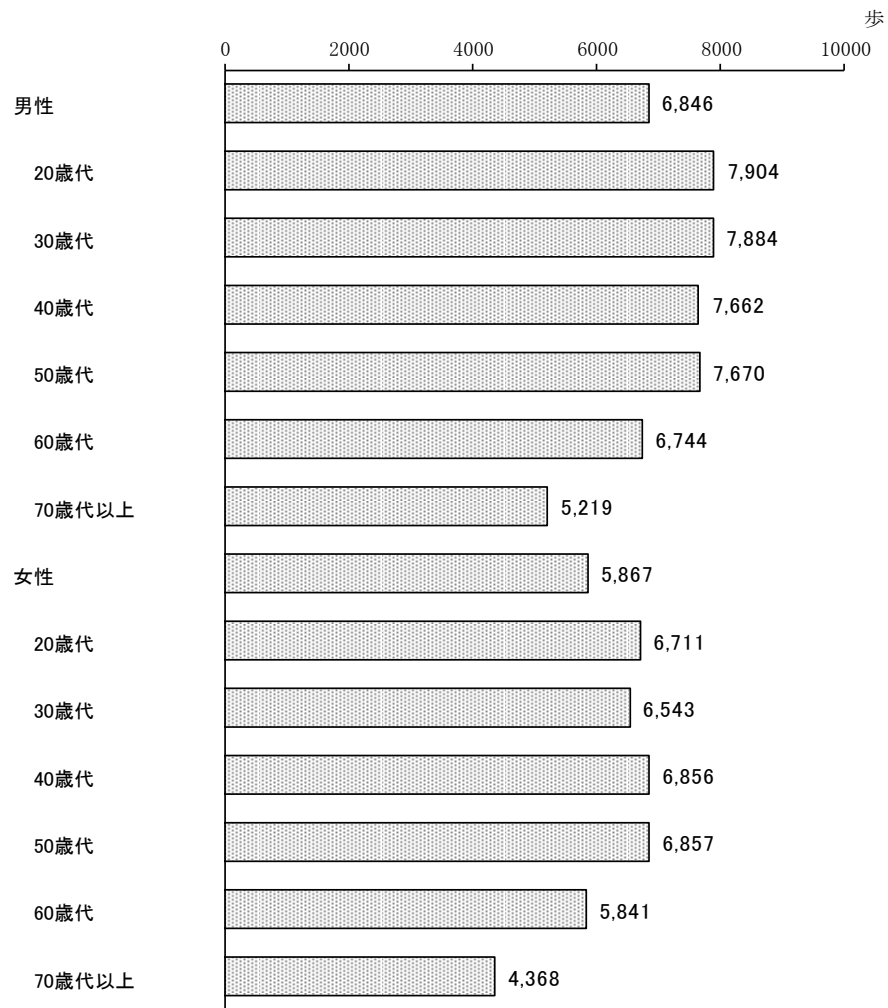
【前回調査との比較】

平成 26 年度調査と比較すると、「5,000 歩以下」が 12.6 ポイント増加しています。



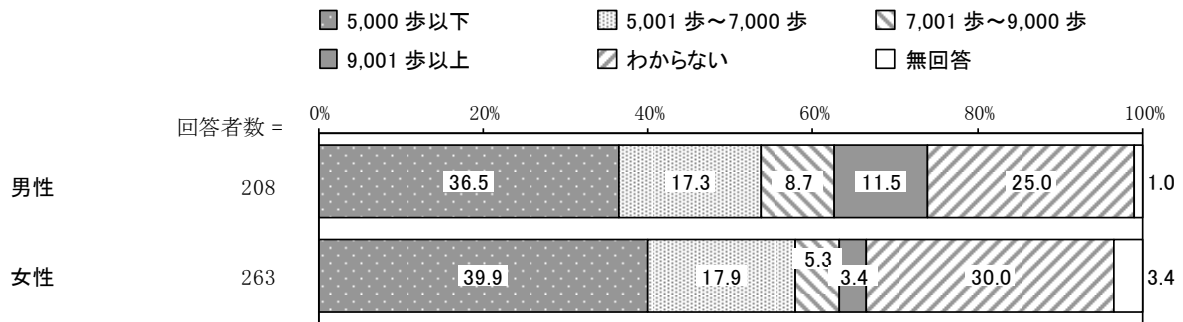
【国調査（参考）】

国調査（平成 29 年国民健康・栄養調査）では、歩数の平均値は男性で 6,846 歩、女性で 5,867 歩となっています。



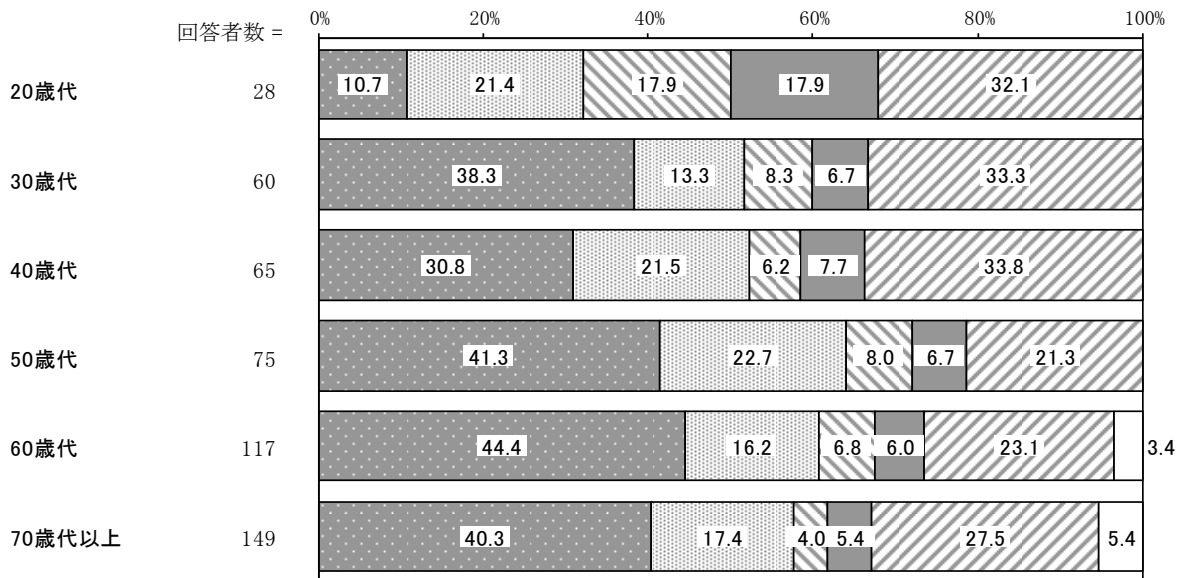
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「9,001 歩以上」の割合が高くなっています。



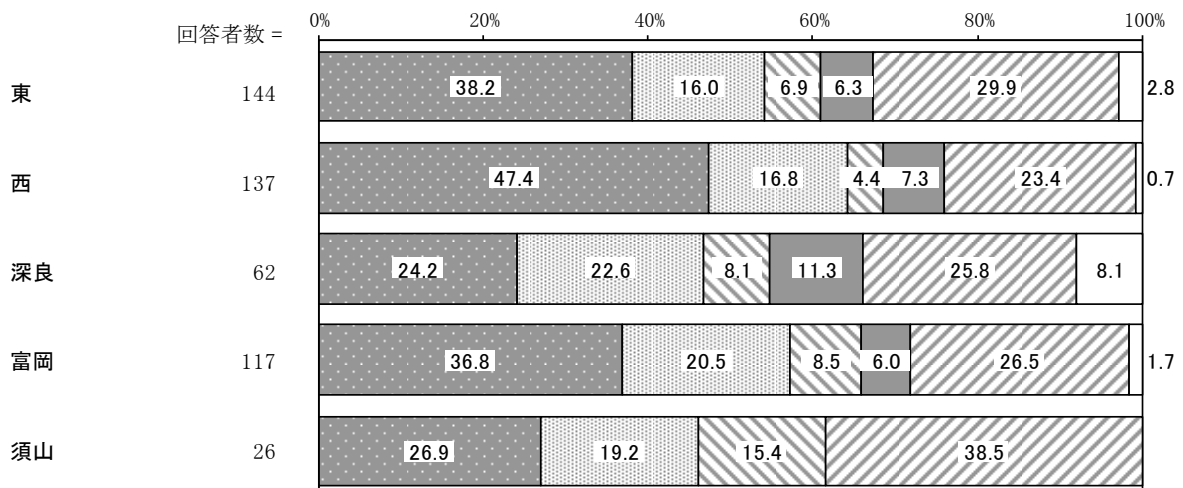
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、60 歳代で「5,000 歩以下」の割合が高くなっています。また、20 歳代で「7,001 歩～9,000 歩」「9,001 歩以上」の割合が高くなっています。



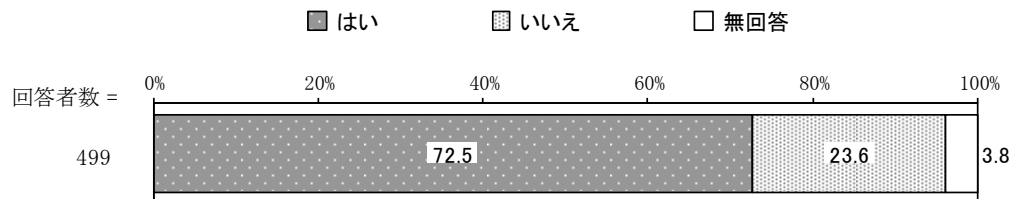
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西で「5,000 歩以下」の割合が高くなっています。また、深良で「9,000 歩以上」の割合が高くなっています。



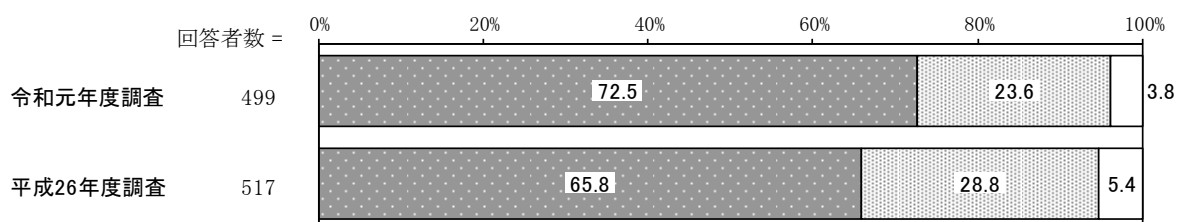
問 34 意識的に身体を動かすように心がけていますか。(○は1つ)

「はい」の割合が72.5%、「いいえ」の割合が23.6%となっています。



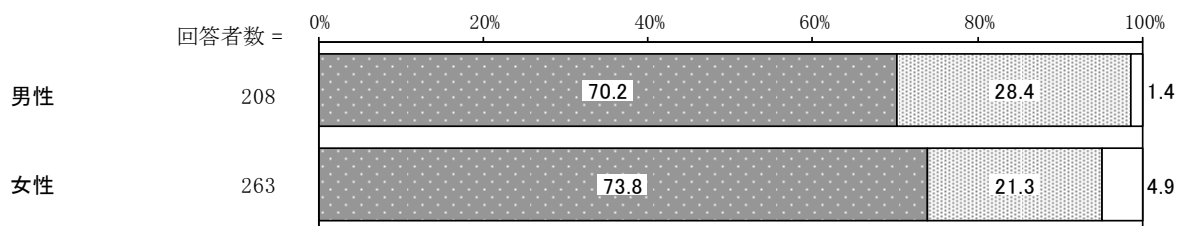
【前回調査との比較】

平成26年度調査と比較すると、「はい」が6.7ポイント増加し、「いいえ」が5.2ポイント減少しています。



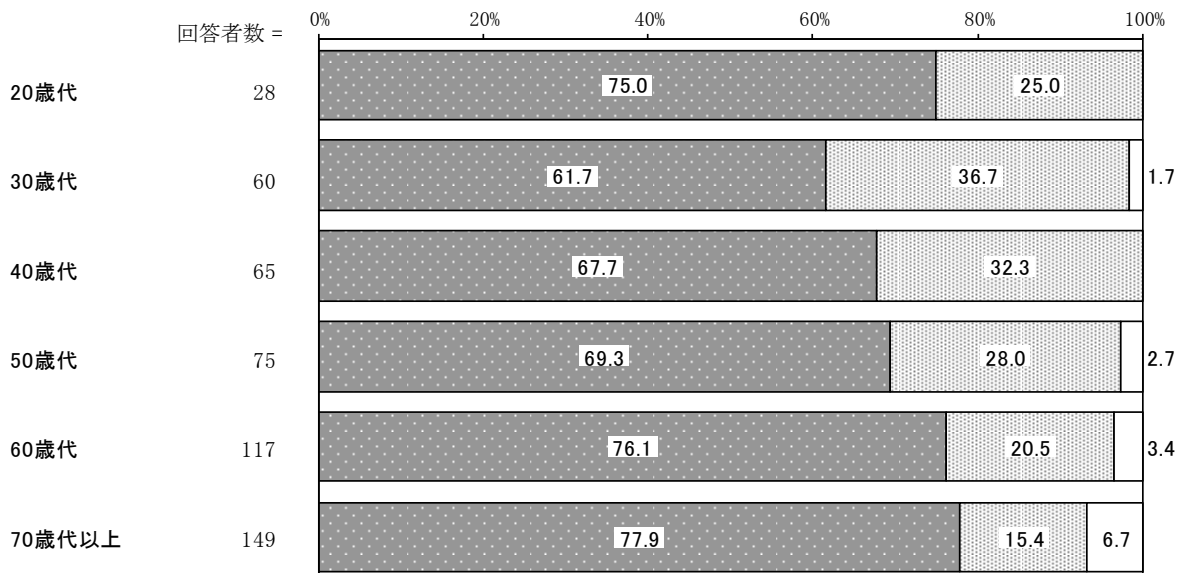
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。



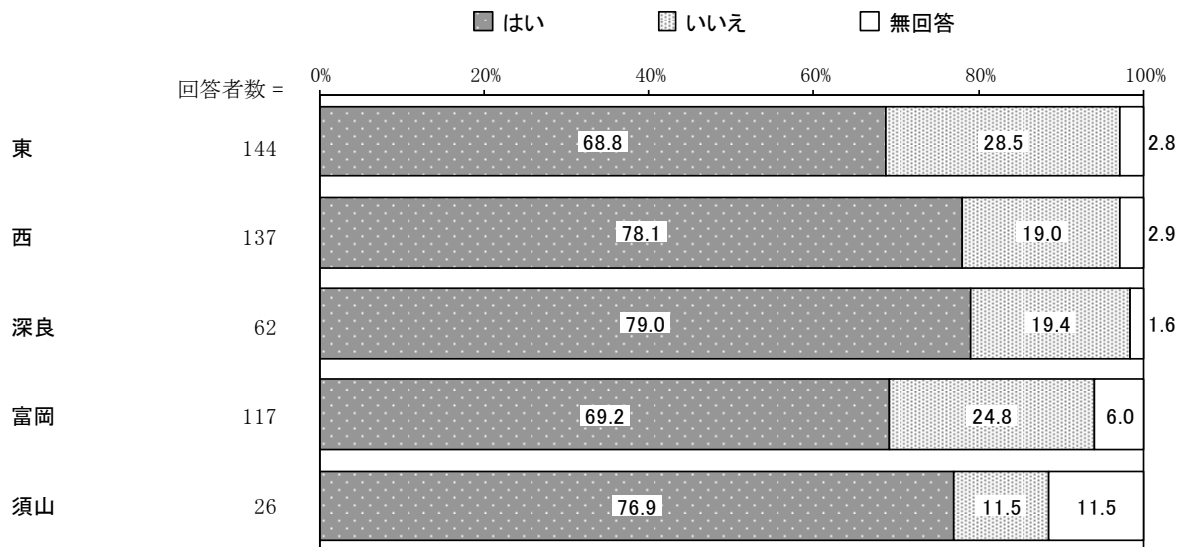
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、20歳代、60歳代、70歳代以上で「はい」の割合が高くなっています。また、30歳代で「いいえ」の割合が高くなっています。



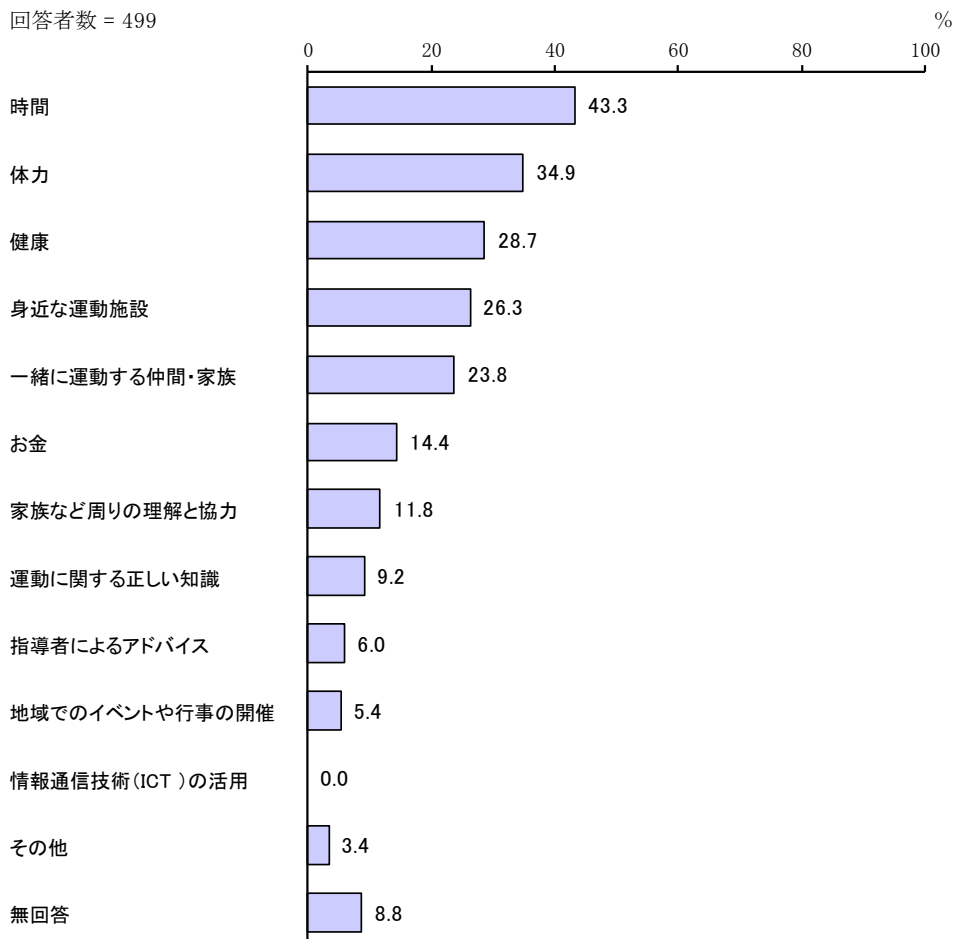
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、西、深良で「はい」の割合が高くなっています。東で「いいえ」の割合が高くなっています。



問 35 あなたが今後、運動を続ける（始める）ために、何が必要ですか。（3つまで）

「時間」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「体力」の割合が 34.9%、「健康」の割合が 28.7%となっています。



【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「健康」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一緒に運動する仲間・家族	家族など周りの理解と協力	地域でのイベントや行事の開催	身近な運動施設	指導者によるアドバイス	時間	お金	健康	体力	運動に関する正しい知識	情報通信技術（ＩＣＴ）の活用	その他	無回答
男性	208	22.1	10.6	6.3	27.9	4.8	43.8	15.4	24.5	34.6	10.6	—	5.3	7.7
女性	263	25.1	13.3	5.3	24.3	7.2	42.6	15.2	30.0	35.7	8.7	—	1.9	9.1

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「健康」「体力」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年齢に比べ、30歳代、40歳代で「時間」の割合が、20歳代で「一緒に運動する仲間・家族」「地域でのイベントや行事の開催」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一緒に運動する仲間・家族	家族など周りの理解と協力	地域でのイベントや行事の開催	身近な運動施設	指導者によるアドバイス	時間	お金	健康	体力	運動に関する正しい知識	情報通信技術（ＩＣＴ）の活用	その他	無回答
20歳代	28	32.1	3.6	14.3	17.9	—	50.0	25.0	—	25.0	7.1	—	7.1	14.3
30歳代	60	21.7	18.3	6.7	25.0	5.0	70.0	16.7	8.3	28.3	16.7	—	1.7	10.0
40歳代	65	18.5	12.3	—	27.7	1.5	70.8	18.5	15.4	30.8	4.6	—	3.1	7.7
50歳代	75	21.3	13.3	5.3	26.7	6.7	53.3	20.0	24.0	34.7	8.0	—	2.7	6.7
60歳代	117	23.1	7.7	3.4	31.6	8.5	43.6	17.1	41.9	36.8	12.0	—	2.6	5.1
70歳代以上	149	27.5	13.4	7.4	24.2	7.4	13.4	5.4	40.3	40.9	6.7	—	4.0	11.4

【地区別】

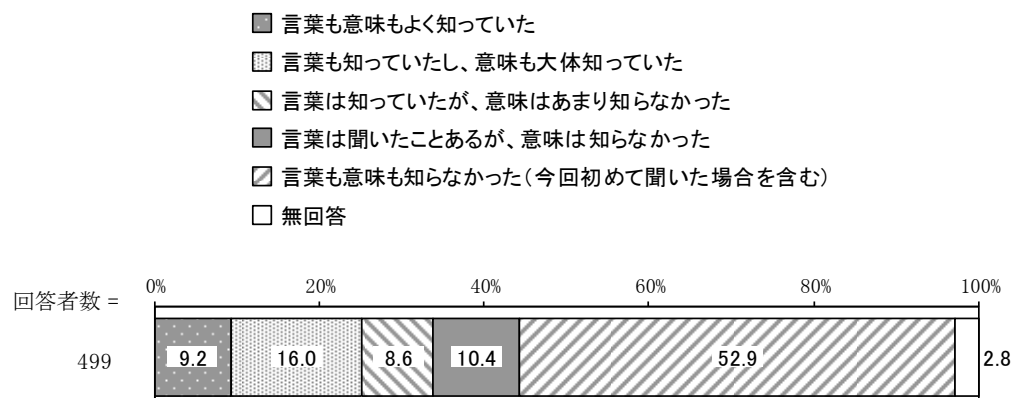
地区別でみると、他の地区に比べ、東で「体力」の割合が、深良、富岡で「一緒に運動する仲間・家族」の割合が高くなっています。また、富岡で「身近な運動施設」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	一緒に運動する仲間・家族	家族など周りの理解と協力	地域でのイベントや行事の開催	身近な運動施設	指導者によるアドバイス	時間	お金	健康	体力	運動に関する正しい知識	情報通信技術（ICT）の活用	その他	無回答
東	144	21.5	7.6	6.9	27.8	8.3	41.0	16.0	29.2	39.6	11.1	—	4.9	6.3
西	137	20.4	17.5	5.1	23.4	5.1	43.1	16.1	32.1	30.7	9.5	—	2.2	8.8
深良	62	27.4	9.7	4.8	22.6	6.5	41.9	21.0	24.2	33.9	8.1	—	6.5	9.7
富岡	117	29.1	14.5	5.1	32.5	5.1	44.4	9.4	28.2	35.9	7.7	—	0.9	9.4
須山	26	23.1	—	3.8	19.2	3.8	57.7	3.8	26.9	34.6	3.8	—	7.7	11.5

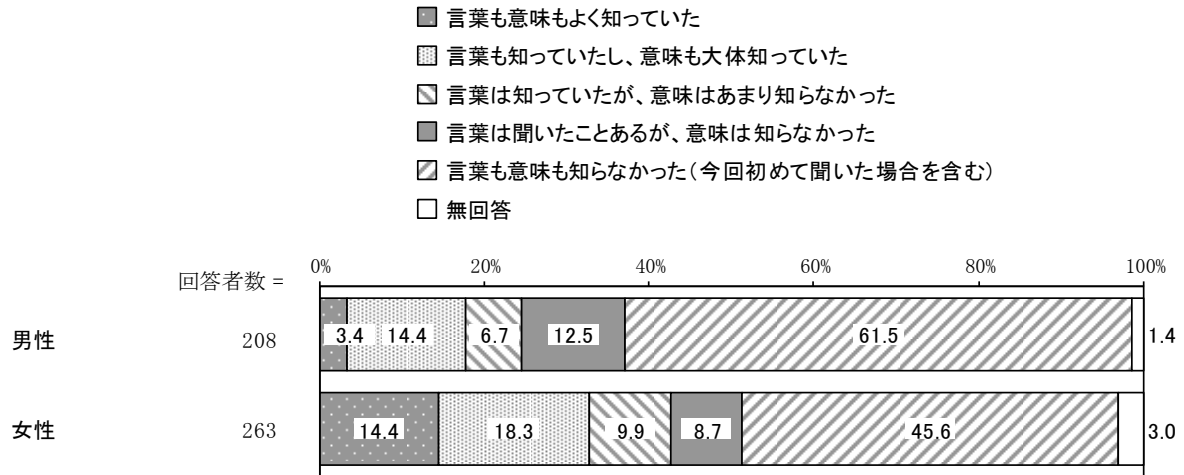
問 36 あなたはロコモティブシンドロームについて知っていますか。（○は1つ）

「言葉も意味も知らなかった（今回初めて聞いた場合を含む）」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」の割合が 16.0%、「言葉は聞いたことあるが、意味は知らなかった」の割合が 10.4%となっています。



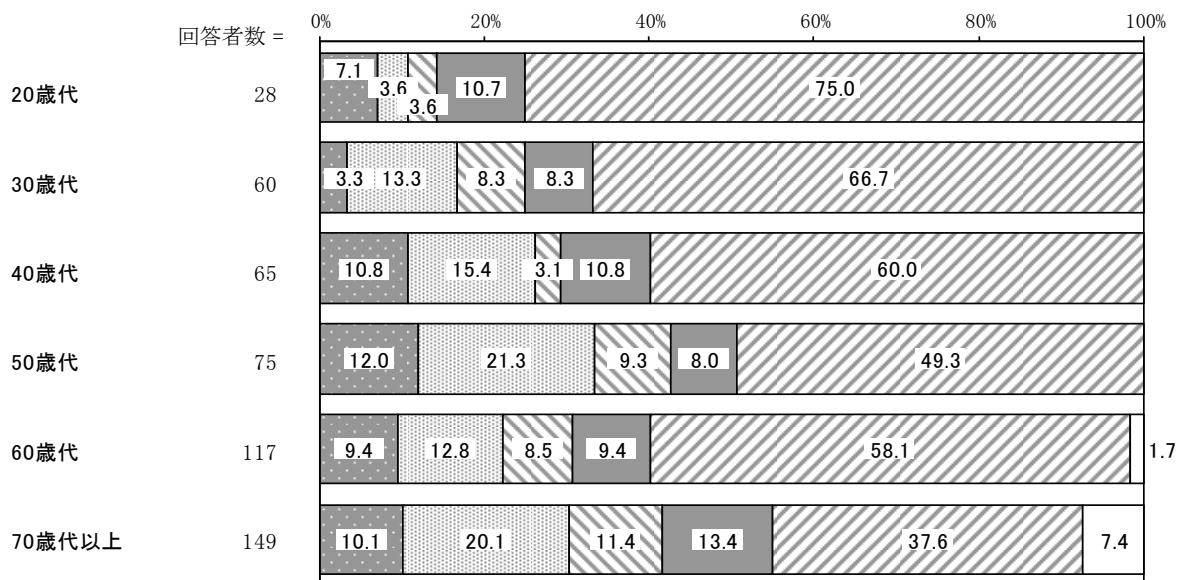
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「言葉も意味も知らなかった（今回初めて聞いた場合を含む）」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「言葉も意味もよく知っていた」の割合が高くなっています。



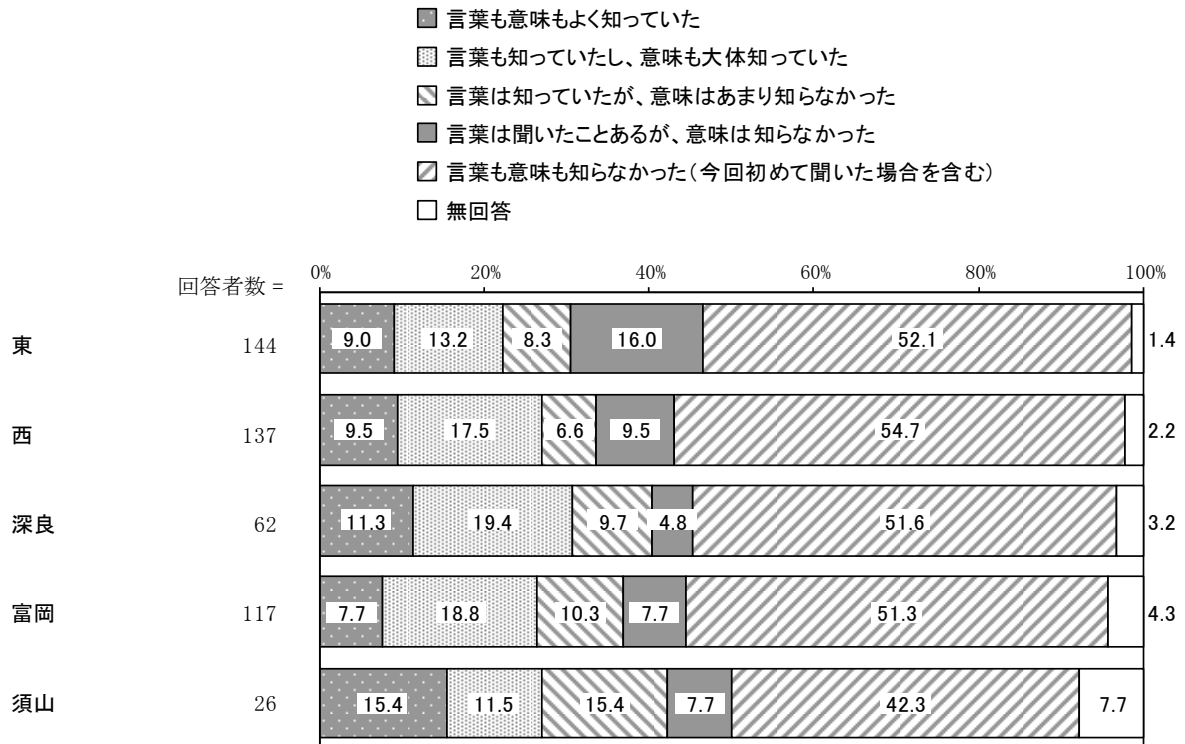
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「言葉も意味も知らなかった（今回初めて聞いた場合を含む）」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他の年齢に比べ、50歳代、70歳代以上で「言葉も知っていたし、意味も大体知っていた」の割合が高くなる傾向がみられます。



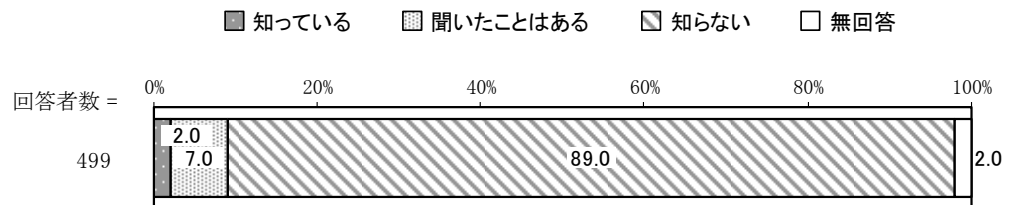
【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、東で「言葉は聞いたことあるが、意味は知らなかった」の割合が高くなる傾向がみられます。



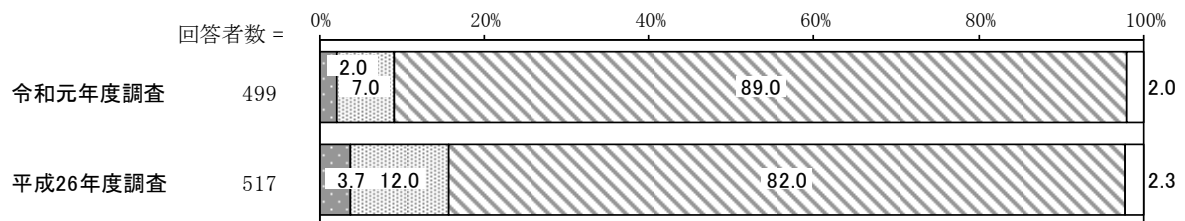
問 60 月曜日は「健康管理の日」、火曜日は「身体活動・運動」の日など曜日ごとにテーマがある「元気にかけめくーる あなたがつくる健康づくり実践カレンダー」を知っていますか。(○は1つ)

「知らない」の割合が 89.0%と最も高くなっています。



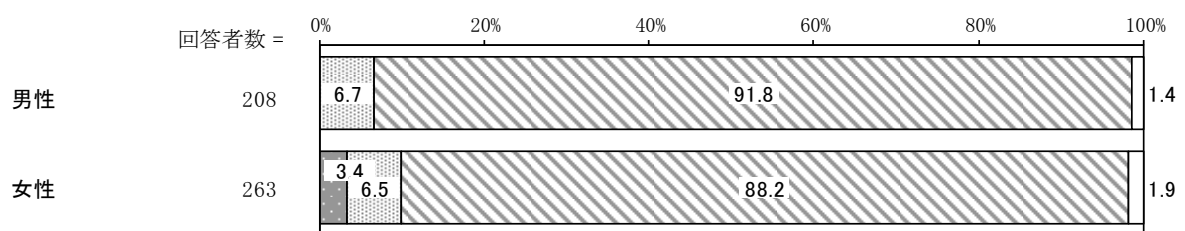
【前回調査との比較】

平成 26 年度調査と比較すると、「聞いたことはある」が 5.0 ポイント減少し、「知らない」が 7.0 ポイント増加しています。



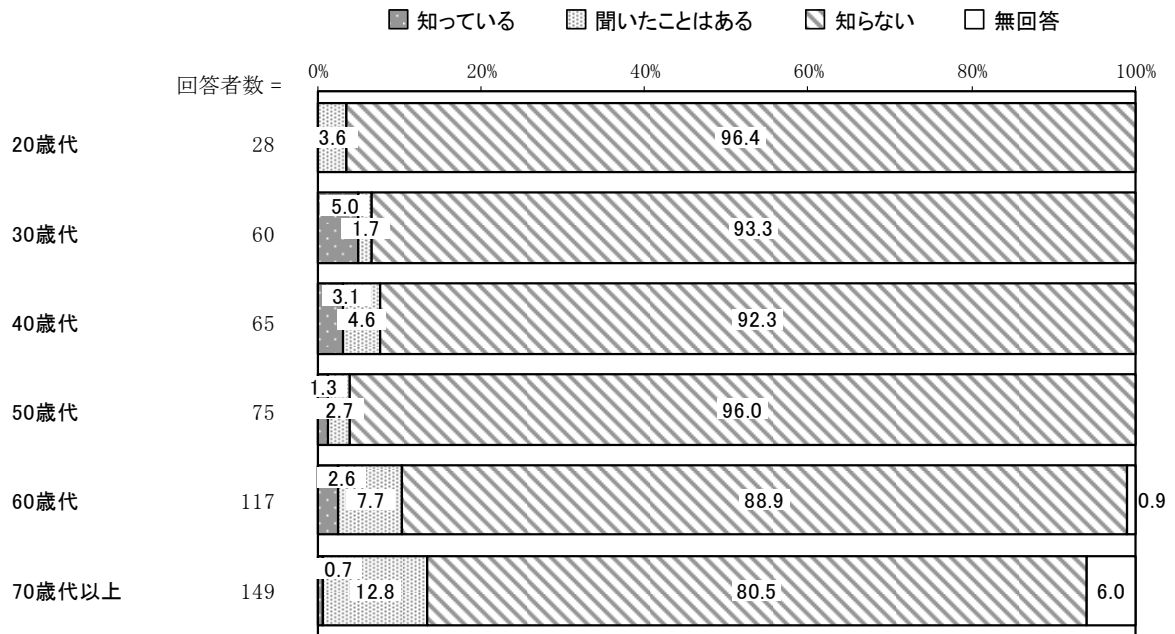
【性 別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



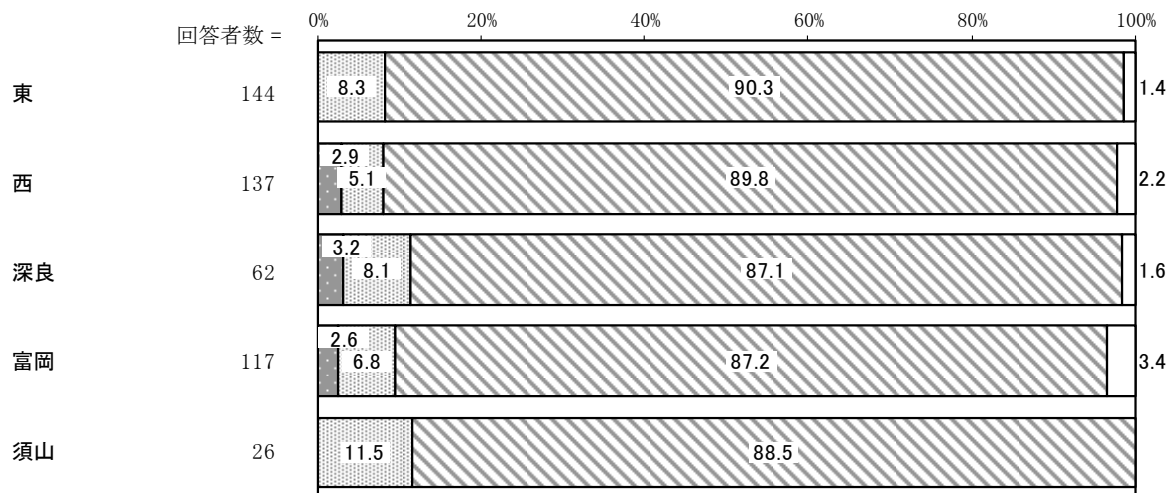
【年齢別】

年齢別でみると、他の年齢に比べ、70歳代以上で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



【地区別】

地区別でみると、他の地区に比べ、大きな差異はみられません。

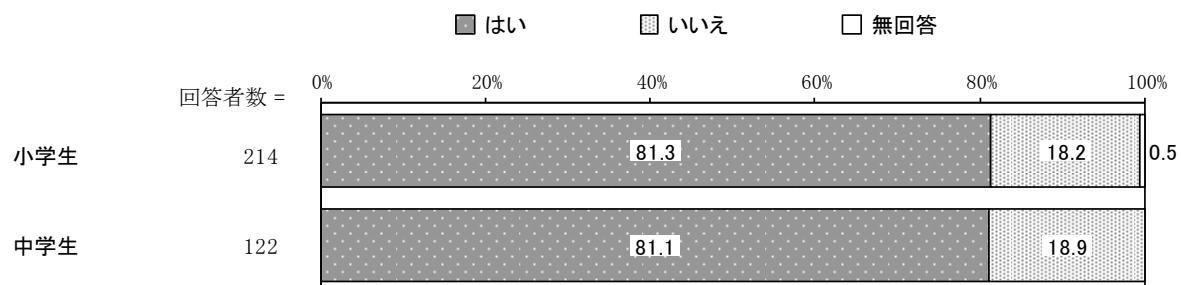


2 小学校・中学校調査

問5 あなたは、健康であると感じていますか。(〇はひとつ)

小学生では、「はい」の割合が81.3%、「いいえ」の割合が18.2%となっています。

中学生では、「はい」の割合が81.1%、「いいえ」の割合が18.9%となっています。

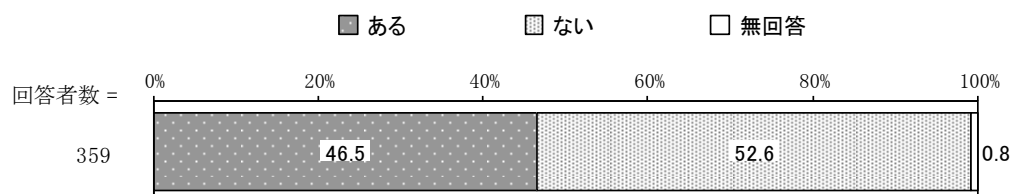


3 幼稚園・保育園年長児調査

(2) お子さんの健康状態や生活状況について

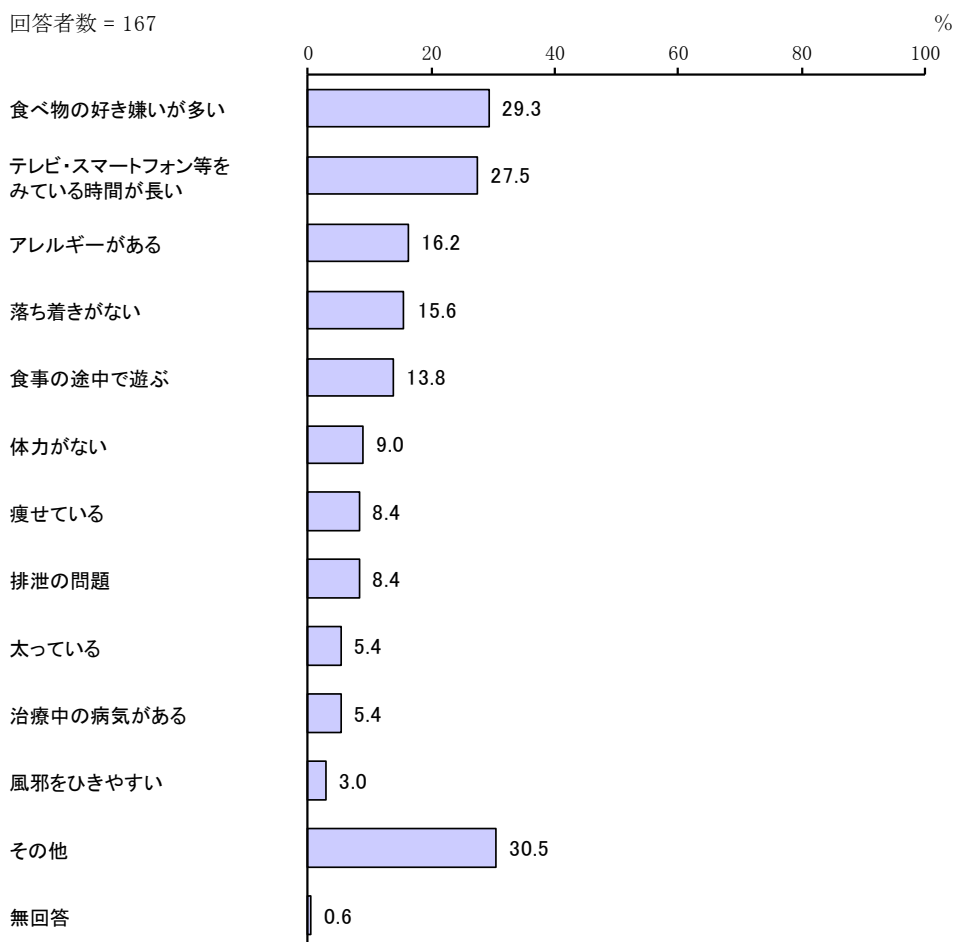
問4 現在、お子さんのことで、心配なことや困っていることはありますか。
(○は1つ)

「ある」の割合が46.5%、「ない」の割合が52.6%となっています。



問4-1 問4で「ある」と答えた方にうかがいます。
それはどのようなことですか。(○はいくつでも)

「食べ物の好き嫌いが多い」の割合が29.3%と最も高く、次いで「テレビ・スマートフォン等をみている時間が長い」の割合が27.5%、「アレルギーがある」の割合が16.2%となっています。

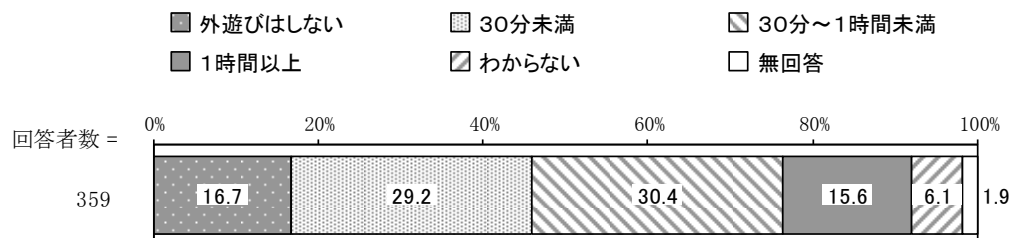


【その他の主な意見】

- ・言葉の遅れ
- ・指しゃぶり など

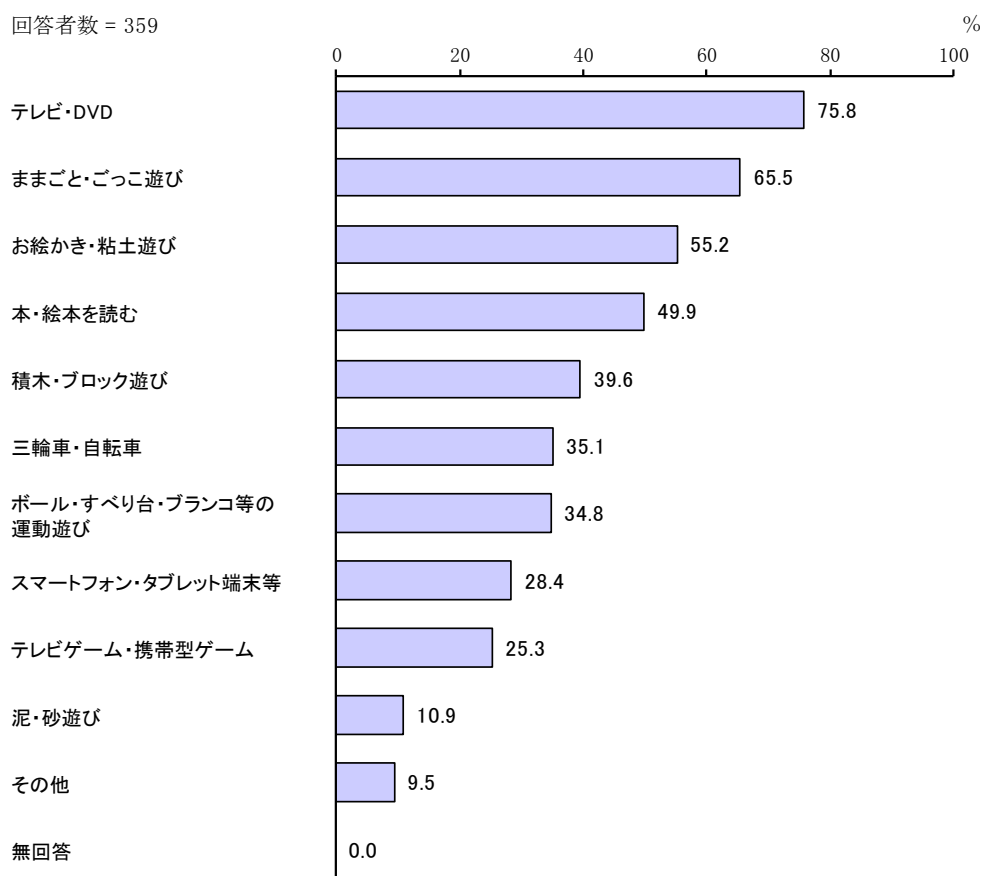
問 8 お子さんは、ふだんどのくらい屋外で遊びますか。ただし幼稚園・保育園での外遊びは除きます。(○は1つ)

「30分～1時間未満」の割合が30.4%と最も高く、次いで「30分未満」の割合が29.2%、「外遊びはしない」の割合が16.7%となっています。



問 9 お子さんは、普段はどのような遊びをしていますか。(よくする遊びすべてに○)

「テレビ・DVD」の割合が75.8%と最も高く、次いで「ままごと・ごっこ遊び」の割合が65.5%、「お絵かき・粘土遊び」の割合が55.2%となっています。



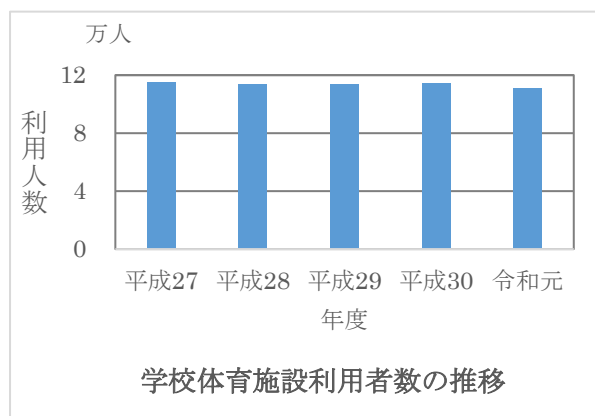
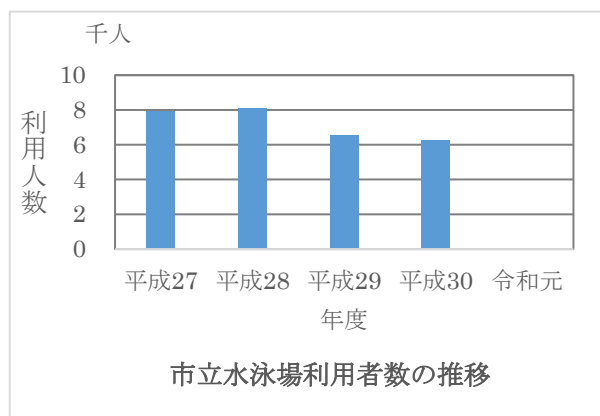
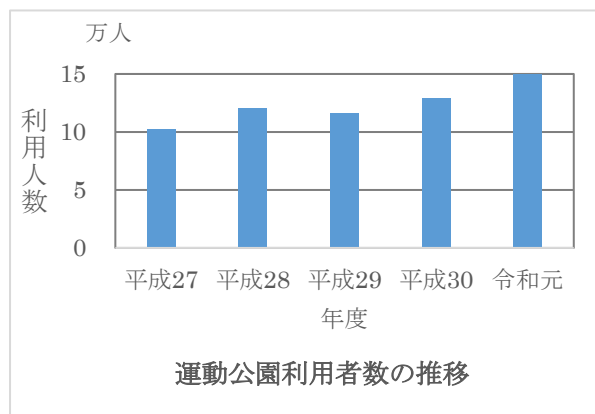
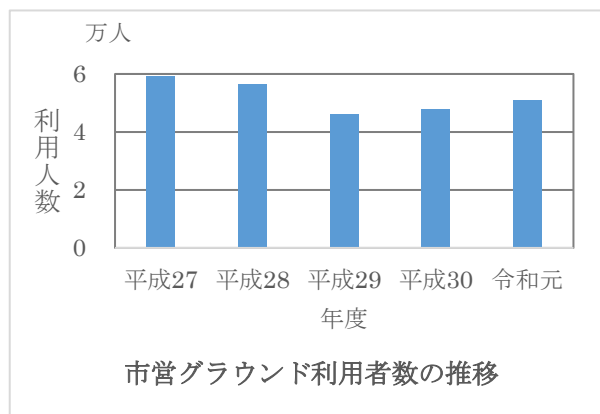
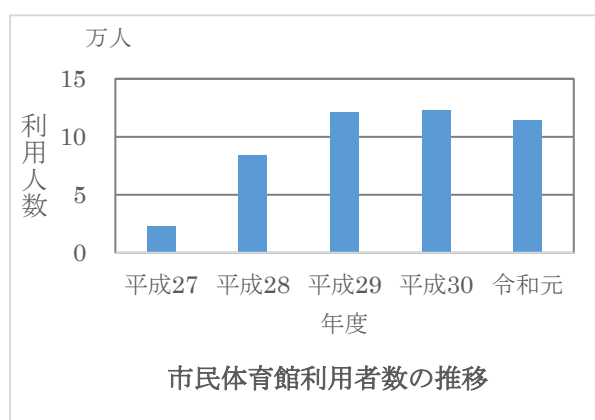
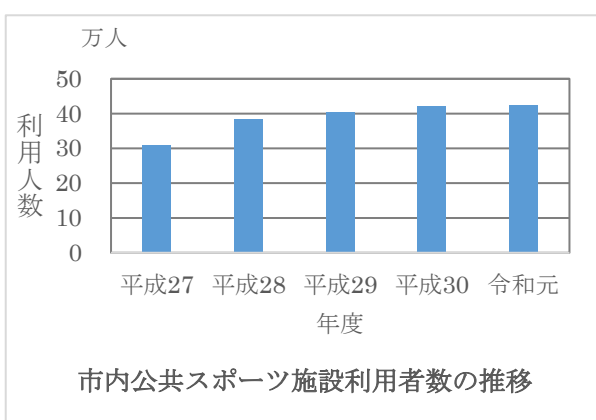
5 市内公共スポーツ施設の利用状況推移

(人)

	市民体育館	市営グラウンド	運動公園	市立水泳場	学校体育施設	計
平成27	23,208	59,205	102,525	7,893	114,879	307,710
平成28	84,285	56,526	120,689	8,098	113,851	383,449
平成29	121,333	46,174	115,792	6,535	113,773	403,607
平成30	122,920	47,854	129,254	6,236	114,254	420,518
令和元	114,128	50,726	149,215	0	110,703	424,772

市民体育館…平成27年7月6日から平成28年6月30日までリニューアル工事により閉鎖

市立水泳場…令和元年度は漏水により閉鎖



6 裾野市スポーツ推進審議会条例

平成 23 年 12 月 9 日 条例第 17 号

裾野市スポーツ振興審議会条例(昭和 49 年裾野市条例第 15 号)の全部を改正する。

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号。以下「法」という。)第 31 条の規定に基づき、裾野市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(職務)

第 2 条 審議会は、次に掲げるスポーツの推進に関する重要事項について裾野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) 法第 10 条第 1 項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること
- (2) 法第 35 条の規定により補助金の交付について意見を述べること。
- (3) スポーツの施設及び設備の整備施設又は設備の運営又は整備に関すること。
- (4) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (5) スポーツ事業の実施及び奨励に関すること。
- (6) スポーツ顕彰対象者の選考に関すること。
- (7) スポーツの団体の育成に関すること。
- (8) スポーツの事故の防止に関すること。
- (9) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 20 人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が市長の意見を聴いて任命し、又は委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) スポーツ団体の代表者

3 審議会に会長及び副会長を起し、委員の互選より定める。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長の職務)

第5条 会長は、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数を持って決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営その他必要な事項は、教育委員会で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の裾野市スポーツ振興審議会条例(以下「改正前の条例」という。)第3条第2項の規定により任命又は委嘱された裾野市スポーツ振興審議会(以下「旧審議会」という。)の委員である者は、この条例の施行の日に、第3条第2項の規定により、審議会の員として任命又は委嘱されたものとみなす。この場合において、任命又は委嘱されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、同日における旧審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

3 この条例の施行の際現に改正前の条例第3条第3項の規定により選任された会長又は副会長である者は、それぞれ、この条例の施行の日に、第3条第3項の規定により審議会の会長又は副会長として選任されたものとみなす。

附 則(平成26年条例第3号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。



第2期裾野市スポーツ推進計画（令和3～7年度）

令和3年3月 発行

編集・発行 裾野市教育委員会

静岡県裾野市佐野1059番地

電話 055-992-1111